

束縛ヲ受ケズシテ自由ニ其ノ理想ヲ行ヒ得ル完全ナル共和國ヲ建設セント欲セリ。貴族制ヲ採レル「スパルタ」Spartaハ稍々彼ノ理想國ニ近キモノナリキ。

近世ニ於ケル法治國ハ其ノ君權制度タルト民權制度タルトヲ問ハズ其ニ所謂自然法理想法ヲ模範トシテ認定セラレタル國法ヲ有シ自然法理想法及ビ國法ノ理法ニ通達セル精神的貴族ヲ選ビテ國家ノ表現組織人ヲ構成セシメ總攬者ト雖モ濫リニ是等表現人ノ權限ヲ侵犯スルコトヲ得ズ。其ノ權勢ハ善美理法ヲ包容シテ普遍力ノ性質ヲ有スルモノナルヲ以テ「プラトーン」ノ理想ノ實現セラレタル一段階ト見ルコトヲ得ベシ。然レドモ「プラトーン」ノ理想國ハ「ノノイ」Nomoiニヨレバ法治國ナレドモ「ポリタイア」Politeiaニヨレバ形式的ノ認定法ヨリモ寧ろ賢人ヲ重ンズルモノナリ。法治國ノ運用ガ認定法ノミニ依リテ爲サルルヲ得ズ眞善美ヲ達觀シ正義公平ヲ實行スル人物ヲ待ツテ始メテ全キヲ得ベシトナセルハ特ニ注意スベキ所ニシテ實ニ「プラトーン」ノ達見トイフベシ。何トナレハ完全ナル品質ヲ有スル表現人ハ發達ナクハ法治ハ全ク意味ヲ爲サザレバナリ。認定法ハ反ツテ障礙物ニ外ナラザレバナリ。(認定法ト表現人

ガ相待ツ關係參照) 而シテ「プラトーン」ノ當時ニ於テハ認定法ト理想トハ懸隔著シカリシガ故ニ彼ガ認定法ヲ輕視シ特ニ賢人ヲ重視セルハ誠ニ故アリトイフベシ。

君權制ノ善キヲ言ヒツツ何故貴族制ヲ採用セシカハ後ニ至リテ分明スベキガ是レ日本ト大ニ異ナル所ナリ。希臘ニモ日本ノ如キ君主アラバ「プラトーン」ノ結論ハ必ズ異ナリシナラン。

「プラトーン」ノ缺點チイヘバ其ノ理想國ノ小サ過アルニ在リ「ライブニツ」ハ世界統一ヲ理想トセリ而シテ今日著者實行セラレツツアルノ傾向ヲ見ル。此ノ方面ヲ除ケバ「プラトーン」ノ實ニ偉大ナルハ争フ能ハズ。

第二 國家ハ自己ノミヲ以テ事足ルモノニシテ自ら其ノ目的ヲ達シ得ベキモノナリ。「プラトーン」ガ多數ノ小國家ヲ合同シテ大國ヲ組成セント企テズ又各國互ニ相待ツテ發達スベキ所以ニ重キヲ置カザリシハ缺點ナレドモ國家ガ以テ自己ノミニテ事足り得ルモノトセシハ極メテ正當ナリ。其ノ爲ニ國家ガ其ノ内部ニ精神ノ有ラユル方面ヲ網羅シテ獨立ノ存在ヲナシ獨立シテ其ノ内部ノミニ於テモ其ノ目的ヲ達シ得ルコトヲ要ス。サレバ國家ニモ理性欲性及

ビ其ノ間ニ存スベキ斷行力ヲ具備セザルベカラズ。

抑モ「プラトーン」ニヨレバ精神ハ「イデア」[Idea]ト「メーオン」[Meon]トニヨリ成レドモ、尙理想界ト現象界トノ中間ニ立チ「イデア」ヲ看取シテ之ヲ現象界ニ實現スルコトヲ其ノ任務トナス。此ノ宇宙的ノ事柄ハ、一個人内部ノ心理状態ニモ現ハレ、各人ニハ理性ト、欲性ト、前者ヲ採リテ後者ニ強ヒントスル斷行力ト在リ。國家ハ個人ヨリ成ル一體全部ナレドモ個人ヨリモ更ニ大ナル精神的ノ存在ヲナシ、個人ノ精神ニ該當スベキ三種ノ部分ヲ有ス。此ノ精神ハ、實ニ彼ノ理想、國論、骨髓ナリ。恰モ其ノ頃希臘ニテハ學問隆盛ニ赴キタルノミナラズ、植民地ノ繁盛、通商貿易ニヨリテ其ノ經濟状態ヲ一變セシメ、經濟的要素ハ社會ノ一大動力タルニ至リ、同時ニ戰亂モ亦交起リテ、強力ガ社會力ノ重要ナル部分ナルコトガ著シク證明セラレタルヲ以テカ、彼ノ理性欲性及ビ斷行力ノ心理說ハ最モ能ク社會組成ニ適合セラルルコトヲ意識セシメタリ。尙當時希臘ノ哲學者ニ於テモ、「イオニア」植民地ノ「デーモクリトス」ハ、原子ノ目的ナキ運動ヲ中心トシテ宇宙ノ機械觀ヲ唱導シ、性欲詭辯論者ハ自由偶然ナル權勢ヲ中心トシテ一

印度古代ノ四姓參照

國家ニハ血アリ、肉アリ、骨アリ、理想アリ

種ノ自然法說ヲ骨髓トシカ、行「アテーネ」ノ「ソークラテース」ハ、理智ヲ中心トシテ社會ノ改造ヲ爲サザルベカラザルコトヲ教ヘタリ、性理。此ノ原子ノ要求、強力タル權勢及ビ至高ナル理ノ三者ハ、偶然ニモ其ノ頃希臘社會ヲ支配セシ各種ノ力ニ相應セシモノナリ。「プラトーン」ハ善美ヲ標準トセル精神ノ一大調和ヲ前提トナシ、「ソークラテース」ノ精神ニ據リツツ理性、斷行力及ビ欲性ノ三者ヲ社會精神ノ各作用各部分ト認メ、自ラ技術家創設家ノ地位ニ立チテ其ノ理想ヲ畫カントセリ。(禪宗ノ三句三立三要參照、客觀觀念論主觀觀念論及ビ實證論ノ三者對立參照、理、自由力及ビ需要ノ對立參照)

是ニ於テカ「プラトーン」ハ、統一的國家ヲ以テ治者階級ト職業階級トニ由リ組成セラレベキモノトセリ。治者ノ階級ハ理法ヲ司ル賢人即チ哲學者ト、其ノ命令ノ斷行ヲ司ル役人即チ武士トヨリ成リ。職業階級ハ國家ノ欲性ヲ現ハス農工商ヲ含ム。賢人ノ階級ハ決定者命令者ナリ。農工商ノ階級ハ賢人ノ命令ニ服從シ、自己ヲ忘レズシテ財物ノ増殖獲得ヲ分擔シ、役人武士ノ階級ハ兩者ノ中間ニ在リテ賢人ノ決定ヲ受ケ、内ニ對シテハ農工商ヲ支配シ、外ニ對シテハ國家

ヲ保護スベキ者ニシテ執行者ナリ。是等ノ三階級ガ圓滿ニ調和セラレテ、茲ニ完全ナル國家ヲ生ジ自己ノ力ニヨリ自己内部ニツキ徳ヲ完成シ得ベキ全部ト爲リ得ルモノナリ。(印度古代ノ四姓參照) 惟フニ現今ノ立憲國ノ如キハ、プラトーンノ各階級ヲ更ニ圓滿ニ組成セシメタルモノニ外ナラザルナリ。自然ノ理法ヲ尊重スルト共ニ益、權力ノ普遍的ナル斷行力タル所以ヲ確實ニシ、出來得ル限り其ノ綜合分析ノ兩方面ヲ發揚シ、先ヅ各個人竝ビニ全部ノ需要ヲ是認スルニ至リシハ、プラトーンノ國家構成ノ三部分ヲ思フ存分ニ偏頗ナク是認シツツアルモノニシテ、差シ當リ法理上ニ於テハ、理法ヲ以テ最高ト認メツツアルコトモ、亦「プラトーン」ノ思想ト異ナルコトナシ。

自然ノ事實トシテハ理、自由力及ビ需要ノ三者カ前後ナク存在シ、見方ニヨリ何レモ他ニ優リ又他ニ劣ルモノトス。之ヲ認定上ノ事實トシテ見レバ、最小限度ノ國法ト最小限度ノ權力ト最小限度ノ財物竝ビニ雜多ノ要求トハ相互ニ上トナリ又下トナルモノナレドモ、唯理法ノ筋道ノ研究ヨリ觀レバ、以上ノ前提ノ下ニ第二段ニ於テ理ガ最高ナルモノナリ。

印度ノ婆羅門教時代ニハ、王者武士ヨリモ此ノ婆羅門族ガ一番上位ニ在リキ。故ニ權力ノ拘束ヲ受ケズシテ十分ニ信仰並ビニ哲理ノ發達ヲ成スヲ得タリシナリ。

第三 國家ハ各個人ヨリ成レドモ夫自身統一的全部ヲ爲ス。是故ニ國家ニハ組成アリ、此ノ組成分子タル各個人ハ其分ニ從ヒ公平無私ナラザルベカラズ。其ノ司ル所ニ應ジ個性ノ偶然ヲ棄テテ全部ニ歸一セザルベカラズ。而シテ最も公平無私ナルコトヲ要スルモノハ治者ノ階級ナリ。是故ニ此ノ制度モ治者ノ階級ト職業階級トニ從ツテ異ナラザルベカラズ。是等ノ階級ニ分ツコト能ハザル多數政治ノ國ハ缺點アル國家ナリ。各個人特ニ治者ノ階級ヲシテ公其心ヲ有セシメ、國家ノ一體タル所以ヲ發揚スルニハ二方面ヨリスルモノナリ。

一 其一ハ各個人ノ主觀的状態ノ改善ナリ。先ヅ治者階級ニ屬スル賢人竝ビニ武士ヲシテ其ノ私心ヲ捨テシムルニ在リ。賢人ハ其ノ私ヲ捨テテ智ノ徳ヲ養ヒ公平ニ命令シ。役人及ビ武士ハ我ヲ捨テテ其命令ヲ聞キ、私ナク之ヲ實行スル勇ノ徳ヲ養ハザルベカラズ。農工商ハ其ノ私ヲ去リタル根據ノ上ニ其ノ私ヲ主張スルコトヲ要スルガ故ニ、常ニ賢人ノ命令ヲ聞キ、武士役人ノ支配ノ

各人ノ生産
ハ社會ノ生
産ナリ吾人
ハ其ノ表現
者タルノミ

男女アルハ
普通性ノ維
持發達ノ理
想實現ト爲

人同モ男
リ種子ヲ取
ルガ速シ此
點ヲ古ノ一
夫多妻制ハ
正當ナリキ

下ニ立チテ自己ノ要求ヲ制限シ又自己ノ行動ヲ規律セザルベカラズ。故ニ其ノ研クベキ徳ハ節制ニ在リ。
二 其二ハ客觀的ノ手段ニヨリ公平無私タルコトヲ得セシメ正義ヲ實現セシトスルモノニシテ又主トシテ治者階級ニ關スルモノナリ。先ヅ其ノ社會制度ニヨルモノハ賢人武士ノ階級ニ財產ノ私有ヲ嚴禁シ自己ノ家族ヲ有スルヲ許サズ。國家ノ智勇ヲ分掌スル者ニハ兼テ財力ヲ蓄ヘ私ヲ營ムヲ認メザルニ在リ。衣食並ビニ活動ノ具ハ共有ニシテ第三階級ヨリ供給ヲ受ケ國家ノ命ズル所ニヨリ精神身體ノ兩方面ニ於ケル理想人ヲ産マシメントスルモノナリ。サレバ國家ノ各階級ハ始メハ人格者ノ性質及ビ價值ニヨリテ定マレドモ出生ニヨリ理想的ノ階級ヲ構成センガ爲ニハ世襲的階級ヲ認メザルベカラズ。「ニイチ」ノ超人參照。斯クノ如クニシテ國家理性ノ表現人ハ權勢利益ニ超然トシテ「イデア」ト交通シ得是等ニヨリ壓制セラルルコトナク又是等ニ誘引セラレテ「イデア」ノ觀察ヲ誤ルコトナク斷行力ノ表現人モ亦利益情欲ニ超越シ合理的ノ行動ヲ完フシ得ベシ。私心ハ萌ス第一歩ハ私ハ財物及ビ家族ヲ有スルコト

ニ在リ。故ニ全ク私心ヲ捨テシメントセバ是非共「プラトーン」ノ計畫ニ從ハザルベカラズ。但シ絶對ニ私心ヲ捨テシムベキコトノ可否及ビ其ノ程度等ノ問題ニツキテハ自ラ別論ニ屬ス。

「プラトーン」ハ賢人ヲ最上級ニ軍人ヲ其次ニシテ第三階級ヲ圓滿ニ支配セントセリ。此ノ時ノ賢人武士ハ今日ノ賢人武士ニ非ズ。全ク私心ナキ表現人チイヒタリシナリ。若シ私ノ心ヲ有スレバ理又ハ武力ノ專制トナルベクレバ是非私ヲ去ラシメザルベカラズ。理ハ最高ナルドモ之サヘ專制ヲ認メズ。此ノ點ニ「イッチ」(Idea)ノ超人ヨリモ遠カニ高尙ナリ。

之ヲ歴史上ノ事實ニ顧ミルニ、一 彼ノ理想ハ中世ノ僧侶階級、基督教ノ武士階級並ビニ俗人階級ノ發生ヲ助ケ僧侶政治ヲ以テ理想ト爲サシメ俗人以外ノ階級ニハ財產ノ共有ト家族生活ヲ捨ツルコトヲ要求セシメタリ。二 又近世ニ至リテハ彼ノ理想ノ如ク立憲制度ノ發達ノ前驅トシテ表現人ト獨立人トノ合一セル特徴アル健全ハ官僚政治ヲ發達セシメ。三 立憲制度ニ至リテハ純粹ニ私ナキ表現人ガ確定セラレ表現人ノ内部ニ於テモ表現組織人ト自治組織人トノ分岐ヲナシ之ニ伴フテ獨立人ノ公平無私ノ關係ガ一層緻密ニ分析セラレ純粹ニ實現セラレツツアリ。此等ハ皆「プラトーン」ノ豫言ニ合スルモノトイ

フベク、彼ノ理想ガ即チ人類普遍我ノ理想タリ彼ノ觀念ガ正シキ理法ノ普遍的觀念タルコトヲ證明セルモノトイフベシ。四 其ノ他近世ノ初期ニ於テ「トーマス・モールス」 Thomas Morus 「トーマス・カムバネラ」 Thomas Campanella 「プラトーン」ヲ利用シテ理想郷ヲ鼓吹セント試ミ、又近代ニ至リテハ彼ノ財產共有ノ無私ナル方面ヲ社會全部ニ擴張シ、財産上ノ專制ヲ打破セント試ミシモノアリ。

「ヤーネ」 August B. del (1810-) 「ヤラ」 Ferdinand Bellamy (1850-1898) 五 終リニ彼ノ治者ハ人格改善ノ理想ノ如キハ自ラ各人ノ理想トシテ生存競争ノ間ニ行ハレツツアルノミナラズ、特ニ歐羅巴ニ於テハ、王者ノ結婚ニツキ引續キ嚴格ニ行ハレ、人民ヨリ超越シタル王族階級ヲ形成セシメタリ。此ノ當否ハ暫ク之ヲ措クモ、此ノ事實ノ實現セラレタルハ注意スベキ事項トナス。

「プラトーン」ノ學說ガ思想界ニ對シテ如何ニ影響ヲ與ヘシカハ、後代ニ至ルニ從ヒ社會上實現セラレタルヲ見テ明ラカナル所トス。基督教發達シテ僧侶ノ階級嚴格ニ行ハレシハ、プラトーンノ思想ニ貢フ所少ナカラズ。官僚政治亦然リ。歐洲特ニ獨逸各國ノ立憲國ハ、人物宜シキヲ得タル立派ナル官僚政治先ヅ起リテ後成立スルヲ得タルモノナリ。又「プラトーン」ノ精神ハ立憲國ニ至リテ著實行セラレツツアルモノナリ。

西洋ハ王者同志ノ結婚ニシテ、日本ノ如キモノト異ナル。西洋ニ於テハ人民ニハ國別アルモ王者ニハ國別ナシ。今日迄此ノ思想傳ハリツツアリ。プラトーンノ說ニヨルバ、各人間ニ在リテモ、第一第二ノ階級結婚モ國家ノ命ズル所ニヨリテ行ヒ、其ノ夫婦ノ關係ハ永久的ノモノニ非ズ子ハ社會ノ子ニシテ自己一人ノ子ニ非ズ。社會ガ子ヲ生ムトハ表現者ヲ選シテ子ヲ生ムノ意ニシテ、大藏大臣ガ國家ノ表現者トシテ印ヲ捺スト同意味ナリ。斯カル意味ニ於テ「プラトーン」ハ社會ヲシテ理想人ヲ生マシメントセリ。

次ニ教育制度ニ依ツテ公平無私ノ心ヲ養ヒ、客觀的ニ公平無私ノ行動ヲ爲シ得ベキ能力ヲ與ヘントスルコトモ、特ニ賢人及ビ武士ノ階級ヲ目的トスルモノナレドモ、歸スル所之ニ依ツテ國家全部ヲ道德ノ實行所トナシ、教育所ト爲サントスルニ在リ。國家ノ命令ニヨリ擧ゲラレタル子ハ、男女共ニ幼ニシテ其ノ父母ノ許ヲ去リ、國家ノ教育所ニ入りテ學問ヲ修メ、終リテ實務ニ服シ、齡五十二達スルニ及ビ初メテ賢人ノ階級ニ入ル。男女ハ同等ニシテ女子モ男子ト等シタ公務ニ從事シ、兵役ニ服シ得ベク、賢母健婦ニ非ザレバ理想人ヲ産ム能ハザルガ故ニ特ニ婦人教育ヲ獎勵セリ。歐洲中世ノ武士ガ女子ノ擁護ヲ以テ誇トナシ又歐洲ニ於ケル婦人ノ地位ヲ高メタルコトニハ大ナル影響ヲ與ヘシモノニシ

テ近代ノ婦人教育ノ勃興ノ如キモ皆此ノ精神ニ合スルモノトイフヲ得ベシ。
 以上ハ國家ノ本質ヲ各方面ニ對シテ完全圓滿ニ發揚シ得セシムベキ組織ヲ
 有スル所ノ理想國ナリ。此ノ以外ノ組織ヲ有スル國家ハ不完全ニシテ、例ヘバ
 比較的價值アル武力ヲ中心トセル貴族政治ハ武士ガ財力ヲ私スルト共ニ次第
 ニ財力政治トナリ、平民中ノ財產家之ニ加入シテ、終ニ財產ヲ標準トスル寡頭政
 治トナリ、寡頭政治ハ又無規律淺薄ナル平民群集ノ政治ニヨリ代ラレ、コノ暴民
 政治ハ其ノ中ヨリ政黨ノ主領出デ變ジテ暴君政治トナルモノナリ。是等ニ對
 シテ改善ノ標準ト爲リ、向上ノ理想ト爲リ、唯一不動ノ組成ヲ有シ、益、發達スルモ
 ノヲ理想國トナス。然レトモ理想國モ亦イデア界ノ實現ヲ目的トスルハ點ニ
 於テ價值アルモノナレバ、不死ノ精神カ「イデア」ニ復歸セントスル要求ハ最モ神
 聖ナルモノナリ。此ノ點ハ後代基督教ガ「プラトーン」ト握手セント試ミタル要
 點ナリトス。

大日本ハ模範國ナリ

基督教ノ神國ノ說參照

第二支 「ノモイ」Nomoiニ於ケル理想論

「プラトーン」老後ハ著ハ「モイ」法律論ニ於ケル國家論ハ理想ノハミニ執着セズ、正
 義公平ノハミニ偏セズ、緩和主義ヲ採リ、節制ニ基ヅキ、其ノ當時ノ希臘小國ニ實行
 ナレ得ベキ社會ノ組成ヲ論ジタリ。詳言セバ先ヅ正義公平ノミヲ根據トシテ
 嚴格ニ之ヲ實行スルニハ人ヲ得ルノ困難在ルノミナラズ、一切ノ過度ヲ避クル
 目的ヲ以テ之ヲ緩和シ、理想論ノ極端ナル實有トスルハ彼ノ次ギニ三階級ニヨリ表
 現セラルル三社會力ノ嚴格ナル分立、並ビニ治者階級ノ專制ヲ緩和シ、又全部普
 遍ヲ見テ部分ヲ見ザルノ傾向ヲ緩和シ、社會ノ獨立ニ對シテ稍、個人ノ獨立ヲ認
 メントセリ。斯ハ如キハ凡テハ善美ナル主義ヲ抛擲シタルニ非ズシテ、根本的
 標準ニ基ヅキ、反對ノ主義ヲ轉ジテ理想化セシメ、中庸ニヨリテ理想的ノ包括制
 度ヲ建テント試ミシモノナリ。主義無クシテ徒ラニ各種ノ制度ヲ混合セント
 セシモノニモ、又ハ混合政體ヲ主張セシモノニモ非ズシテ、包括制度ヲ唱ヘシモ
 ノナリ。現今ノ立憲制度ハ即チ此ノ種ノ包括制度ノ發達セルモノニ外ナラズ。
 蓋シ「ヘーラクライトス」ヨリ「デーモクリトス」ソークラテースニ至ルマデ、終局ス
 ル所皆多少眞空中道ノ精神ニ到達セザルモノ無カリシガ、「プラトーン」モ亦年ト

立憲制度ハ中立道ヲ主義トスルノ制ナリ

共ニ其ノ熱烈ナル理想ヲ有シツツ此ノ所ニ到達セリ。是レ「ノモイ」ニ於ケル彼ノ國家ハ小理想ナレドモ、尙「ポリタイア」ノ理想國ニ對シテ特殊ノ價值ノ存スル所以ナリトス。

第一 此ノ論ニ從ヘバ特定ノ治者ハ階級ハミヲシテ國家ハ表現ヲ專ラニセシムルコトナク、國內ニ於ケル性質ヲ異ニセル各階級ヲシテ均衡ヲ旨トシ、相待チテ全部ヲ表現セシムルコトトセリ。此ノ目的ノ爲ニ總體ノ自由公民中ヨリ、殊ニ才能アリ財産上ノ資格アル者ヲ選ビ、政治裁判其他ノ公務ニ參セシメ、チモ眼中ニ置キタレドモ、彼ハ大ニ富メル者ハ決シテ大ナル善人選ノ方法ハ便宜抽籤又ハ各種ノ選舉法ヲ用キントセリ。茲ニ於テカ人民ハ國外ニ抛擲セラレズシテ、一人トシテ等シク國家ノ藩屏タラザルノナク、尙進ンデ國權構成ノ一分子タルコトヲ認メラレントスルニ至レリ。

各人ハ皆國家ノ表現者ナリトマテハ容易ニ達セズト雖モ、ノモイ」ニ於テ、城壁ハ地中ニ埋没セシメヨ、眠ラシメヨ、之ヲ掘リ出スノ要ナシトイヘリ。城壁ガ國家ヲ防グニ非ズ人民ガ國家ノ藩屏ナリトシ、特殊階級ノ者ノミチ國家ノ藩屏ナリト見ザリキ。財産ハ理想論上輕蔑シタルモ、之ヲ人選資格中ニ加ヘシガ如キハ、中ニ近ヅキシ證トイハザルベカラズ。又大金持ハ大

善人タルコト能ハズト「ノモイ」ニ斷言セリ。

第二 治者モ亦賢人ニ限ラザルノミナラズ、之ヲ定ムベキ方法モ亦甚ダ複雑ナリ。故ニ法治ハ此ノ國家ノ原則ナリ。認定法ハ理法ノ結晶ニシテ統括制ヲナシ、何人ノ行動ヲモ規律スベキ唯一ノ有權の道理ナリ、認定ニ依ツテ治ク有效ナルモノナリ。故ニ認定法ヲシテ世界ノ調和ヲ實現セシムル善美タルコト即チ道理タルコトノ性質ヲ具ヘシメンガ爲ニ、種種ノ考案ヲ回ラセリ。(調和ニツキテハ「ピタゴラス」認定法即チ自然ノ大法理想タルコトニツキテハ「ヘーラクライトス」參照)

「プラトーン」ハ法治國ヲ以テ理想トナス。大理想ヲ根柢トシテ、更ニ小理想ヲ立テタリ、是レ即チ法治國ナリキ。但シ法ハ「イデア」ニ適ヒシモノナラザルベカラズトナセリ。

第三 社會組成ハ家族ト財産ノ私有トヲ根據トシテ立テラレタリ。「ポリタイア」ニ於テハ治者階級ニハ是等ノモノヲ嚴禁セシガ、「ノモイ」ニ於テハ希臘古來ノ思想ニ從ヒ、家族ヲ神聖視シ、個人ヨリモ反リテ家族ヲ以テ國家組成ノ單位トナシ、數論ニ從ヒ、全國ヲ五千四十家ニ分チ、土地ヲ各家ニ分配シ、其ノ各ヲシテ所有者兼守護者タラシメ、治ク各人ノ私ヲ是認スレドモ私ニ執着スルコトヲ以テ

小理想トシテ之ヲ認メシメ、大理想トシテ之ヲ實現スル

最大ノ惡ナリトセリ。故ニ是認セラルベキ私ノ範圍ヲ嚴格ニ分界シ、財界ノ最大限度ト最小限度トヲ定メ、特殊ノ貨幣制度ヲ設ケ、結婚ヲ強制的トナシ、性慾結如キ自然状態モ、キニコス派ノ嚴重ノ監督ノ下ニ立タシメ、「ポリタイア」ニ於ケルガ如ク公共教育制度ヲ定メ、等シク男女ヲ訓練シ、男女ノ同等ヲ獎勵シ、其ノ教育遊戲ニハ特ニ數學音樂ヲ重ンジ、詩人美術家ハ之ヲ貶シタリ。然レドモ自由公民ハ全然國家ノ發達各自人格ノ完成發揚ヲ主眼トスベク、其ノ營メル農工商ノ事業ニ關スルコトニハ重キヲ置カズ。是等ハ國家監督ノ下ニ外國人及ビ公民權ノナキ内國人ニ委スルヲ以テ足レリト認メタリ。

男女ノ存在スル所以ハ、ホリタイアニテハ理想ハ實現ニ基ヅクトセリ(其ノ精神ヲ汲ミテ見レバ)「ノモイ」ニテハ男女ハ人間ノ普遍ハ性質ヲ保障シ行クモノナリ、故ニ結婚ハ何人モ之ニ參加セザルベカラズトナセリ。

「プラトーン」ハ美ノ感ヲ以テ充チタレドモ美ノ極致ヲ理想界ニ於テ見タリ。サレバ其ノ理想界ガ非有ニヨリテ現ハレタル此ノ世界ノ事物ハ完全ナル美ニ非ズ。是等ノ不完全ナル事物ヲ感覺ノ上ニテ模寫シタル美術、此ノ不完全ナル事物ヲ謳歌スル詩歌ノ如キモノハ不完全ヲ上塗りスルモノナリ。故ニ詩人美術家ハ無用ノ長物ナリ。宜シク世人ヲシテ是等ヲ去リテ理想界ヲ觀念スルコトニ專ラナラシムベシトイヘリ。

第五款 結論

第一項 國家論ノ結論

「ノモイ」Nomoiニ於テモ「ポリタイア」Politeia、「ポリチコス」Politikosニ於ケルト等シク、宗教的美的感想ヲ根據トナシ、且其ノ全體ヲ貫キテ先ヅ國家自身ヲシテ最モ善美ナル生活ヲ實現セシメ、普遍我ヲシテ其ノ悟ヲ實行セシメントスル精神ノ充溢セルヲ見ル。

第一 彼ハ普遍我ハ表現者トシテ、主觀的ニ大小ノ理想ヲ立テ、之ヲ實現セント欲スル精神的大技術家ナルガ故ニ、客觀的ニ國家ハ發達變遷ヲ分析シ、冷靜ニ之ヲ敘述セルモノニ非ズ。是レ「プラトーン」ノ缺點ニ非ズシテ、彼ノ哲學ノ當然ノ屬性ナリ。而シテ彼ノ設定シタル理想ハ、彼一己ノ理想ニ非ズシテ、人類普遍我ノ普遍的理想タルガ故ニ、其ノ後今日ニ至ルマデ絶エズ實現セラレツツアル所トス。

所謂折衷論者ノ妄評ハ當ラズ

此ノ點ニツキ「プラトーン」ヲ攻撃スルハ、獅子ハ強キモ河ニ陷レバ溺死ストイフガ如シ。獅
第一門 第二章 希臘哲學ノ盛時 第四節 「プラトーン」 結論 國家論ノ結論 一八一

第二 宗教的、美的精神ハ、彼ハ、哲學ハ、根柢ニシテ、又彼ハ、國家論ハ、前提ナリ。先ツ、各個人ノ差別ニ執着スルコトヲ打破シ、普遍全部ノ調和善美ヲ建設セントスルニ切ナルガ爲ニ、分子タル各個人各個人ハ、獨立我ハ全部ニ吸收セラレタルハ、觀ヲ呈ス。各個我ハ終始國家ニ對スル義務有レドモ、國家ニ對スル確實ナル權利ヲ有セズ。參政權等ノ公權ハ無キニアラザレドモ、少クモ自由權ヲ有セズ。國權ノ干涉ニ對シテ自由選擇ノ餘地ヲ存セズ。「各人ノ絶大ナル自由ヲ認メナガラ、之ヲ以テ反ツテ、國家ノ無限ナル調和善美ヲ發揚セシメントスル原理並ビニ制度ハ、尙完全ニ分析セラレザリシモノナリ、是レ思フニ彼ノ缺點ナリ。表現實ニ想到セズ」

第一段ニ於テハ元ヨリ第二、三段ニ於テモ各人ハ國家ニ對シテ自由選擇ノ權ナシ。國家ヲ完成スルハ義務ナレドモ、之ニ對シテ有スル獨立ノ權ナシ。尙明ラカニ今日ノ如キ自由權ナク、國家ニ對シテ獨立ノ存在ヲナセル方面アルコトヲ認メザリキ。
然レドモ「プラトーン」ガ個性ノ獨立ヲ認メザリシハ、個性ハ抑壓ニ非ズ。「イデア」論ニ基ツキ、之ヲ一貫セントナシタルガ爲ハ、ミ。彼ハ個人ノ價值ヲ知ラズ、權

彼ノ「イデア」論ニ附シテ、著スル缺點ナリ

利ノ何タルヲ覺ラザル「古代ニ在ツテ、個人ノ不滅ナル精神ヲ「イデア」ノ愛兒トナシ、「イデア」ノ權化トナシ、其ノ内心ノ深キ命令ニ從ヒ行動スベキヲ説キタリ。彼ハ世界ノ三方面即チ「イデア」ト現象界及ビ精神ノ三者ガ亦個人ノ中ニ其ノ儘存在シ、理性、斷行力、欲性ノ對立存在ヲ説キ、其ノ圓滿ナル調和ヲ要求シタリシナリ。個人即チ小全部タルコトヲ認メタルナリ。然モ各單純獨立人ノ不羈獨立ナル自由生活ヲ轉ジ、其ノ儘之ヲ國家ノ自由生活トナスニ至ラザリシハ、當時ノ社會發達ノ状態ニヨリテ然ルノミナラズ、又實ニ彼ノ「イデア」論ノ當然ノ論決ニ外ナラザルナリ。各個人ハ即チ普遍我ノ表現者ニ非ズシテ、實有タル普遍我ガ非有ト合シテ各個ヲ現ハシツツアルナリ。故ニ各個ヲ見ルモ實ハ全然普遍ヲ見ルノミ、「イデア」ヲ見ルノミニシテ更ニ各個ヲ見ルモノニ非ズ。各個ヲ透シテ初メテ、普遍ヲ見ルニ非ズ、各個無クトモ、其ノ各個ニヨリ存スル普遍ハ、絶對ニ獨立シテ存在スルモノナリ。各個ノ自由發達ハ、全然普遍ノ發達ノ結果ニシテ、更ニ各個獨立ノ發達ヲ要スルモノニ非ズ。各個ノ自由發達ヲ透シテ初メテ、普遍ノ自由發達ヲ見ルモノニ非ズシテ、各個ノ自由發達ナクトモ、其ノ各個ヲ透シテ普遍

來現ト表現
トハ嚴別ス

ノ自由發達スルガ如ク見ユルモノガ、絕對ニ獨立シテ存在スルモノナリ。要スルニ彼ハ普遍ト各個トノ間ニ來現ノ關係ヲ認メタレドモ、未ダ表現ノ關係ヲ認メザリシモノニシテ、此ノ形式ガ國家ノ上ノ普遍ト各個トノ間ニモ應用セラレタルモノナリ。

國家ト個人トノ間ニ無理ガ存シタルガ、是レ實ニ「イデア」論ノ無理ナリキ。元來普遍ハ個物ニヨリテ表現セラレ全部ハ部分ニヨリ表現セラレテ存在シ、其ノ部分ヲ透シテ全部ヲ見得ルハミナリ。然ルニ「プラトーン」ハ「イデア」ハ凡テ離レ現象ヲ離レテ獨立シテ存在スルモハトセリ。故ニ個個特定ハ「イデア」來現ナリトセリ。(佛敎ノ如來トハ來現ノ意味ニシテ、眞如ガ來現ハルルモ、ハト見タルナリトノ說アリ)是レ後ニ「アリストテレス」ノ攻撃シ來ル點ナリ。

之ヲ要スルニ彼ノ國家論ニ於テ、全部對部分關係ヲ明ラカニセル長所ハ即チ「イデア」論ノ長所ニシテ「イデア」ニ適ヒタル理性ノ發揚ヲ欲シタル點ハ極メテ正當ナルモノナリ。全體ノ善美ヲ、最小限度ノ要件トナシ、最大限度ノ要求トナシ、之ニ由リ各個人ノ發達ヲ全フセント企テ、全部ノ調和ヲ破リテ、孤立セントスル個人ノ自由ヲ排斥シ、自愛心ニノミ執着スル風潮ヲ打破シ、個個ノ偶然ヲシテ普

遍美ヲ發揚セントスルニ切ナリシハ、彼ノ特長ナリトス。

第三 終リニ「プラトーン」ハ一國ノ範圍ヲ偶然ナル小市ニ止メ、少クモ一人種ヲ統括スル大國或ハ進ンデ世界國ノ建立ニ論及セザリシハ、確カニ彼ノ缺點ナリトス。然レドモ是レ亦彼ノ「イデア」論ニ伴フ潔癖ヨリ來レル當然ノ結果ナリ。

第二項 「イデア」論ノ批評

彼ノ國家論ノ長所ハ、歸スルトコロ其ノ根柢タル「イデア」論ノ長所ニシテ、國家論ノ缺點ハ即チ「イデア」論ノ缺點ナリ。「イデア」論ノ缺點ハ「イデア」ノミヲ以テ孤立セル、絕對ノ實有ト說クノ點ニ在リ。

第一 短所。

一 先ヅ、彼ハ絕對ニ「イデア」ヲ定義シ得ベキモノトセリ。然レドモ數學ノ抽象的觀念及ビ或範圍ニツキ認定ニヨリテ設ケラルベキモノヲ除クノ外、絕對ニ定義シ得ラルベキモノナシ。事物ハ固ヨリ絶エズ變遷スル差別獨立ノ方面ヲ有ス。故ニ此ノ普遍ヲ表現スル方面ヲ根據トシテ尙或程度ニツキ其ノ事物ヲ

畢竟三諦圓融ニ歸ス

觀念スルコトヲ得ベシ然レモ其ノ普遍ハ差別變遷ノ知覺ヲ通ジテ表現セラレ
ツツアル普遍ナルヲ以テ其ノ物ニ動カスベカラザル定マレル意義ヲ與フルコ
トヲ得ザルモノナリ。現在又ハ現存ノ差別ノ背後ニ存在スル普遍ノミニテハ
未ダ充分ナル普遍ニ非ズ。過去、現在、及、將來ヲ通ジテ有ラユル差別ニヨリ表
現セラレル無差別ヲ見出スニ非ザレバ確實ニ普遍ハ存在ヲ定義シ得ザレバナ
リ。

「プラトーン」ハ「イデア」ヲ盡ク定義シ得ルモノトセリ。然シ手近ニ在ル人間スラ到底定義出
來ヌ。現在ノ人ハ明ラカナリトスルモ將來ノ表現者ハ到底知ルコトヲ得ズ況ンヤ太古ノ人
類ハ更ニ知ルコトヲ得ザルニ非ズヤ。蓋シ彼ハ表現ノ關係ヲ認メズシテ來。現ノ關係トシテ
認ムルガ故ニ此ノ結論ヲ得タルナリ。

二 「プラトーン」ノ善美ハ美ナル事物ニヨリ表現セラレテ存スル美ニモ非ザ
レバ又善ナル活動ニ表現セラレテ存スル善ニモ非ズ。「イデア」自身トシテ是等
ニ超越シ絕對ニ獨立ノ存在ヲナシ時ニ來リテ事物又ハ活動中ニ現ハルモノ
ナリ。事物及ビ活動トシテ來。現スルモノナリ。事物及ビ活動ニヨリテ表現セ
ラルモノニハ非ズ。故ニ「イデア」ハ實驗外ニ超越シ内心ノ回想ニヨリテノミ

「プラト
ン」ノ超越
性ハ「イ
デア」ノ超越
性ト結
合セテ
「イデア」
ノ超越性
ノ本質
トナリ
モノナリ

之ヲ窺ヒ得ベシ。從テ人人ガ其ノ觀念ヲ異ニスルノミナラズ人生經驗ノ進歩
學問ノ發達ト共ニ覆ヘサレザルヲ得ザルベク若シ之ヲ防ガントスレバ學問ノ
進歩ヲ斷念スル外途ナキモノトス。

吾人ハ現象界ヲ見得ザルニ非ズ但シ現象ヲ見得ル所以ハ「イデア」カ來リテ其ノ中ニ現ハレ
居ルヲ以テナリ。

三 「プラトーン」ハ「イデア」ガ絕對ニ個性ヲ離レテ存在スルノ點ニ重キヲ置キ
タリ。故ニ一方ニ於テハ或場合ニツキ事物ヨリ得タル觀念ヲ獨立ノ存在トナ
シ、事物ノ名稱ヲ獨立視スルコトトナリ。他方ニ於テハ個個特定ノ差別偶然ヲ
捨離セシメ之ニツキ畫キタル模範理想ヲ意味スルコトトナリ。絕對ニ獨立シ
テ動カザル名稱及ビ確乎不動ノ理想ヲバ、絶エズ其ノ表現事物ト共ニ變遷スベ
キ普遍ニ相應シツツ變ズベキ所ノ概念ト同一視セリ。故ニ宗教美術文學政治
ニツキテハ假リニ之ヲ以テ満足シ得ベシトナスモ學問ハ之ヲ以テ満足シ了ル
コトヲ得ズ。

四 殊ニ彼ノ「イデア」ハ其ノ品質ニ於テハ絕對ナルモノニシテ眞善美ノ現ハ

レタルモノナリ。然レドモ「イデア」ガ數量ト共ニ存シ、其ノ品質ハ數量ノ保障ヲ待チテ始メテ全キヲ得ルモノタルコトヲ認メズ。是レ實ニ彼ノ理想國家ガ少人數ヲ包容スル國家ニシテ、大國家タラズ世界國タラザル所以ナリトス。

第二 長所。

然レドモ宗教文學美術政治ノミナラズ學問ニツキテモ純客觀的ニ知識ヲ蒐集スルコトヲ以テ足レトスベキモノニ非ズ。絕對ニ純客觀的ニ知識ヲ集メ之ヲ連絡スルコトハ少クモ世界ノ終結ヲ待タザレバ不可能ナリ。學問ハ然ク絕對的客觀的ノモノニ非ズ。「深く主觀的方面ノ根柢ニ於テ存在シ、生活經驗ニヨリ鍛鍊セラレテ意識ニ高メラレ得タル、眞ニ不動普遍ナル宗教的、道德的、美的要求ニ安立シ、之ト相待ツテ客觀的ノ觀察ヲ爲スベキモノナリ。」(第一卷學ノ概念參照)外部ハ動クベシ、絕對ニ非ザル普遍ハ其ノ表現者ト共ニ變化シ得ベシ。然シ熱誠ニヨリテ現ハサルベキ内部ノ要求ニ變化アルコトナシ。此ノ内部ノ要求ヲ率先シテ著シク意識シ、之ニヨリ學問ノ一大系統ヲ立テントセシ者ヲ「ソークラテース」トナス。其ノ師ノ感想ニ忠ニシテ學識トシテ之ヲ實現シ現ニ雄

大ナル系統ヲ建立シタルモノハ「プラトーン」ナリ。此ノ活精神ヲ解スル者ニ對シテハ其ノ「イデア」論ノ形式的ノ缺陷位ノコトハ然ク重要ナルモノニ非ザルベシ。

自然トイフハ客觀世界ノミニ非ズ、主觀世界モ亦自然ナリ。元來主觀存在ヲ是認スルガ故ニ客觀存在アルナリ。主觀ヨリ見テ客觀在ルナリ。然ルニ主觀世界主觀存在ヲ忘レ、客觀世界客觀存在ノミヲ唯一絕對ノ世界存在ト考へ、純客觀的ニ學問ヲ建設セントスルハ誤解トイハザルベカラズ。

第五節 「アリストテレース」

目次

第一款 總說

第一項 歷史上ノ地位

第一目 概說

第二目 「プラトーン」ノ哲學ニ對スル「アリスト

第三目 哲理ノ要點

第二項 哲學ノ體系

第二款 論理學及ビ實在原理論

第一項 論理學ノ要領

第二項 實在原理論

第一目 範疇論

第二目 本體論

第三目 形式質料ノ論

第四目 一神ノ論

第三款 自然哲學(物理論)

第四款 國家論

第一項 道德論

第二項 國家ノ概念

第三項 國家形相論

第一目 總說

第二目 權力分配ノ標準

第三目 最良ノ國家形相

第一支 總說

第二支 模範的政體

第三支 實際的政體

第四項 國權分類論

第五項 革命論

第一目 要旨

第二目 論評

第六項 結論

第一款 總說

第一項 歷史上ノ地位

第一目 概説

「ソークラテース」ノ活キタル感ジニ歸一シ其ノ中ニ自然哲學ノ玄理ヲ現ハシ、深遠ナル「イデア」論ヲ唱導シタル者ヲ「プラトーン」トナシ、其ノ教ヲ受ケ個物ヲ捉ヘテ其ノ中ニ先人ノ研究ヲ描出セント試ミタル者ヲ「アリストテレース」トナス。

「アリストテレース」ハ年齒十八ニシテ「プラトーン」ノ門ニ入り、師ノ歿スルマデ在學セリ、其ノ間二十年ナリ。然レドモ彼ノ父ハ醫師ナリシガ故ニ、幼時ヨリ其ノ影響ヲ受ケ、自然科學ニ趣味ヲ有シタリシモノノ如ク、「プラトーン」ノ門下ニ在ル頃既ニ師ノ「イデア」論ニ服スルコト能ハズシテ攻撃ノ矢ヲ放チ始メタリ。勿論「アリストテレース」ノ「アリストテレース」タルヲ得タルハ「プラトーン」ノ雄大ナル思想ノ根據ノ上ニ立チテ、古來ノ諸説ヲ調停シタリシガ爲ナレバ、「プラトーン」ナケレバ「アリストテレース」ナク、「プラトーン」ノ思想ヲ會得セザレバ「アリストテレース」ノ眞ノ地位ヲモ知り得ベカラズ。

彼ハ「プラトーン」ヲ中心トシテ之ト「デーモクリトス」トヲ調和シ、又「プラトーン」

ト「アンチステネース」トヲ融和セリ。「プラトーン」ヨリ出デテ其ノ師ノ弱點ニ甘ンゼザリシハ善ケレドモ、其ノ師ハ長所ヲ充分ニ咀嚼シ得ザリシ點ニ於テ、彼ハ「アカデミー」派ニ屬スル者ニ非ズ。

譬ヘバ「アリストテレース」ヲ以テ奇妙ナル運動ヲナス生物ヲ製作セシ者トスレバ、之ニ人間ノ有スベキ向上的精神ヲ吹キ込ミタル者ハ「プラトーン」ナリトイフベシ。

第一 「プラトーン」ハ宗教的、美的、感性的、富ミシノミナラズ、特ニ數字ニツキ深キ趣味ヲ有シタリシガ故ニ、數學ニ於ケル數ノ公式特ニ形體ガ偶然ナル材質ヲ離レ、純乎トシテ現ハレ來ルガ如ク、世界ノ萬物ノ純乎タル「イデア」ヲ直覺シ得ベシト感ジタリシナリ。然ルニ「アリストテレース」ハ生物學者ナリ。彼ニヨレバ世界ヲ動カス目的並ビニ力ハ、少クモ世界自身ノ中ニ在リ。人間ノ目的ハ個個人間中ニ在シ、其ノ以外ニ超越シテ存在スルモノニ非ズトセリ。「プラトーン」ハ「イデア」ヲ以テ特殊ノ現象外ニ超越シテ存在セルモノトナセシガ「アリストテレース」ハ特殊ノ現象中ニ共通ノ存スルコトヲ認メ、特殊ヲ以テ實在トナシ、共通ヲ以テ其ノ物質トナセリ。

來現關係ト
發現關係ト
差

之ヲ換言セバ「プラトーン」ハ「ソークラテース」ノ精神ヲ分析シテ、特ニ事物ノ來現關係ヲ説キタル者ナリ。來現關係ハ「イデア」ノ一部分ガ非有ヲ假リテ、現象界ニ現ハレツツアルモノナレバ、發現關係ニ等シキ點アレドモ、一部分ガ獨立ノ存在ヲナシ、獨立ノ價值ヲ有シツツ、全部タル「イデア」ト相對立スルモノ、ハ「非ザル」ヲ以テ、又異ナル所アリトス。

之ニ對シテ「アリストテレス」ハ、本質ト特殊トノ歸一關係ヲ認メタルモノナリ。此ノ歸一關係ハ特殊中ニ共通ノ本質アルコトヲ認ムルモノナレバ、表現歸一關係ニ似タル點ヲ有スレドモ、特殊ノ存在ニ對シテ、特ニ同様ノ實在ナル普遍ハ存在スルコトヲ前提シ、其ハ實在ハ特殊ト實在ハ普遍トガ合一シテ存在スルコトヲ認ムルノ點尙曖昧ナリトス。從テ各個ノ事物ハ一方ヨリ見レバ必ず獨立的存在ヲナシ、他方ヨリ見レバ必ず表現的存在ヲナスコトヲ説クニ至ラズ。「アリストテレス」ハ所謂普遍ハ各個事物ニ共通ナル性質ヲ抽象シタルモノハ、シテ寧ロ個物アリ、特殊アリテ、後ニ本質アリ、普遍アルモノナリ。普遍ト同時ニ個物が存在スルニ非ズ。從ツテ普遍ト各事物ニ共通ナル性質トハ同一視セラ

「カント」ト
「ヘーゲル」ト
「トノ調和」ト
「所ハ即チ」ト
「アラト」ト
「ストテレ」ト
「ストテレ」ト
「和」ト
「所ニ似」ト
「タリ」ト

レ、普遍ガ各事物ノ性質ノ統括關係ニヨツテ存スルコトヲ覺ラザリキ。而ハ對等ナラズシテ統括制ヲナシテ存スルモノチイヒ、必ずシモ多數。サレバ彼ノ歸一ニ存スルモノチ意味セズ、又悉皆ニ共通ナルモノチ意味セズ。關係ハ事物ノ表現對立關係ヲ説クコトヨリ一層負カニ離レタルモノナリ。

「プラトーン」ハ個個ニ價值アル「イデア」ノ價值ナリ、非有ヲ假リテ現象界ニ現ハレタルヲ以テ、特殊ニハ價值ナキモ「イデア」ニ價值アルモノトセリ。「アリストテレス」ハ個物ノ中ニ普遍ナルモノガ存在ストセリ、是レ實ニ「プラトーン」ニ缺ケタル處ヲ補ヘルモノナリ。併シ「アリストテレス」ハ普遍ト特殊トガ同シ程度ニ實在シ、其ノ相合スル點ニ於テ共ニ是認セラルルモノナリトイフコトニ着眼セズ、個物が先キニシテ普遍ハ後ハモハナリトセリ。少クモ知識ヲ得ルハ個物が先キトセリ、近世ノ實證論者ハ此ノ點ニ偏執スル者ナリ。

惟フニ「アリストテレス」若シ充分ニ「プラトーン」ヲ解シ得タランニハ、「イデア」ノ普遍的存在ト「アリストテレス」得意ノ歸一關係トヲ打チテ一丸トナシ、表現歸一關係ヲ説カザルベカラザリシナラン。而シテ表現歸一ノ方面ヲ深ク意識スルト同時ニ、此ノ方面ニ對スル事物ノ獨立關係ヲ切ニ意識スルヲ得ベク、從ツテ表現關係ヲ改造シテ發現關係ニ高ムルコトヲ得タリシナラン。然ルニ事實上斯ノ如キヲ得ズシテ、彼ノ本質內在論ガ永ク後人ヲ誤リツツアルハ、彼自身ガ

全然「プラトーン」ノ「イデア」論ニ合一スル能ハザリシコトニ原因スルモノトイフベシ。

特殊ノ實在ヲ認ムレバ、普遍ノ實在ヲ認メザルベカラズ。歸一ハ二物ナケレバ起ラズ。「アトーン」ニテハ絕對ニ「イデア」ト現象トガ相離レテ存スナス故不可ナリ。「アリストテレス」ハ現象ヲ主トスル故表現歸一ニ至ラザルナリ。別種ノ存在ニ對シテ相對立シテ尙歸一スルコトヲ見レバ表現歸一ノ關係トナル。

「アリストテレス」ハ普遍ヲ認メザルニ非ズ、唯共通ノ所ニ普遍ヲ見タリ、共通ヲ直チニ普遍トセリ、故ニ直チニ矛盾スルニ至ル。共通ハモハチ個個ヨリ抽キ出シテ本質トスルモ正シカラズ、否、個個ノ物其ノ儘ガ皆、普遍ヲ表現セリト見ザルベカラズ。只個個ノ物ハ其ノ表現ノ程度ヲ異ニシテ統括階級ヲナシテ存在シ、馬鹿モ利口ノ者ニ統括セラレテ、人間ガ靈妙ナル物トナルガ如シ。之ニハ先ヅ以テ普遍ノ存在ヲ見ザルベカラズ。「アリストテレス」ハ抽象セシ概念ヲ普遍ト見タレバ見方狭シ。

第二 然レドモ個在論者ノ「アリストテレス」ハ、其ノ獨得ナル論理的頭腦ヲ有シ、彙類編纂比較ノ能力ニ長ジ、古來發達シ來リタル哲理ヲ綿密ニ排列シ、確實ナル大系統ヲ立テ、其ノ系統上尙缺ダタリシ學問ハ新ニ之ヲ組成セント試ミタリ。斯ノ如クシテ古來ノ論理ノ術ハ、現今ニ至ルモ尙一般ヲ支配シツツアル所

ノ論理學ニ高メラレ、又比較研究ニヨリ心理學、生物學、動物學、文學史、政治學及ビ考古學ヲ設ケタリ。是ニ於テ、彼ノ學校ハ、當時哲學科學ハ有力ナル中心點トナリ、シハミナラズ、實ニ歐洲近世ノ學風ヲ定メ、之ニ用キラレタル術語ヲ作りタリ。斯クシテ比較的實驗的研究ヨリモ直觀ヲ重ンゼシ、東洋ノ學風ト著シク異ナラシムルコトトナリタリ。「アリストテレス」モ亦偉大ナルカナ。

今日ノ歐洲ノ實驗的ノ學問ハ希臘ニ於テ起リタリ。「プラトーン」モ大ナル貢獻ヲナシタリシモ、繼メタリシハ「アリストテレス」ナリ、彼ハ大系統ノ下ニ統括シタリキ。故ニ實驗的自然科學ニ心醉シタル人ハ「アリストテレス」ヲ一番偉キ者トナスナリ。

第三 「アリストテレス」ハ「プラトーン」ノ如ク人間ノ表現者トシテ有セシ内部ノ熱誠ニヨリ理想ヲ立テタル者ニ非ズ。然カモ其ノ冷靜ナル比較研究ニヨリ生物ノ種類ノ關係ニツキテ概念ヲ確立シ、又始メテ發達テフ概念ヲ用キタリ。而シテ是等ハ彼ガ普遍ノ概念ニツキ有シタル缺點ト合シテ、長ク歐洲人ヲ教育セリ。「プラトーン」ハ理想ヲ標幟トシテ向上ヲ勸メ、「アリストテレス」ハ個性ニ内在スル力ニ由ル發達ヲ説キ、「プラトーン」ハ偶然ハ雜多ヲ去リテ純粹ノ眞善美ヲ求メ、「アリストテレス」ハ多數ヲ比較シテ其ノ通性ヲ知ラントセリ。蓋シ相

待ツテ共ニ全キヲ得ベキ兩方面ナリ。然レドモ兩人ニ通ジテ均シク且根本的ナル思想ハ世界組成ノ合理的ナルコト即チ道理ニ適ヒツツアルコトニシテ「アリストテレス」ニ至リテ絶頂ノ原理ニ高メラレタリ。此ニ於テカ「アナクサゴラ」Anaxagorasノ「ヌース」¹ハ終ニ哲學上ノ一神論ニ化セラレルニ至リ、永ク歐洲人ヲシテ信仰セシメタリ。

「アリストテレス」ハ比較テ大切トシ又發達ヲ説キタリ。向上トハ發達ハ主觀的方面ノ要求ナリ、發達トハ向上ハ客觀的方面ナリ。

共通ヲ抽キ出ストキハ普遍トナルカトイフニ正シクハ然ラズ。「アリストテレス」ハ普遍ハ數ヨリ抽象スルトスルノミ。但シ數多キト何等完全ニ非ズ。例ヘバ人類ニツキテイフモ偶然銀色人が多ケレバ銀色人が普遍トイフニ至ル。此ノ過チニ陥ラザル爲ニハ更ニ眞善美ノモノヲ以テ普遍トスル方面ヲ交ヘザルベカラス、此ノ喰イ違ヒガ面白キ所ナリ。

第二節 「プラトーン」ノ哲學ニ對スル「ア

リストテレス」ノ批評

「アリストテレス」ハ哲學ハ骨髓ハ普遍ヲ以テ特殊中ニ内ニ在ストナスハ點ニ在リ。「プラトーン」ト異ナル總ベテノ點ハ、大抵此ヨリ發ス。抑モ普遍ハ常ニ特

殊ヲ通ジテ觀ラレ得ルモノナレバ、或意味ニ於テハ特殊ヨリ抽象セラレタルモノト見ルコト能ハザルニ非ズ。故ニ此ノ普遍ハ特殊ニ對スル統括者ニシテ、之ヲ規律スル存在ナリ。之ヲ共通ノ標準トシ各ノ特殊ヲ比較シ、又直チニ特殊ノ根抵ヲ知り得セシムルモノナリ。此ハ普遍的統括者ハ、之ヲ特殊ヨリ分離セシメテ相對立セシメ得ル方面アリ。此ハ傾向ハ「プラトーン」ニヨリ意識セラレタルモノハニシテ、彼ノ晩年ニ於テハ殊ニ此ノ傾向ヲ強クシ「ピタゴラス」學徒ノ數論ヲ併用シテ現象ヨリ超越シタル「イデア」界ヲ確定セシメタルモノナリ。然レドモ普遍ハ元特殊ト離レタルモノニ非ザルノミナラズ、特殊中ニ内在スル方面アリ。之ヲ意識スルニ專ラナリシモハハ「アリストテレス」及「ピスタア」²學派ハ哲學ナリ。「アリストテレス」ハ「プラトーン」ノ極端ナル超越界ヲ説キタル頃ニ教ヲ受ケタル者ナレバ「プラトーン」ノ弱點ヲ過大視シテ之ヲ攻撃シタリ。(佛

教哲理特殊普遍一體不離ノ論參照)

第一 「アリストテレス」ハ「プラトーン」ヲ攻撃シテ曰ク。「プラトーン」ノ普遍トナシ「イデア」トナスモノハ、個個特定ノ事物ヨリ抽象セラレタル觀念ニ外ナラ

ズ。故ニ普遍ハ特殊ノ外部ニ存スルモノニ非ズシテ、多クノ特殊中ニ共通ニ存スル性質ニシテ、之ニヨリ各特殊ガ融通シ、結合シ得ル者トナス。又特殊ノ消滅ニ關セズ、夫ノ事物中ニ存在シ、概念トシテ知ラレ得ベキ性質ノモノナリ。然ルニ拘ハラズ、プラトーンガ殊更ニ普遍ヲ特殊ヨリ分離シ、之本體化セシメタルハ無用ナル重複ヲ試ムルモノニシテ、又内ニ在ルモノヲ外ニ在リトスルハ、論理上許スベカラザル所ナリト。

但シ「アリストテレース」ノ此ノ批評ハ當ヲ得ズ。「アリストテレース」ガ「プラトーン」ノ普遍ヲ以テ特殊ヨリ抽象セラレタル共通ノ概念トスルハ、己ヲ以テ人ヲ推スモノニシテ「プラトーン」ノ「イデア」ニ非ズ。「プラトーン」ノ「イデア」ハ特殊以前ニ存在スル普遍ナリ。普遍先ヅ存在スルガ故ニ之ニ基ヅキ特殊ガ生ジ得ルコトヲイヘルモノニシテ、特殊ノ實在ナルヨリモ尙根本的ナル統括的ノ實在ナリ。夫レ自身獨立シテ實在スル方面ヲ有スルモノナリ。

第二「アリストテレース」ハ又攻撃シテ曰ク。「プラトーン」ノ「イデア」ハ元凝然不動ノ觀念ナレバ、夫自身自動的ニ創設シ得ル力ヲ有セズ。夫自身原働作用ヲ

此ノ點ハ彼
ガ「ア」カ
ミ「イ」カ
ニ「ス」ル
對「ス」ル
撃「ナ」リ

行ヒ得ルモノニモ非ザレバ、何處カニ在ル何者カガ其「イデア」ヲ利用シテ、現象ヲ作ルモノハト認メザルベカラズト。「プラトーン」ハ其ノ後年ニ「イデア」自身ガ己ヲ現象界ニ實現シ得ルノ力アルコトヲ認メタレドモ、「イデア」ハ普遍不動ヲ性質トナスモノナレバ、夫自身變化セザル所ニ特色アルニ拘ハラズ、之ニ運動力實現力ヲ與フルコトハ、論理上ノ矛盾ナリトシテ「アリストテレース」ニヨリ攻撃セラレタリ。而シテ「アリストテレース」ハ「プラトーン」ノ活力アル「イデア」ヲ高メ、「アナクサゴーラス」ノ「スー」ト結合セシメテ、終ニ靈智アル一神ヲ認ムルニ至レリ。

「イデア」ハ觀念ナルニ何故現象界ニ來ルカ。「プラトーン」ハ窮シテ「イデア」自身ニ來現力ヲ有ス、故ニ己ヲ實現スト説キテ收マレリ。「アリストテレース」ハ不動ナルベキ「イデア」ノ動クハ論理ニ非ズ、錦繪ハ動カズ、之ガ活動寫眞ノ如ク動クハ「イデア」自身ノ仕業ニ非ズトナシ、終ニ之ヲ神ノ力ニ歸セシメタルナリ。

但シ「アリストテレース」ガ此ノ點ヲ捉ヘテ「プラトーン」ノ「イデア」論ニ依ツテハ世界ノ問題ヲ充分ニ説明シ得ズト爲スハ不可ナリ。「プラトーン」ハ表現關係ノ事實ヲ認ムレドモ、何故此ノ關係ガ成立存在シ得ルカノ根本ヲ説明セント試ミ

タル者ニ非ズ。「イデア」及ビ事物ノ成立存在ノ根據ハ説明シ得ベキ範圍外ニ在ルヲ明言シタルナリ。假令「アリストテレース」ガ靈智アル哲學的ノ一神ヲ認ムルモ、是レ根本ノ偶然不可知ナルコトヲ譬ヘタルモノ、獨斷的ニ説明セントスルモノニシテ、少クモ此ノ點ニツキテハ「プラトーン」ヨリ一步ヲモ進メタルモノニ非ザルナリ。基督教信者ハ「アリストテレース」ノ一神ガ「プラトーン」ノ「イデア」ヨリモ己等ノ信ズル神ニ接近シタルヲ以テ「アリストテレース」ヲ賞讃スルコトアルベシ、然レドモ吾人ハ直チニ之ニ同意スルコトヲ得ズ。「イデア」ハ理ニシテ法トハ理ニシテカナル

第三「アリストテレース」ハ又「プラトーン」ガ其ノ晩年ニ於テ醜惡ナルモノノミナラズ人間ノ製作物ニ對スル「イデア」ノ存在ヲ認メザルコトヲ駁シ、且同一事物モ觀察ノ方面ヲ異ニスルト共ニ、別種ノ類ニ屬スルモノト見得ルガ故ニ、同一事物ト雖多ク「イデア」ニ屬スルコトトナルベク「イデア」相互ノ關係モ亦甚ダ複雑トナルベシトセリ。加之「プラトーン」ハ事物ノ相類スル所ニハ必ズ「イデア」在リテ其ノ「イデア」ハ是等ノ事物以外ニ超然トシテ相對スルモノトナスガ故ニ、此

ノ論法ヲ以テセバ、是等ノ事物ト此ノ「イデア」トノ間ニモ類似ノ點アルガ故ニ、更ニ第二ノ「イデア」アリテ是等以外ニ對立セザルベカラズ。此ノ第二「イデア」ト以上ノモノトノ間ニモ亦類似ノ點アルガ故ニ、更ニ第三「イデア」ノ對立ヲ認メザルベカラズ。斯ノ如クシテ終ニ止ムコトナク、確實ナル「イデア」ハ畢竟認メ難ク「イデア」ハ如何ニ溯及スルモ、尙根源の實有ニ非ズシテ模寫ニ過ギザルベシト。蓋シ「アリストテレース」ハ、常ニ事物ノ差別ヲ本則ト見テ、其ハ中ニ無差別ヲ見ント欲シ、主トシテ歸納法ヲ用キ、狭キ論理ノ形式ニ依リテ研究シ、其ハ眼ヲ以テ「イデア」ヲ見タルガ故ニ、「イデア」界ノ理想的觀念論的趣味ヲ解セズ、其ノ宗教的美的價值ヲモ會得シ得ザリシ者ナリ。從ツテ彼ノ是等ノ攻撃ノ如キモ何レモ重要ナルモノニ非ズ。今尙少シク「アリストテレース」ノ學說ノ要點ヲ説明セン。

第三目 哲理ノ要點

「アリストテレース」ハ「パルメニデース」又ハ「プラトーン」ト越テ異ニシ、現象以外ニ存在スル實有ヲ認メズ。個個特定ノ實有並ビニ生成ニ重キヲ置キタリ。但

シ「イデア」ノ如キ實有ヲ絶對ニ排斥セシモノニ非ズシテ、個物ニ内在シ其ノ以外ニ超越シテ存在セズトナセリ。今更ニ分析シテ彼ノ哲理ノ要點ヲ説カシ。

第一 「アリストテレス」ハ極端ナル實在論者並ビニ個在論者ナリ。「プラトーン」ハ吾人ヲ以テ實有ナル本體ヲ認識スル能力ヲ有スル者ト前提セリ。精神ハ元「イデア」ヨリ生ゼルガ故ニ、其ノ回想ニヨリテ直覺的ニ「イデア」ヲ識リ得ベシトナスニ在リ。「イデア」ヲ以テ超越的實在トスレドモ、吾人ノ先天的能力ニヨリテノミ知リ得ルモノニシテ、絶對ニ個個特定ノ偶然ナル現象ニツキテハ、之ヲ知ルコト能ハズ、唯「イデア」ヲ知ルガ故ニ、「イデア」ト非有トヨリ合成セル現象ニツキテ、其ノ元ノ「イデア」ヲ見得ルニ過ギズトナスナリ。

吾人ハ「イデア」ノ缺ケラテ固有ス。此ノ理性ニヨリ「イデア」自身ヲ洞察シ得ルモノナリ。現象ハ分ラズ非有ナレバナリ。但シ「イデア」ト合成シテ居ルガ故、現象ヲ見テ回想シテ「イデア」ヲ知リ得、其ノ結果現象ヲ明ラカニシ得ルノミ。

「アリストテレス」ハ此ノ種類ノ實有ト現象トノ對立ヲ認メズ。又回想ヲ攻撃シ知覺ヲ以テ主腦トナシ、之ト共ニ從トシテ思惟ヲ必要トセリ。又知覺ニヨリ意識セラルルコトホド、實在ヲ明ラカニスルモノハナク、實在トハ、知覺ニ映ジ

實在原理
ノ範論本
轉論參照

第三章 第一
節參照

タル存在ハ、義ニシテ、此ハ知覺ト思惟トニヨリテ存スル知識ハ、全然外部ノ實有ト合一スルモノナリト。サレバ「プラトーン」ガ回想ニヨリテ僅カニ實有及ビ現象ノ幾分カラ意識シ得セシムルモノトナスト同一ニ非ズ。實ニ「アリストテレス」ハ極端ナル實在論ヲ説キタル者ナリ。彼ハ知覺ヲ以テ外界其ノ儘ヲ寫出スルモノトナシ、色聲香味觸ノ悉クハ、其ノ儘其ノ形ニ於テ外界トシテ存在スルモノトシ、若シ感覺ガ健全ニシテ且思惟ト相待ツトキハ、之ニ依リテ知覺シ得ラレザル外界ナキコトヲ信ジタリ。斯ノ如キハ「デーモクリトス」及ビ「プラトーン」ヨリモ遙カニ退歩シタルモノナリ。「デーモクリトス」及ビ「プラトーン」ノ世界ハ、説ク方面コソ異ナレ、共ニ理性ノ世界ナリ。殊ニ「プラトーン」ノ知識ハ吾人ノ觀念ナリ。實有ハ觀念トシテ存シ、觀念ニヨリテ窺ハレ得ルノミナリ。故ニ彼ハ「イデア」ノ實有ヲ説ケドモ、此ノ點ヨリイヘバ、是レ尙特種ノ觀念論ナリ。「アリストテレス」ノ世界ハ、外物其ノ儘ノ世界ナリ、極端ナル個在論實在論ナリトス。

「アリストテレス」ハ素朴ノコトヲイフテオウル。「プラトーン」ノ説ハ微スカニ「イデア」ノ傳ガ分ル現象トテ人間ノ觀念ニ合スル部分ガ分ルノミ、故ニ後ニ至リ彼ノ學徒ハ懷疑派ニ轉ズル

ニ至レリ。然ルニ「アリストテレス」ハ一ツ一ツヲ知覺シ得ルトセリ、健全ノ五感アレバ實在ヲ分別シ得ザルモノナク、存在セルモノハ全ク知覺シ得ベシトセリ、但シ「イデア」ノ普遍的存在ヲ全然認メザルニ非ズ、共通性が個物中ニ存在ストセリ。

第二 「アリストテレス」ハ純理論者ナリ、知覺ニ伴ヒ思惟ニヨリ得ラルベキ一般の共通の知識及ビ理法モ亦思惟の實在ト符合スルコト、知覺ト個個の目的物トノ關係ニ等シ。感官ハ知覺セラルベキ目的物ヲ其ノ儘寫出シ得、思惟ハ思惟セラルベキ理法ヲ其ノ儘寫出シ得、思惟ニ用キラルベキ範疇ハ其ノ儘外界ニモ固着シテ存スルモノトス。故ニ自然界ハ秩序組成ハ思惟ノ組成ト同一ナリ、自然ノ事物理法相互ノ關係ハ、即チ思惟相互ノ關係ニ合ス。宇宙ノ根柢ハ一大理法ナリ、理體ナリ。(佛教ノ我法俱有說及ビ法有我無說參照同一ノ理體ガ或ハ吾人ノ理性ヲ照ラシ、或ハ外界ノ個個ノ理法トシテ現ハルルナリ。「エムペドクレス」Empedokles ガ曩ニ「同類ハ同類ノミニヨリテ知ラレ得ベキコト」ヲ唱ヘ「パルメニデース」Parmenides 「フロラウス」Philolaus モ亦此ノ趣意ヲ認メ得タルガ「アリストテレス」ハ是ヨリ一種ノ形式ヲ定メ「ヌース」Nous 即チ妙法ヲ以テ宇宙最

「ロツツエ」
「トス」
「ト比」
「トス」
「ト比」

發達變遷モ
其ノ儘寫出
ニ存ストナ
ス

普通ニ認
ト對等ニ
メト共ニ
種ノ屬ヤ
定義ヲ格
ナル實在
トナス

「アラト」
「ハト」
「ハト」
「ハト」
「ハト」

後ノ根源トナシ、人間ノ精神モ外界ノ理法モ、皆此ノ保障ニ外ナラズトセリ、人間ノ靈妙ナルモ畢竟此ノ「ヌース」Nousノ恩惠ヲ蒙リツツアルガ故ニシテ、内外兩界ヲ融合調和セシメツツアルモノハ、此ノ「ヌース」ノ力ナリトス。サレバ「アリストテレス」ハ「ヘーゲル」Hegelニ於テ見ルガ如ク純理論者ニシテ、彼ノ純理論ノ精神ハ懷疑論 Skepticismus 名目論 Nominalismus ノ薄弱ナル反對アリシノミニシテ、近世ニ至ルマデ純正哲學ヲ支配シ「スピノザ」Spinozaモ亦之ニ依レリ。但シ「アリストテレス」ハ「ヘーゲル」等ガナセシ如ク汎神論的ニ説明セズ、「ヌース」ヲ此ノ世界ヨリ超越セシメ之ヲ純理的一神ニ高メタリ。是ハ「アナキザゴラス」Anaxagoras「ヌース」プラトーン「イデア」ヨリ轉化シタル純理的ノ一神ニシテ、自由力慈悲心ヲ備フル人格的ノ一神ニ非ズ、理法知識ノ根源ヲイフ。而シテ「アリストテレス」ノ理法ハ因果律ト合一シ、宇宙理法ノ一大體系ハ、神ニ存シタル第一原因ノ結果トシテ因果律ニ因リ存スルモノニシテ目的ト原因トハ全然合一シ、自由力ヲ以テ達セントスル活動目的ノ存スルコトナシ。(凡テノ知識ハ「外界ガ思惟ニ相應スベキコト」ヲ前提スレドモ純粹ノ理體「ヌース」ノ實在ヲ説クハ真空論ノ基礎ノ上ニ

説カレタル佛教唯識論ニ及バザル所トス

眞空論ヲ通りテ後ノ理體ハ「アリストテレス」ノ言フガ如キモノニ非ズ。

第三 「アリストテレス」ハ下ヨリ上ニ向フテ、研究セ、ントセリ。宇宙實體ノ形式ハ恒久普遍ナル存在ニシテ、其ノ存在ハ類種ニ對スル定義ト嚴格ニ符合スルモノナリ。然ルニ類種ハ *Species* ハ彙類シテ定義セラルベキモノナレバ、比較彙類記載ハ學問研究ノ方法ナリ。換言スレバ知識ハ事物ノ思惟セラレ得ベキコトニヨリ存在シ、此ノ思惟セラレベキコトハ、即チ定義ニヨリテ言ヒ表ハサレツツアルモノト合一スベク、事物ノ本質ハ多數ノ事物ニ共通ナル思惟シ得ベキコトノ總計ナリ。故ニ事物ノ本質ハ定義シ得ベク、此ノ種ノ定義ハ恒久普遍ナリ、外界ノ實在ニ合一シ得ルモノナリ。此ノ前提ノ許ニ下シタル彼ノ定義爲シタル彼ノ彙類、並ビニ比較研究ハ、後代歐洲ノ科學ノ發達ニ大ナル影響ヲ與ヘタルモノナルガ、又缺點ナキニシモ非ズ。蓋シ、或ル多數ノ個特定ヨリ、抽象セラレタル本質ノ定義ガ、其ノ場合ニ洩レタル無數ノ個特定ニ對スル定義タルノ效力アルベキ理由ナケレバナリ。當初ヨリ、普遍ヲ是認スルコトナク、單ニ個個

特定ノミヲ認メ、其ノ内部ニ存スル本質ハ、定義ヲ下サントセバ、如何ナル程度ニ於テモ、定義ハ存在ヲ認メ得ベキ理由ナケレバナリ。然モ不完全ナル概念ヲ恒久普遍ノ定義ト認メ再ビ之ヨリ演繹スルハ、著大ナル危険ノ存スルヲ想ハザルベカラズ。而シテ此ノ危険ハ現ニ中世ニ於テ著シク現ハレタル所ナリ。

「アリストテレス」ハ個物ニ重キヲ置キテ共通ノモノヲ抽象シテ彙類ス。本質ハ外界ニ存スルモノニシテ、ガツチリ定義ニ合スルモノトセリ。「ソークラテース」以來ノ主義ニテ、個個ヨリ上ルコトハ、良ケレドモ之ニテ困ルコトハ、何故ニ其ハ彙類ハ原料カ、リシ以外ハ物ハ束縛セラルルカ、分ラヌコトナリ。故ニ個物ヨリ抽象シテ本質ヲ求ムルニテハ、答ヘラレヌ。

要スルニ「アリストテレス」ガ、外界ノ個個特定ヲ最モ確實ナル實在トナシ、知覺ト思惟トニヨリ外界其ノ儘ヲ意識ニ映出シ得ベク、思惟シ得ル理法モ其ノ儘外界ニ存在ストナスニ至リタルハ、彼ノ缺點ナリトス。然レドモ宇宙ニ理法其ノ儘ノ實在スルヲ認メ、此ノ實在スル理法ヲ求メ得ベシトセシハ、「アリストテレス」ノミノ缺點ニ非ズシテ、希臘哲學總體ノ制限トイフベク、「プラトーン」新「プラトーン」學派、ストア學派モ亦然ラザルハナク、又東洋ニ於テハ龍樹ノ眞空論ノ基礎ニ立タザル佛教哲學理論ニ多ク見ル所トス。而シテ歐洲ニ於テ此ノ獨斷ニ支

自然法ノ有
無ノ論モ普
通ニ同シ

理學ハカ
トナリ、
格ナリ、
化形ハ
ナルノ
ルノ法
則ハ變
遷ト

配サレズ、實驗的ニ自然ノ事實ヲ分析研究セシハ、漸ク「ガリレイ」Galileiニ始マル。
「プラトーン」ハ「イデア」アリストテレースハ個物並ビニ理法ノ實在ヲ認ム。
故ニ此ノ點ニツキテハ共ニ實在論者ナレドモ「プラトーン」ノ實在ハ「イデア」即
チ理想觀念トシテノ實在ナリ。サレバ「プラトーン」ノ正系「アカデミー」ハ後年
終ニ純粹ノ懷疑派ニ轉化シ「アリストテレース」系統ノ嚴格ナル實在論ト相對
立スルニ至レリ。

第二項 哲學ノ體系

第一 基礎學科。

「アリストテレース」ノ哲學ノ體系ノ基礎ト爲ルモノハ、一方ニ於テハ認識ノ主
體ノ學問、即チ論理學ニシテ、他方ニ於テハ認識セラルベキ事物ノ學問、即チ實有
ノ原理ヲ論ズル純正哲學ナリ。

一 論理學。在來思惟辯論ノ技術ニ附屬セシ論理ハ「ソークラテース」及「ピプ
ラトーン」ヲ經テ、後ニ至リ新ナル學問トシテ獨立セシメラレタリ。論理學ハ認

識ノ具タル思惟ノ學問ナリ然レドモ彼ノ論理學ハ、彼ノ實有ノ原理又ハ本體論
ヨリ全ク離レタルモノニ非ズ。何トナレバ彼ハ思惟其ノモノヲ實有ノ形式ニ
合一スルモノトナスヲ以テナリ。純理的實有ト淪ラザル關係ヲ保持スルモノ
ヲ、推理ニヨリ知識トスルモノナレバ、彼ハ論理學ヲ獨立ノ學問トナセシガ、實ハ
實有ノ原理ト分離シ得ベカラザルモノナリ。全然此ノ關係ヲ打破シ、論理ヲ以
テ思惟ノ形式トナスニ止メ、之ヲ知識ノ内容ヨリ分離セシメ、實有論ト混同スル
コトナカラシメタルモノハ「カント」ナリ。

二 純正哲學。純正哲學ハ認識セラルベキ一切ノ實有ニ亘レル原理ヲ論ズ
ル學ナリ。論理學ニ對シテイヘバ本體論 *ontologie* ナリ。「アリストテレース」ハ
特ニ之ヲ名ヅケテ第一哲學 *primaphilosophia* (*πρῶτη φιλοσοφία*) トイフ。彼ノ歿後「ア
ンドロニコス」Andronikos ガ其ノ遺稿ヲ集メ、其ノ師ガ先ヅ物理學ヲ講シ、其ノ後
ニ第一哲學ニ及ブヲ常トセシヲ以テ、物理學 *physika* (*φυσικά*) 篇ノ後 *meta* (*μετά*)
ニ置ケリ。然ルニ「後即チ *meta*」ノ字ハ、又以上トイフ意義ヲ有スルヲ以テ、物理以
上ノ學即チ形而上ノ學ヲ意味スルコトトナリ、其ノ後第一哲學ハ反ツテ形而上

學トシテ知ラレタリ。此ノ形而上學ハ論理學ヲ始メ、一般ノ現象ノ學問ノ研究ノ結果トシテ立テラレベキモノトシ、彼ノ著作ノ順序モ亦最モ後レタルモノナ
ルガ、論理學ト共ニ現象ノ學問ノ基礎ヲナシ、論理學スラ尙形而上學ノ根柢ノ上
ニ成立シツツアリ。

第二 物理學及ビ精神學。

論理學及ビ實在原理(形而上學)ノ基礎ノ上ニ存スルモノハ、自然及ビ精神ニ關
スル各學問ナリ。

一 物理學。物理學ハ即チ彼ノ自然哲學ニシテ、數學及ビ自然論、有機體論、動
植物學、心理論ヲ包含ス。

二 精神學。精神學ハ心理論ヨリ移リテ道德學、政治學、修辭學、詩歌學ニ分カ
タル。斯ノ如クシテ學問ハ「アリストテレース」ニ至リ整然トシテ各種ノ科學ニ
彙類セラレ、其ノ各方面ハ相互ニ分岐シツツ獨立ノ形ヲ具フルニ至レリ殊ニ在
來不完全ナリシ政治論ハ、彼ニヨツテ始メテ大成セラレタリ。國權論ハ彼ノ特
長ナリ。「プラトーン」ノ長所ハ「イデア」論ノ精神ニ在リ、「アリストテレース」ノ長所

門下生ヲ集
メテ材料ヲ
蒐集シタル
ノミナラズ
彼ノ自ラ亦
有シタル大

ハ其ノ國家論ニ在リテ、彼ノ哲學ガ著シク近世ヲ刺激セシモ、亦此ノ點ニ存ス。

第二款 論理學及ビ實在原理論

第一項 論理學ノ要領

「アリストテレース」ハ「エレア」[Ereia]學徒、殊ニ「ソフキスト」輩以來惡用セラレタル論
理ヲ「ソークラテース」[Platon]ノ精神ニ從ヒ結晶セシメテ眞面目ノ論理學ト
ナシ、現今ニ至ルマデ論理ノ道ヲ指シ示シツツアリ。彼ノ學徒ハ之ヲ最重要
ナル研究ノ具トナセシガ、故ニ論理ニ關スル「アリストテレース」ノ著作ヲ「オルガ
ノン」[organon (Organon)]ト稱ス。

第一 總說。

「アリストテレース」ハ「イデア」論ノ見解ニツキテハ、「プラトーン」ト異ナリタル所
アレドモ、尙其ノ高弟タルヲ失ハズ。彼ハ事物中ニ存スル通性理法ニ重キヲ置
キ、之ト相待チ個個特定ノ事物ヲ嚴格ニ實在トナセドモ、亦大ニ「ソフキスト」輩ト異
ナリテ、共通性ヲモ認メタルモノナリ。唯知覺ヲ主トシ個物ヲ重ンズルガ故ニ、

此ノ内形而
上學ハ最後
ニ完成セラ
ルベキモノ
トスレドモ
尙總ベテニ
通シテ基礎
トナリツツ
アレバ此ノ
所ニ證明ス

此ハ共通性ヲ知ルニハ必ズ差別ヲ以テ相對スル個物ノ實驗ヨリ始メザルベカラズトナスナリ。此ノ通性理法竝ビニ個性ハ外界ニ實在スルガ故ニ精密ナル知識正確ナル判斷ハ外界ノ實在ニ相應スル吾人ノ意識ナリ。否實有テ其ノ儘思惟ニ現映セシムルモノナリ。故ニ迷誤トハ實在ニ相應セザル知識ヲイヒ、正確ナル判斷トハ主位客位ノ關係ヲ外界其ノ儘ノ如ク連結セシムルモノヲイフ。此ノ正確ナル判斷ニハ直接間接ノ二様アリ。直接判斷トハ前提ヨリ出デタル結論ニ非ズ間接判斷ハ二ツ以上ノ直接又ハ間接判斷ヲ結合セシメテ得タル結論ナリ。而シテ此ノ數多ノ判斷ノ結合ニ關スル形式ヲ確立シタルハ「アリストテレース」ノ功績ナリ。

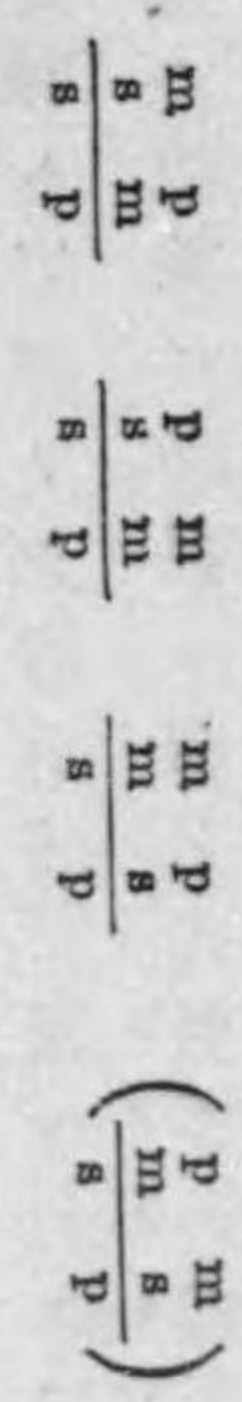
第二 三段推理。

二ツノ判斷ヲ前提トシテ結論ヲ得ル論法ヲ三段推理法 Syllogismus トナス。必要ナルモノハ中概念 Mittel-Begriff 又ハ媒項ナリ。故ニ適當ナル中概念ヲ見出すコトガ三段推理ノ要件ニシテ、又此ノ推理ノ形式ノ列擧ニツキテモ、此ノ中概

結婚後何人
マテモ仲人
ガテモ仲人
ハテモ仲人
中ハテモ仲人
同ハテモ仲人

念ニ留意シテナサレ得ベキモノトス。アリストテレス各物ノ共通性ヲ考メ、又「アリストテレース」ハ此ノ點ヨリ此ノ種ノ推理法ニ三種ノ圖式ヲ立テタリ。之ニ「ガレース」Galenus 第二世紀ノ立テタル圖式ヲ加ヘテ四種類トナス。

推理法四種ノ圖式トハ左ノ如シ。mハ中概念、P大概念、mハ小概念ナリ。



第三 歸納推理。

三段推理法ハ知ラレタル一般ヨリ知ラレザル特殊ヲ導キ出す思惟ノ方法ナリ。然ルニ知ラレタル個個特定ヨリ知ラレザル一般ヲ判斷セントスル思惟ノ方法アリ。之ヲ歸納推理法トナス。是レ「ソークラテース」ノ主要ナル研究方法ニシテ「アリストテレース」ニ至リ推理ノ確定シタル形式ニ高メラレタルモノナリ。譬ヘバ太郎、次郎、三郎等ハ俊才ナリ、太郎、次郎、三郎等ハ隆準ニシテ美髯アリ、故ニ鼻高クシテ美髯アル人ハ俊才ナリトイフハ歸納法ナリ。然レドモ若シ太郎、次郎、三郎等ガ有ラン限リノ俊才ナレバ可ナレドモ、完全歸納法實ハ有限ナル

「セツクスト
ス、エムビ
リコスレ」
論参照

場合ハ殆ンド無ク、結局唯任意偶然ノ或範圍ノ俊才ヲ比較研究シテ此ノ論結ヲナスモノナリ。(不完全歸納法) 併シ歸納法ノ效用ノ存スル所ハ、完全歸納法ノ場合ニ非ズシテ、不完全歸納法ノ場合ナリトス。或知ラレタル有數ノ事物ノ比較研究ノ結果、歸納推理ニヨリテ結論ヲ出シ、更ニ此ノ結論ニヨリ此ノ以外ノ未知ノ場合ヲ豫知セシメントスルモノニシテ、「アリストテレース」自身ノ比較研究ハ之ヲ主眼トセルモノニ外ナラザレバナリ。

果シテ然ラバ歸納推理ノ正當ナルハ何故ナルカ。此ノ點ハ「バーコン」 Bacon 「ミル」 Mill 「シグワルト」 Sigwart ノ見解ヲ異ニセル所ニシテ「アリストテレース」ハ充分ニ之ヲ解釋シ得ザリシ者ナリ。蓋シ彼ノ缺點ハ

一 事物ノ特殊ノ存在ニ對シテ、對等ニ普遍存在ヲ認メザルニ在リ。普遍存在ヲ認メザルガ故ニ、各事物ノ表現方面ヲ認メズ。故ニ一事物ヲ見テ直チニ其ハ背後ノ普遍ヲ見得、從ツテ他ノ萬般ノ事物ヲ見得ルヲ確論スルコトヲ得ズ。例ヘバ角ヲ見テ直チニ牛ヲ見ルコトヲ正當ナリト解キ得ズ。又表現方面ヲ透シテ背後ノ普遍ヲ見得ル場合ト否トニ從ヒ、小數經驗ヨリ歸納スルコトガ正ト

一、方ニ認メハ、
運ニ認メハ、
標準ニ認メハ、
抽象ニ認メハ、
圖ヲ認メハ、
象ヲ認メハ、
シシ得ザル

ナリ、又不正トナルハ區別ヲ明ラカニ爲シ得ザルニ在リ。固ヨリ「アリストテレース」モ亦ソークラース「プラトーン」ノ後ヲ承ケ、事物ノ通性ヲ見ントスルニ切ナリシモノナリシガ故ニ、個性ヨリ共通ノ部分ヲ抽象シ來リテ之レヲ本質(本體ノ形式)トナシ、之ニ定義ヲ與フルコトヲ目的トシ、吾人ノ理性ハ能ク之ヲナシ得ベキモノト信ジ、此ノ本質(本體ノ形式)ノ定義コソ即チ實在ノ形式。其ノ儘ニ相應スルモノナレバ正確ニシテ、個物ハ其ノ本質ニ夫自身ノ偶然ナル性質ヲ附ケ加ヘラレタルモノナリトセリ。然レドモ個物ハミニ重キヲ置キ、個物ヨリ共通性ヲ抽象セントスルヲ以テ、悉皆ノ個物ヨリ抽象セラレズシテ、尙事物ノ本質ヲ定義シ得ベシト考フルハ、既ニ矛盾セリトイハザルベカラズ。ハ知覺スル個物及ルビ世上一般ニ又ハ學識アル者ノ認メツツア

二 「アリストテレース」ハ定義ヲ以テ正確ニシテ實在ノ形式ニ合シ、其ノ個物ノ知識モ亦正確ニシテ、實有ニ合一スルモノトナス。故ニ一度下シタル定義ハ全然有效ニ各個ノ事物ニ用キラルベキコトヲ前提シ、此ノ定義ニ特殊ノ内容ヲ附加シタル知識ハ、其ノ儘個物ノ實在ニ相應スルモノトナス。然レドモ是レ歸

コアリリス
テハ理論上
ハ理論形式
在リハ形式
根拠ハ順序
究メテハ先
トモ先ナリ
物リガ順序
モトモ先ナ
レドモ先ナ
正時モ先ナ
最切然リ個

第一門 第二章 希臘哲學ノ盛時 第五節 「アリストテレス」 論理學ノ要領 二二八
納推理ノ性質ヲ誤ルモノナリ。吾人ハ元來個物ヲモ絕對ニ認識スルコト能ハ
ザレドモ、又絕對ニ普遍ノミヲ認識スルコト能ハズ。唯雙方ノ知識ノ圓融スル
範圍ニ於テノミ、個物ニ對スル精密ノ知識アルヲ認メ、普遍ニ對スル精密ナル知
識アルヲ認メ得ベキノミ。サレバ是等ノ知識ハ本來絕對ニハ外界自身ニ合一
スルモノニ非ズ。歸納推理ノ結果得タル判斷ハ普遍ニ關スル知識ナレドモ、是
レ亦個物ノ知識ニヨリ、益、保障セラルベキコトヲ條件トシテ、有效ナル知識タル
コト、恰カモ個物ノ知識ガ普遍ノ知識ニヨリ、益、保障セラルベキコトヲ條件トシ
テ有效ナル知識タルニ等シキガ如シ。故ニ歸納推理ノ形式ヲ用キテ、精密ナル
結論ヲ得ンニハ、一方ニハ個物特定ノ實驗ヲ成ルベク多クノ場合ニ行ヒ、又個
ノ實驗ニ矛盾セザル範圍ニ於テ其ノ效力ヲ認ムルコトヲ要スベク、個物特定ノ
實驗ヲナスニハ、成ルベク其ノ根柢タル普遍ヲ明ラカニ爲シ置クコトヲ必要ト
スルモノナリ。要スルニ論理ハ夫レ自身決シテ絕對ノモノニ非ザルナリ。(天
台ノ三諦圓融ノ理參照)

第四 矛盾律。

活論ハ實現
動具ハ實現
者レバ實現
スルニシテ
近シテ

終リニ、彼ノ矛盾律ニツキテ述ベン。凡ソ同一ノ事物ニツキ同一ノ事項ヲ肯
定シツ、尙ホ同時ニ之ヲ否定シ、或ハ同一ノ事項ヲ否定シツ、尙ホ同時ニ之ヲ肯
定スルコトヲ得ズ。之ヲ矛盾律トナス。「アリストテレス」ノ論理全體ニ通ズ
ル、最後ノ原則トシテ、又他ノ原則ニヨリ説明スルコトヲ要セザルモノハ、矛盾律
ナリトセリ。矛盾セル事物ハ決シテ存在スルコトナシ。故ニ條件理由根據ヲ
吟味シテ、一ツ一ツノ場合ニ矛盾セルモノノ一方ヲ是認シ、他方ヲ否認スベキモ
ノトセリ。此ノ思想ハ「アリストテレス」ノ論理學ノミナラズ、彼ノ實在原理論
ヲモ支配セリ。彼ガ個物ノ實在ヲ中心トシテ是ト同等ナル普遍ヲ認メズ、個物
ノ獨立的存在ヲ説ケドモ、其ノ表現的存在ヲ説カザルガ如ク、又「プラトーン」ノ「イ
デア」論ヲ攻撃シタル主ナル論法モ、皆此ノ狭少ナル矛盾律ヲ最高ノ原則ナリト
獨斷セルヨリ來ルモノナリ。念即「イデア」ハ元來個物ト相對立スルモノニ非ズ、
「イデア」論ヲ却ケタルガ如キ。人間ノ製作物ニ「イデア」ナキガ故ニ凡ソトハ矛盾
ナデア界ニ存在スルコトハ、矛盾ニツキテ云フ極端マリアデア界が整然タル統制ヲ
スルコトハ皆此ノ類ナリ。是レ彼ノ系統ノ大ナルコトト研究ノ緻密ナルコトト

眞空論参照

ニ關ハラズ、其ノ思想ノ雄大ナル點ニ於テ「ヘーラクライトス」ノ眞空論的主義ニ及ブ能ハザリシ所以ナリ。是レ又現今ノ科學的研究ガ殆ンド「アリストテレース」ノ此ノ思想ノ下ニ支配セラレテ自ラ之ヲ悟ラズ、反ツテ「ヘーゲル」Hegelヲ不可解トナシ、佛敎ノ哲理ヲ以テ荒誕無稽ナリトスル所以ナリ。又是レ表現關係發見關係ヲ以テ全部相對關係ト矛盾セリトシ、論理上ノ原則ニ反スト罵ル者アル所以ナリトス。

ツマリ矛盾律ヲ最高トスル「アリストテレース」ノ前提ヲ信ヅ是ヨリ出發スルガ故ニ眞空論ヲ解シ得ザルナリ。

第二項 實在原理論

第一目 範疇論

學識ノ目的ハ、思惟ト實在トヲ精密ニ相應セシムルニ在リ。是故ニ一切ノ實有ニ互リテ、有效ナル原理ヲ論ズルノ學問無カルベカラズ、之ヲ第一哲學即チ形而上學トナス。此ノ形而上學ハ、個物ノ知識ヨリ次第ニ抽象シ得タル原則ヨリ

更ニ抽象シタル、根本原則ヲ討究スルモノニシテ、其ノ形而上學ト論理學トヲ連結セシムルモノハ範疇論ナリ。是レ「アリストテレース」以後今日ニ至ルマデ討究セラレツツアル問題トナス。「アリストテレース」ニヨレバ十種ノ範疇アリ。

- 一 本體又ハ實體 Substanz
- 二 分量 Quantum
- 三 性質 Qualität
- 四 關係 Relation
- 五 場所 Ort
- 六 時間 Zeit
- 七 態度 Lage
- 八 附屬 Zustand od. Haltung
- 九 能動 Activität od. Thun
- 十 所動 Passivität od. Leiden

吾人ノ判斷ハ是等ノ一又ハ數多ヲ言ヒ表ハシツツアルモノナリ。但シ「アリストテレース」ニヨレバ、此ノ範疇ハ吾人ノ思惟ノ要件タルノミナラズ、又外界ノ實有ニ附着シテ存在スルモノナリ。是レ「カント」ノ範疇トハ全然其ノ性質ヲ異ニスル要點ナリ。

第二目 本體論

思惟セラレ言ヒ表ハサルモノハ實在ニシテ之ヲ本體(essence)又ハ實體トナス。眞實ニ存スルモノトシテ確カニ知ラレ得ルモノハ唯本體自身アルノミ。

第一 本體ハ實有ニシテ各個ノ物タルコトヲイフ。「物タルコト」以外ニツキ、言ヒ表ハシ又ハ思惟スルコトハ唯其ノ實在ニ有效ナル屬質ヲ説キ得ルニ止マ。其ノ屬質ハ數多アレドモ、歸スル所ハ終ニ其ノ「物タルコト」即チ本體ニ歸スルノミ。或ハ分量ニヨリテ量リ得ベキコト特殊ノ性質アルコトアルベク、或ハ場所及ビ時間ノ關係ヲ有スベク、又或ハ働キカケ或ハ働キカケラルルモノタルコトアルベケレドモ、是等ハ益、獨立ノ實在ニ非ズシテ唯本體トシテ實在スルノミナリ。本體ノ實在ヲ認メザレバ、何程多數ノ屬質ヲ列擧スルモ、物夫自身ヲ認メ得ザルベク、一ツノ物ヲ認ムレバ無數ノ客語ニヨリテ其ノ屬質ヲ説明シ得ベキニ拘ハラズ、本體ハ決シテ屬質ノ何レニモ非ズ、常ニ主位ニ在リテ客位ニ立チ得ザルモノナリ。サレバ「アリストテレス」ニヨレバ一面ニ於テハ個物ノミガ嚴格ナル實有トイフベシ。故ニ彼ハ著シキ個在的實在論者ナリ。

白墨ハ實在シテ居リ、之ニ本體アリ。唯白キモノナリ、澤山ノ粉ノ集合ナリ、相當ニ堅キモノ

ナリ、或ハ一ツトナリテ存スルモノナリ、脆キモノナリ、等アレドモ、是等ハ白墨ノ本體ニ非ズ。白シトカ堅シトカハ客語ニシテ種種ニ言ヒ表ハサレ得レドモ、其ノ主位ニ在ルモノハ其ノ何レニモ非ズ。唯本體アレバ當然是等ノモノガ實在シ、白キ脆キ等ハ白墨ヲ離レテ存在スルモノニ非ズ、白墨ニ附キテ居ルモノナリ。本體自身ハ本體トシテ言ヒ表ハス能ハズ、無數ノ客語トシテ、表ハサレテ、居ルモノナリ、無數ノ客語トシテ表ハサレツツ本體ニ附キテ居ルモノナリトセリ。

第二 然レドモ尙彼ハ他ノ方面ニ於テ、是等ノ個物ハ恒久普遍ナル思惟ノ法則及ビ共通ノ概念ニ根據シテ認識セラレ得ベキモノトセリ。此ノ點ハ彼ノ「プラトーン」ヨリ承ケタル思想ナリ。

第三 此ノ兩方面ヲ調和スル爲ニ、彼ハ本體ノ形式(又ハ形相)ヲ認メ、各個ノ物ニ共通ナル本體ノ形式ガ各個物中ニ内在スト認メタリ。感官ニヨリ認メ得ベキ各個物ノ部分ハ變化シ易キ偶然ナル部分ナルガ、思惟ニヨリ知り得ベキ部分ハ渝ラザル方面ナリ。此ノ渝ラザル方面ハ事物ノ本質即チ本體ノ形式トシテ實在セル個物ニ内在シ、其ノ變化ト相離レザルモノトス。茲ニ於テカ彼ノ形式質料ヲ論ゼザルベカラズ。

第三目 形式質料ノ論

總ベテノ事物ハ其ノ中ニ本體ヲ藏シ、本體ハ形式ト質料トノ關係ニヨリ事物中ニ發展ス。本體ハ形式ハ事物ハ本質自身ヲナシ、此ハ傍ニ之ト離ルベカラズニ存スル質料アリ。此ノ質料ハ夫自身存在シ得ルモノニ非ズ、必ズ個物中ニ存在シ、個物ヲ實在シ得セシムル原料ニシテ、之ニヨリ個物ヲ成立セシムルヲ以テ、茲ニ形式又ハ形相アリ。即チ質料ニヨリ之ニ特殊ナル形式アリ得ルモノナリ。然モ形式ヲ表ハシ得ベキガ故ニ、質料タリ得ルモノナリ。此ノ形式ハ現勢ニシテ質料ハ潛勢ナルガ、二者離レズシテ存在スル結果、事物ニ生長發達變遷アルモノトス。「アリストテレース」ハ「プラトーン」ノ「イデア」ト「メーオン」トノ二元ヲ採用シテ、一元ノ兩方面ト認メタリシナリ。之ニヨリテ彼ハ古ヨリ爭ハレシ「ヘーラクライトス」派ト「エレア」派トヲ調和シ得ベシト信ジタリキ。但シ「アリストテレース」ハ「質料」ハ「プラトーン」ハ非有ヨリ、モ寧ロ物質ニ近シトス。「アリストテレース」ハ形ト質トノ關係ヲ明ラカニスルガ爲ニ、事物ノ發達變遷

形式 (eidos)
質料 (hylē)

眞言四種ノ
曼茶羅

ニツキ之ヲ四因ニ分析セリ。是レ眞言ノ四種曼茶羅ニ似タルモノナレドモ、アリストテレースノ四因論ハ動狀ニ重キヲ置キ、眞言ノ四曼ノ如ク靜狀ヲ主トセルモノニ非ズ、ザレバ、自ラ異ナル所アルモノトス。即チ質料因ニ當ル、形相因ニ當ル、動力因ニ當ル、及ビ目的因ニ當ル、是ナリ。此ノ中、形相因ナルモノハ大略「プラトーン」ノ「イデア」ニ該當スルモノナリ。之ヲ家屋ノ建築ニ譬フレバ、質料因トハ建築ニ用キラルベキ材料ノ在ルコトニテ、動力因トハ其ノ材料ヲ組成スルカノ在ルコトナリ。形相因トハ建テラレントスル家ノ概念又ハ理想ニシテ、而シテ其ノ家ヲ造ラントスル目的ノ存在ヲ要スルコト即チ目的因ナリ。「アリストテレース」ハ尙人工物ニツキ、假リニ此ノ四因ヲ嚴格ニ分析シ得ベキモノトシ、自然物ニツキテハ、歸スル所ハ形式因ト質料因トノ二ニ歸スベキモノトセリ。自然物ノ發達變遷ニツキテイヘバ、形相因ハ或概念ヲ中心トシテ之ヲ實現セントスル目的ヲ包含シ、同時ニ目的アルガ故ニ之ヲ實行スル動力ヲ意味スルモノナリ。是レ希臘ニ於テ始メテ明白ニ動力ト目的トヲ分析シツツ尙之ヲ同一視シ、且之ヲ以テ一切ノ事物ニ存在スル本體ノ形式ニ結合セシメシモノ

ニシテ、古代ノ汎心論ハ其ノ絶項ニ達セシモノトイフベシ。

萬般ノ事物ノ本質ハ形相ナリ、勢力ナリ、目的ナリ。宇宙ハ物質ノ有スル運動力ニ因リ機械的ニ動キ、目的ナク變遷スルモノニ非ズ。故ニ「アリストテレス」ノ「質料ト稱スルモノ」ハ「デーモクリトス」ノ「原子ト同一ニ非ズ、又形相ト離レ孤立ノ存在ヲナシ得ベキモノニ非ズ。而シテ一切ノ不完全及ビ偶然ノ原因トナルモノナリ。此ノ質料ニヨリ本體ノ形式ガ己ノ動力ニ基ヅキ己ヲ實現シ得ルモノニシテ、之ニ因ツテノミ具體的ノ個物ガ存在シ得ルニ至ルモノトス。サレバ「アリストテレス」ノ「質料ハ物質ニ似タルモノナレドモ、尙「プラトーン」ノ「メーオン」ヨリ轉化シ來レルモノニ外ナラザルヲ知ルベシ。

第四節 一神ノ論

宇宙萬物ハ質料ト形式トヨリ成ル。質料ハ形ヅクラルルモノニシテ動力ヲ備ヘズ。動力ヲ有シ其ノ目的ヲ備ヘテ質料ニ働キ掛クルモノハ形式ナリ。是等ノ形式ハ自ラ他ヲ動かセドモ、其ノ相伴フ所ノ質料ノ如何ニ應ジテ、更ニ高等

認定外ノ自主行為参照ノ神参照

ナル形式ノ動力ノ支配ヲ受ケ、終ニ統括制ヲナシテ最後ノ形式ニ達ス。此ノ形式又ハ形相ハ、最早質料ト共存スルモノニ非ズ、質料ヲ離脱シテ、獨リ存在シ、自目的ヲ有スル原始ノ形相ナリ。他ニ動カサルコトナキハ、勿論、自ラモ動クコトナクシテ、尙他ヲ動かス原働者ナリ。純然タル現勢ニシテ更ニ潛勢ナク、完全圓滿ナル現實ノモノトシテ存在スル第一原因ナリ。此ノ第一原因ハ夫自身善ニシテ宇宙ヲ支配スル善ノ目的ノ根源トナリ、又恒久不變ノモノナリ。此ハ原働者、第一原因、純粹形相、恒久不變ノモノ、善ナルモノヲ神ト名ヅケ、此ハ世界以外ニ超越シ、孤立シテ存在スル純粹ナル理知ナリ。「アナキザゴース」ノ「ヌース」參照即チ此ノ神ノ本質ハ、自ラ己ヲ思惟シ、己ヲ知ルコトニ在リ。己ヲ知ルハ、智ヲ以テ足ルモノナリ。純粹ハ、自觀ノハ、ミニテ圓滿自足ヒルモノナリ。「認定世界ニ於ケル自主行為参照」スノ如ク神ハ圓滿自足ノ極ナルガ故ニ、自ラ働クコトナクシテ自ラ一切ノ形式事物ニ動クベキ原因ヲ與フルモノナリ。其ノ完全、善美、理知ニヨリ自ラ一切ノ質料並ビニ形式ヲ引寄せ、萬物ハ自然ニ其ノ徳ヲ慕フテ之ニ嚮フテ進ミ、以テ茲ニ萬般ノ運動ヲ開始セシムルニ至ルモノナリ。

「アリストテレス」ノ一神ハ、斯ノ如ク宇宙ニ超越シテ存スル自主者ニシテ、宇宙ノ原動力ノ主體ナリ。自然力原動力ノ主體ハ神ニ於テ合一ス。「アリストテレス」ハ、其ノ論理學ニ於テ嚴格ナル矛盾ヲ立テ、其ノ絕對ナルコトヲ認メシガ、此ノ原則ヲ嚴守セントセシ結果、ハ自ラ其ノ實在論ニ於テ一大矛盾ヲ認メザルヲ得ザラシメ、此ノ種ノ超越的一神ヲ認メザルヲ得ザラシメタリ。故ニ此ノ一神ハ有ラシメ、矛盾ノ集合ニシテ矛盾ヲ集メテ統一シツツアルガ故ニ圓滿自足セルモノト見ラレツツアルモノナリ。即チ

- 一 先ヅ彼ハ「プラトーン」ノ「イデア」界ノ超越的ナルヲ駁シ、其ノ二元的ナルヲ批難シ、内在的一元論ヲ唱ヘントシタルガ、其ノ結果彼ノ神ハ一層極端ニ超越シ、此ノ世界ニ對シテ孤立セル關係ハ、一層極端ナル二元的形式ニヨルモノトイフベシ。
- 二 彼ハ事物ノ發達變遷ニ重キヲ置キタレドモ全然神ノ變遷ヲ否定セリ。
- 三 彼ハ本體ノ實驗ニ重キヲ置キツツ、神ハ純粹ノ自觀ノミニテ事足レリトセリ。

ア氏ノ此ガ
矛盾ハ此ノ
過度ニ矛盾
律ヨリ來リ
シヨリ然リ
果ナリ

- 四 彼ハ本體ノ形式ハ必ズ質料ヲ待ツテ存スベキモノトシツツ、神ハ純粹形式ニシテ全ク質料ナク、孤立シテ實在セルモノト説ケリ。
- 五 彼ハ動カス原因ナケレバ動クモノニ非ズト説キツツ、尙神ハ動カスモノナキニ關セズ自ラ動キ得ルモノトセリ。
- 六 彼ハ動カザレハ他ヲ動カシ得ザルコトヲ認メナガラ、神ハ自ラ動カズシテ自ラ他ヲ動カストセリ。
- 七 終リニ、彼ハ世界ニ不完全ノアルコトヲ認ムルニ關セズ、神ハ善ナリ質料ノ不完全ノ束縛ヲ受ケズシテ善ノ目的ヲ有シ、世界ヲ率キル運動ヲ始メツツアリト論斷セリ。

之ヲ要スルニ、彼ハ矛盾ヲ以テ最高不動ノ原則トスルハ、缺點ヲ、自ラ補フハ必要ヲ感ジ、此ノ世界ヨリ一切ノ矛盾ヲ抽象シテ、不思議ナル一神ヲ結晶セシメタルモノトイフベシ。

「ヘーラクライトス」ハ矛盾ナク存在セズトイフニ、アリストテレス「ハ」之ト反對ナルコトヲ原則トシテ、世界ノ系統ヲ立テントセシ故、世界ハ矛盾ヲ何レカニ持チ行カザルベカラズ。故ニ之ヲ集合シテ、神ニ押シ付ケタリ。而シテ、曰ク、此ノ世ハ中ニ矛盾ナルモノハナシト。佛教

第一門 第二章 希臘哲學ノ盛時 第五節「アリストテレース」自然哲學
二三〇
ノ。汎神論ハ「アリストテレース」此ノ矛盾ノ結晶ヲ超越界ヨリ取り卸シ來リテ普ク世ノ中ニ
振リ撒キタルモノナリ。

第三款 自然哲學(物理論)

「アリストテレース」自然哲學ハ、自然論生物論心理論ヲ包含スレドモ、自然論ハ生物論ニ及バズ、生物論ハ國家論ノ如ク完全セルモノニ非ズ。即チ彼ノ重キヲ置キタルノ點ハ人事ノ研究ニ在リ。此ノ點ニツキテモ彼ハ又「ソークラテース」系統ニ屬ス。

第一 自然論。

自然ハ發達變遷スル嚴格ナル實有ナリ。此ノ變遷ハ目的ヲ實現スル變動ニヨリテ爲サルモノトシ「デーモクリトス」ノ機械的運動說ニ反對セリ。此ノ變動ニハ分量及ビ場所ノ變動ニ關スルモノト、性質上ノ變動ニ關スルモノトアリ。特ニ複雑ナル變動トシテハ生物ノ成長アリ。又自然物ノ性質上ノ差異ハ結局スルトコロ元素ノ性質ヲ異ニスル結果ニシテ、分量上ノ差異ニ歸着セズ。此ノ種ノ元素ハ地水火風及ビ「エーテル」ナリ。是レ又「デーモクリトス」ガ元子ニ性質

五大、五行ノ説

上ノ差異ヲ認メザリシコトトハ大ニ異ナル所ナリ。(佛教ノ地水火風空、支那ノ木火土金水參照)有スル有機體ナリ。

是等ノ元素ニヨリテ存スル世界ハ分レテ天上天下ト爲ル。天ハ高ク圓滿ニシテ滅セズ、其ノ運動ハ圓ヲナシ常住ノ相ヲ現ハシ、之ヲ構成セル原素ハ「エーテル」ナリ。地ハ低ク不完全ニシテ消滅ヲ免レズ、輕重偶然運命個個ノ差別ヲ以テ充タサレ、其ノ運動ハ直線ニシテ、之ヲ構成スル元素ハ地水火風ナリ。

此ノ説ハ「ピタゴラス」及ビ「プラトーン」ノ二界論ヨリ退化シタルモノニシテ、中世ノ二界論ヲ確定セシメタルモノトス。「ダンテ」Dante「トーマス、フオン、アクイノ」Thomas von Aquinoモ亦此ノ論者ナリ。而シテ此ノ地ヲ中心トシテ宇宙アリ、茲ニハ多數ノ球アリテ回轉ス、其ノ運動ノ由テ生起スル所以ハ「動キ又ハ動カス」コトナクシテ動カス所ノ原働者、即チ「神」ニ存在ス。

基督教ガ來リテ「アリストテレース」ノ二界論ハ都合ヨキ故之ヲ採用シタリ。

第二 生物論。

「アリストテレース」ハ有機體ヲ比較シ記載シテ其ノ學問ヲ起シタル元祖ナリ。

此ノ學ハ彼ニヨリテ完成セラレタルニハ非ザレドモ、學問系統中ニ有機體ノ發達ニ關スル一科ヲ加ヘタルハ彼ノ大ナル功績ナリ。彼ニヨレバ世界ハ變遷スルノミナラズ發達シツツアリテ、此ノ發達ノ階級ニ從ヒ、最モ下級ニ無機物界アリ、其ノ上ニ植物界アリ、其ノ上ニ動物界アリ、最後ニ人間界アルモノトス。無生物界ノ物モ亦目的ヲ有シテ運動スレドモ、此ノ目的アル運動ハ生物界ニ於テ最モ顯著ナリ。生物界ノ各階級ハ何レモ其ノ原動力トシテ精神ヲ有シ、之ニヨリテ其ノ形體ヲ形成シ、其ノ形體ヲ動かスモノナリ。精神ハ即チ言ハバ生物ノ質料ヲ形成シ、之ヲ支配スル生物ノ形式ナリ。故ニ生物ハ皆生長シ、生殖シ、營養作用ヲナシ、常ニ變動シツツアルモノナリ。此ノ精神ニ幾多ノ小階級アルコトガ、即チ生物ニ階級アル所以ニシテ、上級ノ物ハ常ニ下級ノ物ノ有スル精神ヲ包括シ、下級生物ニ發達シタルガ如キ活力ヲ有スレドモ、下級ノ物ハ更ニ上級生物ノ有スルガ如キ精神ヲ有セズ。故ニ動物界ノ物ハ、無機物界及ビ植物界ノ有スル有ラユル性質ヲ有シ、更ニ尙感覺及ビ欲求アリ、且自力ニヨリ其ノ居所ヲ移スコトヲ得。人間ハ是等ノ總ベテノ性質ヲ包容シツツ、之ヲ基礎トシテ感覺ノ上ニ

平靜不動モ
大活動ナ
リ、忙カシ
ソウニシテ
ツク計リガ
活動ニ非ズ

聖道李尼ノ
涅槃ニ衆生
ヲ網羅スル
コト参照
Davidsonノ
進化論ノ影響
参照

論理的ニ思惟スルコトヲ得。自力ニヨリ己ヲ動カシ得ルコト、及ビ欲求ノ上ニ意思ノ自由因果律ニ對スル有ス。下級ノ生理的作用、心理的作用ハ、是等高等ナル精神作用ノ用ヲ爲スベキモノナリト。此ニ至リテ彼ノ目的的世界觀ノ下ニ四種ノ世界ノ營メル四種ノ作用ガ認めラレタルモノナリ。曰ク機械作用、植物作用、動物作用、及ビ人間ノ作用是ナリ。コハ應テ物體ノ作用ニ運動ト活動ト活動トヲ區別セシメザルヲ得ザルノ前驅ナリ。此ノ區別ハ無機物、生物、人間ノ區別ニ相應スルモノト限ラズ、宇宙又活動根柢ニ於テハ活動トハ、理性、悟性ヲ有シ、自由力ヲ以テ理想ヲ實現セントスル運動ハ、一種ナリ。必ズ自由活動ニ限ラザル等ナシテ、理性活動トイフ活但シ「アリストテレス」ガ動物ト人間トヲ嚴格ニ區別セル基礎ハ、殊ニ基督教ニヨリ助成サレ、近代ニ至ルマデ引續キ歐洲人ノ思想ヲ支配シツツアリタリ。(アナキザゴラス)ノ「ヌース」ニ基ヅク靈魂ノ作用参照)

第三 心理論。

彼ハ又比較研究ニヨリ人間ノ心理ヲ論ジタリ。人間ノ精神ニハ上下二部分アリ、下部ハ動物作用ヲ爲シ、上部ハ理性作用ヲ營ム。動物作用ハ本能的ナル感

覺作用、欲求作用ニシテ、並ビニ記憶ノ作用ヲ含ミ、理性作用ハ論理的ナル思惟作用、及ビ自由意思ノ作用ヲ含ム。論理的思惟ハ純知作用ニシテ、自由意思ノ働ハ實行作用ナリ。斯ク極端ニ二分説ヲ採リタル「アリストテレス」ノ心理學ハ、不完全ナルニモ拘ハラズ、後代基督教ガ大ニ利用シタル所ナリ。尙彼ハ其ノ心理論ニ於テ著シク理性ニ重キヲ置キタリ。例ヘバ「ディルタイ」 Dilthey ハ之ヲ以テ彼ノ實在論ニ抵觸スルモノトナセリ。

第四款 國家論

第一項 道德論

「アリストテレス」 Aristotle's ノ心理學ハ彼ノ道德論ノ基礎ニシテ、道德論ハ其ノ國家論ノ直接ノ前提ナリ。彼ハ精神ノ有無及ビ其ノ階級ニ從ヒ物界ノ等級ヲ分チ、又人間中ニ存スル精神ノ各發達階級ヲ分チタルガ、又之ニ應ジテ道德ノ一定ノ階級ヲ認メタリ。人間各個人ハ夫夫小全部ナリ、小宇宙ヲ成スモノナリ。故ニ其ノ目的ハ個性ノ發揚ニ在リ。但シ其ノ個性ノ發揚トイフハ、尙各個人ノ誠

「ソークラテース」ノ一方面ナリ
Eudaimonia
「ピルロー」ニ參照

心ニ基ヅキ、自由意思ニヨリ、自ラ己ノ特色ヲ發揮スルコトヲイフニ非ズ。動物ト異ナル人間ノ人間タル所以ヲ保持スル目的ヲイフ。即チ人ノ性能ヲ圓滿ニ活躍セシムルコトニシテ、是ハ必ず精神上ハ安樂ヲ伴フモノナリ。之ヲ善福 Eudaimonia (Eudaimonia) トイフ。故ニ道德ハ屈從ニ非ズ、各自ノ理性即チ最高ハ神ニ近キ、所以ヲ發揚スルコトニ在ルモノニシテ、又彼ノ善福ハ「プラトーン」ノ善ト異ナリ。人間ガ其ノ生活活動ノ上ニ常ニ確實ニ達シ得ベキモノタルコトヲ知ルベシ。

「プラトーン」ノ論ニ非常ニ似タル所アルハ、實ニ「プラトーン」ノ論ノ分析ニ外ナラザレバナリ。道德論モ亦似タリ。 Eudaimonia ハ主トシテ幸福快樂ヲ含ムニ專ラナルモ、此所ニテハ幸福ハ善ニ從屬セルモノトセリ。善福ノ思想ハ「ソークラテース」ノ心中ニハ既ニ包括セラレテ居タルモノナリ。後ニハ幸福ノ要素ガ勝ツ。「アリストテレス」ノ説ハ孔子ノ説ニ似タル所アリ。

然ラバ理性ノ發揚ニヨリ大安樂ヲ得ルノ途如何。曰ク一方ニハ理性ノ純知作用ヲ満足セシメ、事理ヲ明ラカニスルコトヲ要シ、他方ニハ實行作用トシテ意思ノ自由ニ對スル自由ニ非ズ。因果律ニヨリ、己ニ克チ理性自身ノ品質ヲ養ヒ人格ヲ

研クヲイフ。「アリストテレス」ニ從ヘバ、責任ノ基礎ハ此ノ意思ノ自由ニ存ス。而シテ己ニ克ツハ性情ヲシテ其ハ一方ニ執着セシムルコトナク、一切ノ過度ヲ避ケ、中ヲ失ハザルヲイフ。實ニ反對矛盾ノ中ニ在ツテ、理ヲ明ラカニシ中庸ヲ保ツコトハ、人間ガ宇宙ニ於テ特色トシテ分擔スベキ權限ニシテ、安心立命ノ鍵輪ナリ。此ノ中、「ソークラテース」[Socrates]「デーモクリトス」[Demokritos] 及ビ「プラトーン」[Platon]ヲ通ジテ常ニ尊重セラレタル所ニ屬ス。

此ノ「オイダイモニア」[Eudaimonia] 即チ善福ヲ達スルノ道ハ、唯國家生活ニ在ルハミ。經驗上各個人ハ其ノ自力ノミニヨリテハ其ノ生活ノ方法ヲ定メ己ヲ律スルコト完全ナルヲ得ズ。人ハ人ノ中ニ於テ初メテ圓滿ナル人タリ得ルヲ以テナリ。サレバ國家ノ此ノ職分ヲ明ラカニセントセバ、道德ノミナラズ、治ク此ノ政治團體ノ各方面ヲ觀察セザルベカラズ。此ノ目的ヲ以テ「アリストテレス」ハ「特ニ政治學ヲ道德學ヨリ分離シ、政治家トシテノ活動ノ見地ヨリ獨立ノ研究ヲナシタリ。此ノ研究ハ主トシテ國憲論ニシテ法律論ハ欠缺シ經濟論モ亦僅少ナリ。是等ノ論ハ古代ニ於テモ中世ニ於テモ、彼ノ論理學形而上學自然哲

國家道德說

學ノ著名ナリシニ反シ、サシタル影響ヲ與ヘザリシモノナルガ、近世初期ノ古文復興ト共ニ甚ダシク珍重セラレ、又社會ノ改革、國家法律ノ學說ニ至大ノ影響ヲ與ヘタリ。

自然哲學ノ方ハ夙ニ非常ニ影響ヲ與ヘシガ、此ノ方ハ實ニ近世ノ初メヨリ大影響ヲ與ヘ始メタリ。

第二項 國家ノ概念

國家、Polis (Πολις) トハ、公民ヲシテ、道德生活ヲ完フセシメ、安樂ナラシムルコトヲ目的トスルモノニシテ、多數人間ハ結合ヨリ成ル自主的自足的有機體ナリ。

第一 國家ハ多數ノ人間ヨリ成ルモ、觀念上各個人ヨリ後レテ存スルモノニ非ズ。蓋シ人間ハ皆國家的生物的又ハ政治 Zoon politikon ナリ。人間トシテハ社會ノ一員トシテ存在シ得ルノミ。嘗ニ社會ノ一員トシテ存在シ得ルノミニ非ズ、終局スル所必ズ國家ノ一分子トシテ存在セザルベカラズ。故ニ人間アレバ

Союзъ политическій

哲理論トシ
テハ個在的
實ニ探在的
モ國家論ニ
於テハ個人
本位ニシズ

必ズ家ヲ成シ、村落ヲ成シ、國家ヲ成ス。是等ハ觀念上個人ニ後レテ存在スルモノニ非ズシテ、又發達ノ階段ヲナス。詳言セバ初メハ國ト村ト家トノ充分ナル分岐ナク、次ギテ家ト村ト分岐スルニ至レドモ、國ト村トハ尙混一ス。結局ノ發達程度ニ於テハ、三者ハ盡ク分岐シテ存在ス。故ニ個人ハ存在ニツキテハ、是等ノモノモ、終局スル所國家ハ存在ヲ必要トナストイフニ在リ。此ニ至リテ「ヒッピアス」Hippiasノ説ハ大ナル後繼者ヲ見出シタルモノナリ。

然レドモ個人ガ國家的生物タルコトハ獨斷ニ非ズシテ、彼ノ生物學的研究ヨリ來レル結論ナリ。人間ハ男女ノ構造ヲ別ニシ相愛スルハ情アリ、其ハ平和ハ有機的產物アルニヨリテ、更ニ其ノ共同生活ヲ擴張セラル。而シテ是等男女親子兄弟アルコトハ、即チ一大有機體タル國家ノ存在スル所以ノ有機的基礎ニシテ、此ノ個體ヲ解剖シ、比較シテ得タル結論ハ至極正當ナリ。國家ガ個人有機體ニ正シ、眞是レ現今ニ至ルマデ絶エズ其ノ祖述者ヲ有シ、加之男女ノ性愛及ビ其ノ間ノ生理作用ノミヲ唯一ノ鈎點トシテ、社會國家ヲ説明セントスル自然論者ヲ數多ク出ダサシメタル所以ナリ。「アリストテレス」ノ深ミニ藏サレタル「プ

所謂自然論
的國家觀

有機體ノ擴
張タルコト
ハ尤モナリ

ラトーンノ思想ヲ離脱シテ全然個個特定ニ執着シ、偶然ナル實驗並ビニ任意ノ比較ニヨリ思ヒ付キノマニ其ノ一點ヲ捉ヘ、卑近ノ感覺感情又ハ記憶ノミニヨリ全體ヲ説明セントスル實證論者ノ輩出セル所以ナリ。彼等ハ差別ノ愛アルヲ知リ、又其ノ愛ヲ私スルコトヲ知レドモ、無差別ノ愛アルヲ悟ラズ。肉慾アルヲ知リテ正義責任無我ノ意識アルヲ忘レ、自然アルヲ知ツテ理想ニヨリ自ら進化スルヲ悟ラズ。徒ラニ下ヨリ上ニ溯ルヲ知リテ普遍ニヨリ之ヲ監督スルコトヲ忘却セリ。而シテ之ト全然同一ニハ非ザレドモ、尙此ノ傾向ヲ包含セル「アリストテレス」ノ差別的ノ性愛血族ノ思想ニ對シテ、程ナク博愛ヲ標榜シテ起リタルモノハ、即チ基督教ナリ。

國家ノ存在スル基礎ハ有機的生理作用ニ存スルコト疑ナシ。但シコレ計リガ基礎ニ非ズ。「アリストテレス」ハ必ズシモ此ノ點ノミニ執着スル者ニ非ズ、彼ノ國家論ノ根柢ハ自ラ「プラトーン」ニ支配セラレツツアルナリ。男女ノ性愛ガ本源ナリトシテ出發セシコトハ、間違ニ非ズ。又「アリストテレス」ハ國家アリ社會アルコトヲ前提トシテ、今ノ神聖ナル性愛ヲ存在セシムルナリ。若シ性愛無クンバ國家ナキガ故ニ、性愛ハ國家存在ノ根據タリトイハバ色慾食慾モ無クバ國家ハ無キモノ故、國家ノ存在ハ食慾ニアリ又色慾ニアリトイ

ハサルベカラズ。今日ノ自然論者ノイフガ如ク、性愛ヤ色慾ガ國家存在ノ根據ナリトセバ何故ニ穢ヤ羊ヤ犬ノ間ニ國家無キカ。彼等ノ間ニモ性慾性愛在ルニ非ズヤ。此ノ點ヨリ見レバコレ計リニテハ不可ナリ、性愛ヲ以テ唯一ノ根據トセバ、國家ハ解スベカラズ。友愛モ存ス。生レテヨリ性愛ヲ知ラズシテ尙友愛在リ。奴隸スラ其ノ主人ヲ愛ス、更ニ人間ト動物ノ上ニモ愛在ルニアラズヤ。單ニ一方面ノ愛ノミヲ見ルベキニ非ズ。又差別愛ノミニ重キヲ置キテ論セルガ故ニ終ニ大缺陷ヲ生ジタリ。此ノ缺陷ニ乘ジテ起リタルモノガ即チ基督教ナリ。

「アリストテレース」ハ觀念上、國家ハ個人ニ後レテ存スルモノハニ非ザルコトヲ認ムレドモ、尙發達ノ順序ヨリイヘバ、先ヅ個人在リ、家族在リ、次ギテ國家在リト説ク者ナリ。(人タル個人ハ自主團體ト離レテ其ノ以前ニ存スルモノニ非ザレドモ)「アリストテレース」ハ常ニ差別及ビ個個ニ重キヲ置クモノナリ(但シ「アリス」トテ「レ」トスニヨレハ、此ハ家族中ニハ奴隸アルコトヲ認メタリ。「キニコス」Cy-nikos 派ノ「アンチステネース」Antisthenes ハ人間ノ平等ヲ重シ、奴隸制度ノ不自然ヲ主張セシガ「アリストテレース」ハ當時ノ社會ニ奴隸無キ家族ナカリシヲ以テ比較研究ノ結果、奴隸制度ヲ是認セリ。惟ヘラク個人ノ内部ニ於ケル下級ノ心理作用ハ、高等ナル心理ノ用ヲ爲スベキモノニシテ、劣等ナル個人モ亦家族ノ

權力ヲ自然ノモノトス

財產道具トシテ生レ來レルモノナリ。力役ヲ以テ其ノ職分トスル人間ナリ。其ノ劣等者ヲ使役スルハ吾人ガ善キ生活ヲ爲スノ要件ニシテ、同時ニ是等ノ劣等者ヲシテ其ノ道德ヲ實行セシムルハ至當ナリ。故ニ家族ニハ親子ノ間ニ支配ノ關係ノ存在スルハ、ミナラズ、主人ト奴隸トノ間ニモ嚴格ナル命令服從ノ關係ノ存在スルモノニシテ、又之ヲ規律スルハ法律ナカルベカラズト。サレバ彼ハ法律ニ從フ權力ヲ自然ノモノトシテ是認シツアル者ナリ。

第二 國家ハ自主獨立ニシテ各個人ノ道德生活及ビ安樂ヲ全フシ得セシムル最高ノ一體ナリ。國家ノ基礎ハ異性及ビ親子ノ愛並ビニ支配ニ在リ。但シ之ノミニテ直チニ國家ヲ成スモノニ非ズ。吾人ハ善福ヲ全フスルコトヲ要求ス、故ニ其ノ知識ト意思ノ自由ニヨル實行トヲ發揚セザルベカラズ。此ニ於テカ一方ニ於テハ性愛等ヲ保全シ、他方ニ於テハ自主獨立シテ完全ニ善福ヲ達シ得ザルベカラズ。此ノ目的ノ爲ニ必ず存在スルモノハ即チ國家ナリ。サレバ善福ハ自主的到達ハ、國家概念ノ要件ニシテ、國家ト國家ニ非ザル家族村落トヲ區別スルノ要點ナリ。人間個人アレバ已ニ善福ノ要求アリ。善福ノ要求アレ

バ必ズ國家アリ。唯單純ナル性慾性愛等アルヲ以テ足り然ル後ニ國家ヲ生ジタルモノニ非ズ。各個人ガ元來自主獨立ハ者ニ非ズシテ、國家ガ自主獨立ハ、モハナリト。此ノ點ハ實ニ「アリストテレース」ガ「プラトーン」ノ基礎ノ上ニ立テルモノニシテ、國家ノ自足 *autonomia* 自主ヲ説クモ「プラトーン」ガ至善ノ實現ニツキ、自己ノ力ニテ事足ルモノヲ國家ト認メタルト異ナル所ナシ。但シ兩人共ニ自主ト自足トノ觀念ヲ明瞭ニセズ、之ヲ明ラカニセシハ近世ノ主權說ニシテ、最高主權ト自主權トノ分析ニヨリ、更ニ全キヲ得タルモノトイハザルベカラズ。

「プラトーン」ハ國家ハ至善ノ域ニ達スルニツキテ、自分ニテ事足ルモノナラザルベカラズトナセリ。自足ノ中ニハ自主ヲ含ム。「アリストテレース」ノモ二者ヲ包含シ、權力ニテ自己ガ自己ノ目的ヲ達スルハ自主的ニシテ、又其ノ内部ニテ性慾性慾等ヲ全フスルコトハ自足ナリトセリ。主權ノ觀念ハ近世ノ初メニ定マリタルガ、更ニ之ヲ分析シテ最高主權ト自主權トニナシ、國家ノ存在ニハ自主權アレバ足ルトナサザルベカラズ。

第三 國家ハ此ノ種ノ自主的自足的有機體ナリ。國家ガ個人ノ幸福ニツキ自足的ナルコトハ其ノ特色ナレドモ、夫自身ハ又有機體ナリ。生物學ニ屬スル現象ニハ非ザレドモ、政治學上ニ於ケル有機體ナリトセリ。蓋シ「アリストテレース」

「ス」ハ普遍ノ存在ヨリ國家ヲ説カズシテ、個物ニ擬シテ普遍ヲ説キシモノナレバ、彼ノ生物學的研究比較研究上此ノ結論ニ到達シタルナリ。而シテ此ノ有機體說ハ「ソフキスト」輩ノ國家原子說哲學上ノ原ト相對立シテ、國法學上永ク二大系統ヲナシツツアルモノナリ。

有機體トハ全部ニ重キヲ置キタル様ナレドモ有機體ナドトイフハ個々ノ生物ニ微ヒタル觀念ナリ、寧ロ之ヲ普遍我トイフノ優レルニ如カズ。

第四 國家ハ公民ヨリ成ルモノナリ。國家ハ一大有機體ナレドモ、人間タル個人ヨリ成ル。此ノ人間ハ唯人間タル事ヲ以テ足レリトセズ、必ず自由ノ人民タルコトヲ要シ、一方ニ於テハ人民ノ集會ヲ構成シ、又或條件ノ下ニ文武官ニ就クモノトシ、他方ニ於テハ國法ノ定ムル所ニ從ヒ、人民相互ノ間ニ於テ其ノ獨立ヲ主張シ得ルモノトス。此ノ國家表現人國權 *kokurenin* ノ組織ガ即チ憲法 *kokutei* ナリ。今次ギニ數項ニ別チテ彼ノ國憲論ヲ説明セン。

第三項 國家形相論

第一目 總說

個人心理ヲ排斥スルニ非ズ。權力ヲ私スベキモノトシテ其ノ善福ノ爲ニ用キルコトガ是認セラルベキ組成ナリト。但シ「アリストテレス」ノ研究法ハ個個ヨリ見テ國家ノ形相ヲ説ケドモ全體又ハ普遍或ハ國家相互間ノ關係國際關ヨリ之ニ及ブコトナシ。是レ「プラトーン」ノ缺點ト其ノ結果ヲ均フスレドモ多少其ノ原因ヲ異ニスル所ナリ。蓋シ世界國ヲ建設セシ亞歷山大王ノ師

國家ノ基礎ハ相互ニ補フコトヲ要スルモノ及ビ不平等ノモノアリテ其ノ間ニ性愛并ビニ支配ノ存在スルコトニ在リ。各個ノ團體ハ皆此ノ基礎ノ上ニ存在スレドモ其ノ最モ單純ナルモノハ家族ナリ。此ノ理由ニ基ヅキ家族内ニ存スル政治的形式ハ國家ノ政治的形式ニ酷似シ又其ノ根據ヲナシツツアルモノナリ。家族ニハ自然ニ夫婦ノ關係アリ、親子ノ關係アリ、所有主ト奴隸トノ關係アリ、之ニ應ジテ國家ニモ亦個人ノ對等ニ重キヲ置キテ組成セララルモノアリ、不平等ノ關係ニ重キヲ置カルモノアリ、私有關係ニ重キヲ置カルモノアリ。併シ乍ラ國家ハ自主自足ノ性質ニヨリ一般ニ各個人ノ善福ヲ全フスルコトヲ目的トスルモノナレバ、權力ヲ掌握スル者ガ之ヲ私スベキモノニ非ズ。權力ヲ私スル國家組成ハ腐敗シタルモノナリ。權力ヲ一般ノモノトシテ其ノ善福ノ爲ニ用キルコトガ是認セラルベキ組成ナリト。但シ「アリストテレス」ノ研究法ハ個個ヨリ見テ國家ノ形相ヲ説ケドモ全體又ハ普遍或ハ國家相互間ノ關係國際關ヨリ之ニ及ブコトナシ。是レ「プラトーン」ノ缺點ト其ノ結果ヲ均フスレドモ多少其ノ原因ヲ異ニスル所ナリ。蓋シ世界國ヲ建設セシ亞歷山大王ノ師

タリシニ關セズ此ノ種ハ缺點ハ存スルハ其ノ研究方法ニ起因スルモノトイフベシ。

「アリストテレス」モ個人ノ正義公平ノ心ノ作用ニ重キヲ置ケドモ普遍ニ重キヲ置カズ。アラトーンノ國家ハ小ナル所ナリ想トセシガ「アリストテレス」モ亦然リ。國家ノ形相ナドトイフハ國內ノ關係ハミニテ定マラズ他ノ國家トノ關係ニテ定マル。他ノ國家トノ競争ノ必要等ヨリ定マルモノナレドモ「アリストテレス」ハ此ノ點ヲ論セザリキ。其ノ研究方法ガ小ナルコトヲ結ビ付ケルコトノミナ主トシタルガタメナリ。

「アリストテレス」モ尙國家形相ニツキ國體ト政體トヲ分タズ。是認セラルベキ國家ノ形相ニハ君權政體、貴族政體及ビ士民政體アリ。此ノ士民政體ハ Politeia トイヒ總ベテノ武士又ハ良民ノ多數政治ヲ意味スル所ノ Timokratia ナリ。尙 Demokratia ノ古君主ガ其ノ權力ヲ私スルモノハ暴君政治 Tyrannis ニシテ小數富者ノ爲ス政治ハ寡頭政治 Oligarchie ナリ、無財產ナル農民一般ノ行フモノハ平民政治 Demokratia ナリ。此ノ用法トハ異ナル暴君政治ハ希臘ニ於テハ屢亂民政治ヨリ轉化シタルモノニシテ一人ガ我意ヲ逞フシテ專擅ナルモノナリ。寡頭政治ハ性質上私ヲ營ミテ飽クコトヲ知ラズ、平民政治ハ一定ノ規律アルコトヲ

得ザルモノナリ。

第二目 權力分配ノ標準

普通ノ人カ
運中ノ心
ヲ配其ノ
ト間ト

權力分配ノ勸力ハ國ニヨリテ種種ナルベクシテ一定スルコト能ハズ。是レ彼ハ個個ノ研究ヨリ溯リタル當然ノ結論ナリ。併シ彼ハ尙「プラトーン」ハ根據ハ上ニ立テルガ故ニ理想國ニ於テ準據スベキ權力分配ノ標準ヲ述ベテ之ヲ幾何學的正義ト爲セリ。

「プラトーン」ノ正義又ハ公平ハ「アリストテレース」ニヨリ分析セラレタリ。「アリストテレース」モ亦「プラトーン」ハ如ク全部ハ調和ヲ得テ一方ニ偏執スルコトナク中庸ヲ得ルヲ以テ正義トナセリ。過不足ナク平ラカナリ得ルヲイフ。「ピタゴラス」ノ學徒ガ形ノ調和ヲ主トシ「ヘーラクライトス」ガ各反對矛盾スルカハ統一ヲ基礎トセシハ真空論ノ積極的方面ナリ。「ソークラテース」ガ知識ヨリ入り不識ヲ以テ終リ「デーモクリトス」ガ實行上ヨリ中ヲ説キ「プラトーン」ガ節制ヲ重ンジ「アリストテレース」ガ中庸ヲ唱ヘシハ真空論ノ消極的方面ナリ。而シテ

中庸ヲ得ルニヨリテ存スル正義ヲ種別セシハ「アリストテレース」ノ功績ナリトス。

真空ヲ大分イヒシハ「ヘーラクライトス」ナリ。「プラトーン」ハ「ヘーラクライトス」ノ學徒ヨリ教ヲ受ケシヲ以テ關係アリ「デーモクリトス」モ「ヘーラクライトス」ト關係アリ。權力ノ分配ハ財ノ分配ト相併ンテ中心點トナル問題ナリ。又權力分配ニ一ツノ解決ヲ與ヘタルハ「アリストテレース」ナリ。

「アリストテレース」ニヨレハ正義ニハ三種アリ。其一ハ分與的正義 *Austeilende Gerechtigkeit* トイフ。即チ人格者ノ價值ニ從ヒ等シキ者ノ間ニハ等シク權力ヲ分配シ、不等ノ者ノ間ニハ之ニ相應シテ、不等ニ權力ヲ分配スルモノナレバ、結局各人ニ相當スル分配ヲナスモノナリ。其二ハ製作的正義 *Herstellende Gerechtigkeit* トイフ。即チ各個人ヲ皆平等トシテ、全ク均一的ニ取扱フモノナリ。「ルソー」 *Rousseau* ガ「法律ノ前ニハ各人平等ナリ」トナセシハコノ意味ナリ。分與的正義ハ即チ配分的正義ニ當ルモノニシテ、又幾何學的正義 *Geometrische G.* ノ稱アリ製作的正義ハ即チ均一的正義ニ該當スルモノニシテ、又數學的正義 *Mathematische G.* ノ稱アリ。其三ハ報復的正義 *Entgeltende Gerechtigkeit* トイヒ、各人ハ爲シタル功績又ハ生ゼシメタル結果ハ如何ニ應ジテ、之ニ相應スル報酬ヲ與フ

ルモノナレバ、主トシテ、私生活ニ於テ存スベキモノトセリ。但シ此ノ報復的正義ハ成績ノ如何ニ從フモノナレド、精密ニ吟味セバ、此ノ場合ニモ或ハ分與的正義ニヨル場合ト、製作的正義ニヨル場合トアルベキモノナリ。從ツテ正義ヲ大別セバ、歸スル處二トナル。是ニ至リ平衡ト公平トノ觀念ハ分岐セラレ、アリストテレスハ政治上ノ正義トシテハ、分與的正義ニヨルベキモノナルコトヲ主張セリ。是レ彼ノ千古ノ卓見ナレドモ、其ノ差別アル各個人間ヲ支配スベキ正義ノミヲ根據トシテ論ジツツアル所ハ、又其ノ弱點トイフベク、後代ノ基督教等ノ職分ハ己ニ「アリストテレス」等ノ說ニ於テ想像スルコトヲ得ベシ。

權力分配ハ昔ヨリ大切ノモノナリキ。經濟學ハ財分配ノ研究ヲ主要事項トナセドモ社會上ノ大切ノ一問題ハ權力ノ分配ナリ。社會ガ大眾ヨリ成ラバ其ノ成立セシカチ如何ニ分配スベキカハ大切ノ問題ナリ。希臘ニ於テ絶エズ争アリシガ「アリストテレス」ハ「プラトーン」ヲ承繼シテ「Gerechtigkeit」即チ中ヲ離レザル正義ニヨリテ權力ハ分配ヲ定メントセリ。

第三目 最良ノ國家形相

第一支 總說

第一「アリストテレス」ハ實驗的比較的研究ヨリ冷靜ニ國家形相ヲ研究セリ。故ニ其ノ結論トシテハ理論上最良ナル國家ノ形相無シト説ク者ナリ。國家ノ形相ハ事實上其ノ國家ニ現存スル社會力及ビ既往ニ存在セシ社會力ノ如何ニ由ツテ決スベキモノニシテ、一般ニ如何ナル形相ヲ最良トナスカヲ論定シ得ベカラズトナセリ。若シ國家ノ狀態通常ナレバ、社會ノ各階級ガ有スル性質及ビ勢力ノ關係ニヨリ、之ニ相應スル政治ヲナスコトヲ要スベク、若シ歴史的ニ偉大ナル門閥大家族又ハ人民ノ特ニ敬慕スル大人在ラバ君權政體ヲ採ラザルベカラズ、否ラザルモ一般人民ノ精神ノ發達ニシテ幼稚ナラバ、君權政治ハ最モ適當ナル政治ナリト言ヘリ。客觀的ニ觀察セバ、國家ニ必然的ノ形相アルコトナク、社會力ノ關係ニ由リテ定マルコトハ、誠ニ尤ナル所ナルガ、其ノ背後ニ大ナル缺陷ヲ包藏スルコトハ、後ニ彼ノ革命論ト共ニ之ヲ論評スベシ。

「アリストテレス」ガ萬國ニ通ジテ最良ナル國家ノ形相ヲ見出スコト能ハズ、各國ノ社會狀態ニ應ジテ異ル故ニ君權國ヲ可トスル所モアルベク、貴族政體ヲ適當トスル地モアルベク、士民政體ヲ必要トスル國モアルベシト論結セシハ正當ナリ。國體ハ國國其ノ建國ノ精神、第一事實ニヨリテ異ニスルコトハ已ムヲ得ザルコトアリ、又社會ノ事情ノ變遷ト共ニ種々ニ

執着スベキ
客觀在ルコト
トナシ
主觀ニ立
スルコトヲ要
スル

流浪ノ人間
ノ心持ナリ

第一門 第二章 希臘哲學ノ盛時 第五節 「アリストテレス」 國家論 國家形相論 二五〇

政體ノ變動スルコトハ然モアルベキコトナリ。

然シ彼ガ國家ノ不動ナルト共ニ變動スベカラザル國體ト其ハ根據ハ上ニ變動ヲ許ス政體トノ區別ヲナサズシテ孰レモ時ハ社會力ノ變遷ト共ニ改廢セラルベキコトヲ論結シツツアルハ彼ノ大ナル缺點ナリ。純客觀的ノ立場カラ國家形相ノ變遷ヲ見物セバ社會力ノ變遷ト共ニ社會ノ組成モ移動シ國家ニ與廢アルコトハ之ヲ否定スルヲ得ザルモ國家ノ身ニナシテ主觀的ニ最良ノ形相ヲ求ムルトキハ唯何ノ最良ハ形相モ無イトハテ居ルヲケニハ參ラ。餘所カラ見物スルノミテハ實ニ本當ノコトハ分ラズ深切ニ國家ノ立場ニナツテ考察シテ見ネバナラ。アリストテレスガ「國家」ノ形相ニハ最良ノモノナク社會力ノ如何ニヨリ異ル君權國ガ一番宜シトモイヘヌ私ヲ警マヌ優等ノ家柄在ラバ君權國ヲ成スニ適スルモ人民ガ次第ニ發達スレバ趣キチ異ニスルヲナドトイフタノハ一通リノ他人ノ挨拶トイフモノナリ。世ノ中ノ眞面目ナル國家生活ニハ一通リノ他人挨拶ノミテハ濟マヌ。

彼ハ社會ニ於テ義務ヲ負ヒ得ル能力アル者ニ之ニ比例スル權利ヲ獲得セシメントスル者ニシテ社會力ノ價值ニ應ジテ權力ノ分配ヲ定メントスル者ナリ。
〔マキアヴェリ〕 Machiavelli 參照サレバ武士ノ最モ優勢ナル社會ニ於テハ貴族政治ヲ可トスベク人民ガ一般ニ最高ノ教育ヲ有スルナラバ士民政治ヲ以テ適當ナリトセリ。故ニ最良ノ國家形相ハ時ト場合ニヨリテ決スベキモノト斷定シタ

ル者ナリ。是レ近世ニ入りテ「アリストテレス」ノ說ニ基ヅキ君權國ヲ覆サントスル者ヲ生ジタルト共ニ又彼ノ說ニ基ヅキ君權國ヲ維持センガ爲ニ人民ノ教育大人ノ自由發達ヲ阻害セントスル心得違ヒノ者ヲ生ゼシメ種種ノ行キ違ヒヲ來シタル所以ナリトス。

「アリストテレス」ノ門下「ダイカイアルコス」 Diakarchos (Dikaiarchos) ハ師ノ研究方針ニ從ヒ比較研究ヲナシ國家ノ形相ヲ定ムベキ自然條件ヲ研究シタレドモ純客觀的ニ冷淡ナル研究ヲナセシマデニテ師ノ大ナル缺點ハ元ヨリ其ノ儘ニセラレタリ。

「アリストテレス」ガ國體政體ノ區別ヲ立テズ社會ノ變遷ニヨリテ國家ノ形相ガ變ズベシトナセシハ大ナル誤リナリ。然シ國ニヨリテハ建國ハ大信仰大理想ヲ缺キ其ノ第一事實ガ神聖ナラズ從ツテ彼ハ說ハ如ク實力ハ變動ト共ニ興廢スルハ已ムヲ得ザルモノナリ。此ノ種ノ國ニテハ歴史上モ愚民政策ヲ執リ來リタルコトハ著例アリ。支那ノ如ク元存在スル根本組成ヲ破ツテ新タニ國ヲ立ツル所テサヘ。伯夷ハ暴ヲ以テ暴ニ易フ其ノ非ヲ知ラズ云々トイヘリ。況ンヤ建國ノ神聖ナル國ニ於テヤ。

皇國ノ如キハ少クモ國民ノ普遍的信仰理想タル惟神道ニ基キ成立存在シ唯一不動ノ第一事實ニ根據シテ確立シツツアル國家ナリ。是等ノ信仰理想並ニ第一事實ハ眞面目ナル國家生活ヲナスニ當リ純理ト相待チ之ニ不動ノ根柢ヲ與ヘツツアリ絶エザル進歩ヲナスガ爲ニ之ニ不變ノ基礎ヲ附與シツツアリ。唯純理ノミニテハ役ニ立タズ必ズ之ト相待ツ事實及ビ信仰理想ヲ要スルコトハ數理ガ品物ト相待ツト同シク唯變遷ノミニテハ發達ナク必ズ不動

古神道ヨリ
イハレバ皇國
ハ神國ノ實
現ニ外ナラズ

ノ根據ヲ要スルコトハ、流車ノ走ルニハ鐵道ガ確實不動ナラザルベカラザルガ如シ。支那ニテモ西洋ニテモ是等不動ノ第一事實及ビ信仰ノ研究モ實際モ發達セズ、從ツテ「アリストテレス」ノ説又ハ類似ノ思想ガ其ノ儘實行セラレル餘地ガ在リタルナリ。皇國ニテハ是等ノ思想ニ乘セラルル空所無キ故、心配スベキ所ナシ。人民ノ爲メテ圖レバ圖ル程、人民ノ人格智識財產ガ發達スレバスル程、國家ノ根本組成ガ愈々確實トナリ、國體益々其ノ光ヲ放ツニ至ルベシ。皇室ノ尊嚴ヲ增進スルコトト、人民ノ獨立獨歩トハ決シテ矛盾スルコトナキガ我國柄ナリ。

第二 「アリストテレス」ハ總ベテノ場合ニ於ケルガ如ク、偶然ナル個個特定ヲ重シ、又客觀的ノ狭キ自然ノ法則ヲ抽象スルコトニ傾キテ、主觀ヲ擴張シ不動ノ信仰理想ヲ立テ大ニ創設作用ヲ行ハントスル熱烈ノ氣慨ニ富ミタル者ニ非ズ。故ニ「プラトーン」ガ理想國ヲ求メタルニ反シテ最良ナル國家ノ形相無キコトヲ説クコトヲ以テ甘シタリ。然レドモ彼モ尙「プラトーン」ノ弟子タル方面在ルヲ失ハズ、模範的政體ヲ畫キ、彼ハ分與的正義ガ其ノ儘行ハレ得ベキ社會ヲ想像シ、之ニ必要ナル條件場合ヲ列舉セリ。其ノ條件ハ畧「アテーネ」ニ適シ、其ノ大サハ彼ノ差別的愛情等ヲ中心トスル心持ト相待ツテ極メテ狭小ナリ。

但シ今日ノ如ク精神的物質的交通完全ナラズ尙大ナル國家ヲ成スベキ人民ノ準備ナキガ故ニ大ニ恕スベキ所ナキニ非ズ。

第二支 模範的政體

國家存在ノ自然ノ大目的ニ從ヘバ、國家ニモ亦不易ナル形相ナカルベカラズ。其ノ形相ハ國家ニ入用ナル財貨ノ獲得及ビ人民一般ノ安樂ニ一致シ、尙國家自身ノ自主自足ノ性質ヲ發揚シ得ルモノナラザルベカラズ。此ノ條件ヲ具備スル爲ニハ外敵ノ攻撃ヲ受クルノ患少クシテ防禦ニ容易ニ、且海ニ臨ミタル豊穡ナル陸地ニ建テラレタル一市國タルコトヲ要ス。其ノ人民ハ希臘人タルベク其ノ人數ハ多益、辨ズベシト雖モ容易ニ計算シ得ベク、又監督シ易キコトヲ要スルガ故ニ、此ノ程度ヲ超エテ夥多ナルベカラズ。而シテ其ノ人數ハ常時一定數ヲ保持スルコトヲ必要トスルガ故ニ、結婚及ビ出生ニ關シテハ嚴格ナル規則ト監督トノ存在ヲ前提ス。少年ノ教育ハ公共的ニシテ平等ヲ主義トス。是等人民ハ皆相當ノ資産ヲ有シ、相互ニ均一ナル土地ヲ有シテ勤勉ナルベキモ、農工商ニ關スル勞務ハ奴隸又ハ希臘人種ニ委ヌベシ。屬セザル下民ニ委ヌベシ。以上ノ社會的基礎ノ上ニ成立スル政治生活ニ於テハ、中等社會ニ重キヲ置キ、

各人皆平等ニシテ能力年齢ノ差異ニヨリ其ノ受クル權力ノ分配ヲ異ニス。壯年者ノ掌ル所ハ兵馬ナリ。執行ナリ。高年者ノ分擔スル所ハ決定並ビニ裁判ナリ。而シテ退職セル老者ハ宗教上ノ勤務ニ服スベシ。是レ一般人民ノ幸福ヲ目的トスルニ最モ適當ナルモノニシテ、即チ年齢能力ニヨル貴族政治ナリ。此ハ種ノ適當ナル貴族政治ハ模範國ノ形相ヲ定ムベキモノナレドモ、若シ門閥又ハ一個人トシテ精神上偉大ナル人格者アリテ遙カニ一般人民ニ優越スルナラバ、自由國ニ於テモ王政ヲ可トスベク、何人モ王權ニ服從セザルベカラズ。

「アレクサンドロス大王ヲ教育シ、其ノ周圍ノ未開國ヲ見聞セシ」アリストテレスハ「マケドニア」及「ビ劣等國」ヲ偶然ナル比較ノ材料トナシ、且各個人ヨリ觀察スルヲ知リテ人類全般ヨリ見ルコトヲ知ラズ。故ニ彼ノ國家ハ一小市國ニ止マリ、又外國ノ國家形相ガ一國ニ及ボスベキ關係ヲモ研究セザリキ。從ツテタダ英雄アレバ君權國ヲ可トシ人民幼稚ナルトキモ亦然リト斷案セシガ斯カル單純ノワケニハユカヌ。今迄共和團體ヲ採リ來リシ國ハ假令無私ヲ旨トシテ賢明ナル良家族ヲ生ズルモ、直チニ君權國タル能ハズ。又外國ニ斷行力ニ富ム多ク有力ノ君權國在レバ、中立ヲ標榜スルカ他ノ大國ノ保護ヲ受ケザル限り、貴族政治又ハ民權政治ヲ維持スルコト困難ナリ。現ニ亞米利加合衆國ノ如キハ大國ニシテ海ニ取捲カレ其ノ他經濟上等種々ノ關係在リテ、可ナルガ、佛蘭西ハ大ニ困難セリ、其ノ自由斷行力ニ至ツ

テハ國家組織上到底他ニ及バザレバナリ、永遠ノ中ニハ更ニ君權政治ニ變ズルナキヲ保セズ。要スルニ偶然ナル材料ノ比較研究ニ偏セズ、世界全體ハ大勢ヲモ鑑ミ、且國體ト政體トヲ分ツテ、議論セザルベカラズ。

第三支 實際的政體

模範國ハ國內ノ人民一般ノ幸福ヲ達スルモノナレドモ、歷史上存在スル國國ニ於テハ、各人ガ各自ノ目的ヲ求メ各別ノ幸福ヲ得ント勉メツツアリ。故ニ幸福ト認定法トハ合一セズ。認定法ヲ遵守スルニヨリテ幸福ヲ得ルハ唯少數ノ有力者ニシテ多數人民ハ認定法ノ遵守ニヨリ必ズシモ幸福ヲ得ル所以ニハ非ズシテ、タダ認定法ハ守ラザルベカラザルガ故ニ之ヲ守ルベキハミ。國家ハ特ニ各個人ニ不等ノ方面アルガ故ニ成立シ得レドモ、此ノ不等ノ標準ガ人格ノ優劣ニヨラズ、強弱ニ重キヲ置クト共ニ權利義務ガ偏重セラレ、其ノ存在スル形成ニ從ツテ國家ノ憲法國家ノ形相ハ區別セラレ、社會ノ強力が重要ナル原動力トナルモノトス。

然レドモ國家生活ニ必要ナルモノハ強力ハミニハ非ズシテ、極メテ種種アリ。

社會ニハ教育無教育、富貴貧賤、自由、不自由等ノ品質上ノ差等アリ、又多數少數ノ數量的差別アリ。是等ノ元素ノ一ツガ主トナリテ定マレル政體アリ、又ハ是等ノ數多ヲ混合シテ成レル政體アリ。前者ヲ偏重政體トナシ、君權政治 Kingdom、暴君政治 Tyrannis、平民政治 Demokratie、寡頭政治 Oligarchie 之ニ屬ス。後者ヲ折衷政體トナシ、貴族政治 Aristokratie 及ビ士民政治 Politie 政治力之ニ屬ス。

第一 偏重政體。

一 君權政治。君權國ハ精神的道德的ニ優越セル一家族ヲ中心トシテ成立シ、君主ハ或ハ法ニ依リ、或ハ法ニ依ラズシテ、絶對ニ服從セル人民ニ對シ家長的ノ權力ヲ行フ。之ニモ亦種種アリ。眞ハ君權國ハ此ノ種ノ淪ラザル家族ヲ得ルコトハ困難ナルト共ニ困難ナルベク、大人格者ニヨリ一時自由民ヲ支配スルノ目的ハ反ツテ貴族政治ニヨリテ達シ得ラルベシ。

蓋シ無私ニテ正義公平ノミヲ行ヒ、尙其ノ門閥ト人格トノ優越ヲ維持シ得ベキ家族ハ我が日本ノ皇室ニ於テ之ヲ見得ベキノミ。西洋ノ王族ハ各國ヲ通ジ、人民以外ニ在リ、之ト對シテ私ヲ主張スル特殊ノ王族階級ヲナシツツ在リテ、各國ハ一國トシテ見レバ尙世襲的貴族政治ノ趣味ヲ帶ブ。是レ我國ノ皇室ガ人民以外ニ存スル階級ニ非ズシテ、人爲ニ到達シ得

ザル神聖ノ地位ヲ占ムルモノト其ノ趣ヲ異ニスル所ナリ。

二 寡頭政治。寡頭政治ノ主義トスル所ハ財ニ在リ。富者ハ元ヨリ少數ナルガ、財力アルガ故ニ、多數ヲ斥ケテ國事ヲ専ラニス。之ニモ亦種種アルガ、世襲的ニシテ法ノ拘束ヲ受ケザル者ヲ主體政治 Dynasteia トナス。

三 平民政治。平民政治ハ萬民ノ自由平等無規律ヲ主義トスルモノニシテ、徒ラニ多數ニヨリ多數ヲ名トシテ行動シ、學識アリ德望アリ資産アル少數者ヲ壓倒スルモノナリ。古代遊牧ノ民及ビ農民ノ自由平等政治ハ良好ナルモノナリシガ、市民ノ此ノ種ノ政治ハ極メテ弊害多シ。特ニ法律ヲ無視シテ人民ノ決議ニヨリ行動スル場合ノ如キ、多數即チ專擅的暴民ナリ。

四 暴君政治。暴君政治ハ平民政治及ビ寡頭政治ノ最モ甚ダシキモノノ混合ニ該當ス。其ノ根柢タル強力ハ傭兵ニヨリ組織セラレタル暴力ニ在リテ、其ノ目的トスル所ハ國君ノ私慾ヲ達セントスルニ在リ。故ニ政體中最下位ニ在ルモノナリ。 「プラトーン」
國家論參照。

第二 折衷政體。

折衷政體ハ社會各種ノ元素ノ調和ヲ目的トナシ、一方ノミニ偏重セザランコトヲ期スルモノナリ。故ニ偏重政體ニ對シテ折衷的政體トイフコトヲ得ベシ。此ノ政體ハ各種ノ勢力ヲシテ相節制セシメ、其ノ間ノ調和ヲ圖ルガ故ニ良ク分與的正義ヲ實行シ得、從ツテ又健全ニシテ最モ永續的ナリ。但シ之ヲ創設スルコト最モ困難ナルガ故ニ又稀ニ見ル所ナリ。 現今ノ立憲政治ノ如キハ此ノ種義トシテ、中道ヲ現シツツアルモノナリ。

一 貴族政治。人格能力教育ヲ主義トセル少數者ヲ中心點トシテ、平民政治ノ人民平等ノ原則及ビ寡頭政治ノ財産ノ主義ヲ加味シタルモノニシテ、健全ナル政治トイフベシ。惟フニ現今ノ立憲政治ノ如キハ大ニ之ニ接近セルモノナリ。

二 士民政治。此ノ政治ノ中心點トスル所ハ中等社會ニ在レドモ、政治上ノ重要ナル權勢ハ法定ノ標準、又ハ試驗ヲ經タル者ニ分配シ、尙財産及ビ其ノ多寡ニモ留意シ、之ニモ相當ニ權力ヲ分配スル政治ヲイフナリ。而シテ「アリストテレス」ハ此ノ士民政治即チ中等社會ヲ主トスル折衷政治ヲ以テ、反ツテ貴族政治ヨリモ成立シ易ク覆サレ難キモノトセリ。故ニ偏重政治ハ差シ當リ先ヅ士民政治ニ近ヅクコトヲ安全ナリト考ヘタリ。士民政治ガ模範政治ナリトイフニ非ズシテ、差シ當リ最モ容易ニ達シ得ラルル比較的良好ナル政治ナリト考ヘタリシナリ。

第四項 國權分類論

國家ハ其ノ組成ニヨリテ社會力ヲ利用シ、其ノ政治的行動ヲ爲シ得ルモノトス。此ハ社會力ヲ適宜ニ組成シ、之ヲ分類スルコトハ、國家ノ活動目的ト相離レ得ザルモノナリ。其一ハ法律及ビ處分ニ關スル國家意思ノ決定ヲ爲スモノニシテ政府ナリ。其二ハ此ノ決定ニ基ヅキ之ヲ執行シ、又或僅少ノ範圍ニ於テ、尙國家意思ヲ決定シ得ルモノニシテ、官廳並ビニ役人ナリ。其三ハ國家ノ裁判ヲ爲スモノニシテ裁判官ナリ。此ノ三者ハ相對立シ相互ニ過不足アルベカラズ。其ノ均衡ヲ失ヘバ國家ハ衰フベク、中庸ヲ保テバ國家ハ健全ナルベシ。故ニ此ハ三者ハ力ハ適當ナル牽制並ビニ調和ガ、國家組成ノ目的タルベシ。夫ノ「モン

テスキュー」Montesquieuノ三權分立論ハ、既ニ遠ク此ノ所ニ萌セリ。

「モンテスキュー」ノ言ヒシガ如ク明確ニハアラザルモ、已ニ是レ丈ケノコトハ識セラレタリ。

第一 政府。 平民政治ニ在ツテハ政府最高ノ決意權ハ人民一般ノ手ニ在リ。寡頭政治ニ於テハ少數ノ財產家ニ在リ。貴族政治及ビ士民政治ニ於テハ民會ガ重要ノ地位ヲ占メ、大切ナル權限ヲ有スレドモ、最後ノ決意ハ選舉又ハ抽籤ニヨリ定マリタル首長ノ爲ス所タリ。

第二 官廳役人。 官廳及ビ役人ノ種類權限及ビ其ノ任免ハ憲法ノ性質ニヨリ又任意ノ定メ方ニヨリ極メテ複雑ナルベシ。平民政治ニ於ケル主タル官廳ハ執行ヲ監督シ又ハ政府ノ或議事ヲ準備スル參事會ニシテ、民會ヲ構成スル平民中ヨリ構成セラレ、民會ハ民會トシテ別ニ議決權ヲ有スルモノナリ。寡頭政治ニ在リテハ最高官廳ハ財產アル貴族中ヨリ構成セラレドモ、夫自身最高ノ決意ヲナシ得ルモノニ非ズ。此ノ點ニツキテモ貴族政治士民政治ハ中間ノ地位ニ在リ。又役員ノ任免ニツキテハ選舉ト抽籤トノ二方法アレドモ、平民政治ニ在リテハ一般人民ノ何人タルヲ擇バス其ノ官職ニ當ルコトヲ主義トスルガ

故ニ、抽籤ヲ以テ理想トナス。但シ普通選舉ニヨルコトナシ。寡頭政治ハ諸種ノ制限ノ下ニ存スル選舉法ヲ採用ス。貴族政治モ尙名譽職ヲ設ケ、一般士民ヨリ一般士民ヲシテ選舉セシメタル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得。士民政治モ亦宜シキニヨリ諸種ノ方法ヲ採用ス。

第三 裁判官。 裁判官ニハ又同様ノ問題ヲ生ズレドモ、寡頭政治ニ在リテハ任命セラレタル者ハ裁判官ノ職ニ就クコトヲ辭スルヲ得ズ。平民政治ニ在リテハ、訴訟當事者ノ選舉シタル仲裁者ヲ以テ裁判官トナス。士民政治ハ前兩者ノ制度ヲ併用シ強制的ニ任命スル者及ビ民選ニヨル者ヲ以テ調合シテ裁判制度ヲ定ム。

第五項 革命論

第一目 要旨

「アリストテレース」ノ革命論ハ彼ノ「最良ナル國家ノ形相ノ論」ト離ルベカラザルモノニシテ、實ニ其ノ當然ノ結論ナリ。彼ハ其ノ師「プラトーン」ノ如ク熱心ニ

理想國ノ實現ヲ主張スル者ニ非ズ、又其ノ師ガ國權ノ歴史的變遷ノ法則ヲ示シタルコトヲモ駁撃シ、一ニ絶エズ動搖スル社會力ヲ標準トシテ分與的正義ニ反セザル様ニ社會ニ於ケル權力ノ分配ヲ定メ、之ニヨリテ社會ノ組成ヲ立ツベキコトヲ主張セリ。然ルニ社會力ハ内外各般ノ事情ニ應ジテ絶エズ變遷シ、其ノ優劣並ビニ效用ヲ異ニスルニ至ルガ故ニ、國憲ハ其ノ後ヲ追フテ常時改革セラレザルベカラズ。社會ノ情況ヲ見、其ノ實力ノ存スル所ヲ洞察シ、之ヲ救済スルハ政治家ノ任務ナリ。若シ社會力ノ變遷ト國憲ノ改革トガ如何ニシテモ其ノ鈞合ヲ得ザルトキハ、遂ニ革命ノ必要ヲ生ズト。

例ヘバ一國ノ農業ガ額レ商工業ガ勃興セバ、貴族政治ハ當然廢レテ民權政治トナラザルベカラズ。又人民一般ガ次第ニ發達スルニ反シテ治者ノ家柄ガ衰フルトキハ、君權國ハ到底維持シ難キニ至ルベシ。此ノ種ノ場合ニハ、或ハ國外ノ勢力ノ干涉ヲ惹起スルコトアルベク、或ハ國內ニ於ケル種種ノ政治的社會的運動ヲ發生セシメ、利益權勢ノ爭奪ヲ事トセシムルコトモアルベシ。然レドモ社會力ノ變動ニ拘ハラズ、國家組成ノ變遷ヲ妨グ、其ノ永續ヲ圖ラントセバ、勢ヒ

一〇面ニ憲法其ノ他ノ形式的認定法ヲ嚴行シ、他面ニハ社會力實際ノ關係並ビニ其ノ自然ノ發達ニ注意シ、ツツ絶エズ教育等ニヨリテ社會力ヲ調節シ、國憲ノ維持ニ危険ナカラシメザルベカラズ。然モ憲法ガ本來中庸ヲ得ザルニモ拘ハラズ、尙不當ノ手段ヲ用キズシテ之ヲ維持セントスルナラバ、其ノ憲法ノ主義ヲ多少緩和シツツ行動スルコトヲ要スベシ。此ノ場合ニ其ノ反對黨ヲ寬恕シ大度ヲ以テ之ヲ遇スルコトノ如キハ、殊ニ必要ナル條件ナリ。但シ斯ノ如ク人爲ニヨリ不自然ニ國憲ヲ維持セントスル結果ハ、多クハ益反對ノ傾向ヲ強メ、不當ニ壓セラレタル社會力ニヨリ激烈ナル革命ヲ惹起セシムルモノトス。革命モ亦自然ナリ、必要ナリト。

革命論ノ根據ハ彼ノ國家最良ノ形相論ニ在リ、其ノ最後ノ根據ハ彼ノ現實主義ヲ帶ビタル哲。理。ニ。存。ス。是。等。ノ。コ。ト。ハ。今。論。評。セ。ン。ト。ス。ル。所。ナ。ル。ガ。極。ク。卑。近。ノ。所。ニ。テ。論。ズ。ル。モ。彼。ハ。國。體。ト。政。體。ト。ノ。區。別。ナ。サ。ズ。又。建。國。法。即。チ。最。小。限。度。ノ。國。法。ト。憲。法。ト。ノ。區。別。チ。モ。知。ラ。ズ。是。レ。彼。ノ。大。缺。點。ニ。シ。テ、今。日。ノ。西。洋。ノ。國。家。論。モ。皆。其。ノ。影。響。ヲ。蒙。リ。ツ。ツ。ア。リ。政。體。ノ。論。憲。法。ノ。論。ト。シ。テ。ハ。ア。リ。ス。ト。テ。レ。ハ。イ。ス。ハ。説。モ。理。由。ナ。シ。ト。ス。ベ。カ。ラ。ズ。然。シ。國。體。ノ。論。建。國。法。ノ。論。ト。シ。テ。ハ。大。ニ。異。議。在。リ。サ。ハ。イ。ヘ。之。ヲ。以。テ。彼。ノ。知。慧。ノ。足。ラ。ザ。ル。所。ナ。リ。ト。結。論。ス。ル。ニ。ハ。非。ズ。彼。ノ。研。究。法。ガ。現。實。ナ。ル。個。個。ノ。國。家。ヲ。採。ツ。テ。分。析。ス。ル。コ。ト。ヲ。主。ト。セ。シ。ニ。恰。モ。其。ノ。材。料。ト。ナ。リ。シ。各。國。ガ

第二節 論評

「アリストテレース」ノ革命論ハ如何ニモ精密ナルガ如ク公平ナルガ如シト雖其ノ大局ヲ誤レリ。彼ノ哲理彼ノ研究方法ノ範圍内ニ捉ヘラレテ此ノ議論ヲ味フモ遂ニ其ノ當否ヲ判斷シ得ベカラズ宜シク根本ヨリ彼ノ思想ノ全體ヲ觀ザルベカラズ。何ントナレバ折衷混合論者ニ非ザル彼ノ革命論ハ缺點ハ彼ノ哲理論彼ノ研究方法ヨリ當然ニ來ルモノニ外ナラザレバナリ。

第一 現實主義ニ偏重ス。現代人ノ眼ヲ以テ見レバ「アリストテレース」ハ現實主義ニ偏重シタル者トハイフベカラズ現時ノ學風ハ彼ヨリモ一層遙カニ現實的ナリ。然レドモ有ラユル時代ニ亘テ評スルトキハ彼ハ尙現實主義ノ論者タル資格ヲ失ハズシテ此ノ評ハ特ニ彼ノ國家論ニ於テ顯著ナリ。現實ハミテ見ルガ故ニ専ラ動搖スル社會力ニ留意シ特ニ意思力加之強力ニ重キヲ置キ之

表現ノ哲理
理想トナリ
ハ現調トナリ
スルモノナリ

ニヨリテ國家ノ根本組成ヲ論定セントセシナリ。社會力ノ如何ガ國家ノ組成ト離ルベカラザル關係アルコトハ充分ニ之ヲ認メザルベカラズト雖之ト相待テ其ノ根柢トナリツツアルモノハ社會ノ普遍的信仰ナリ理想ナリ。社會力ハ變遷スト雖普遍的信仰理想ニ至ツテハ不動ナリ。各個人ガ其ノ利益ヲ主張シ目的ノ爲メニ離合スルコトト離レザルモノガ社會力ナリ然シ各人ガ皆其ノ己ヲ沒シ我ヲ擴張シツツ萬人一體トナツテ創設作用ヲ行フニ當リ根本的標準トナルモノガ此ノ普遍的理想信仰ナリ。是レ實ニ歷史的ノ情實ヲ吟味スル外ニ尙理想國ヲ觀念スルコトノ必要ナル所以ニシテ「プラトーン」ノ卓越セル所ナリ。神國ノ理想ノ存スル所以ニシテ皇國ノ信仰ノ動カス能ハザル所ナリ。然ルニ「アリストテレース」ハ現實的ナル社會力ノミヲ見其ノ背後ノ理想ヲ見ザリシガ故ニ表面ノミヲ求メテ根柢ヲ探ラズ從ツテ兩者ノ調和ヲナスニ至ラザリシモノナリ。國體ト政體トノ別建國法ト憲法トノ別自主表現人(即チ總攬表現人)ト被總攬表現人トノ區別等ニ想倒セズ政體上ノ議論ト國體上ノ議論トヲ混同セシモ全ク之ガ爲ナリ。

國體ハ明確ニモ
之ナル明ニモ
シタル其ノ確
ハタル其ノ確
ナキタル其ノ
益々ナル其ノ
練々ナル其ノ
ヲセキタル其ノ

特殊ノ不普遍
ト見ルノ不普遍
ニ表ルノ不普遍
現ルノ不普遍
歸スルノ不普遍
スルノ不普遍
理ハハハハハ

ツマリ「アリストテレース」ハ近小ノ方面ノミテ實證論的ニ研究シ遠大ノ方面ヨリ理想
的ニ觀察スルコトヲサザリシナリ。我々日本人ハ此ノ近小ノ方面ニモ留意シ之ニヨリテ
得ラルル法則ヲモ充分利用セネバナラヌガ是等ヲ 皇國古來ノ不動ノ大理想大信仰實現ノ
爲ニ利用スルマキコトヲ忘レテハナラヌ。此ノ 皇國ノ理想信仰ハ古神道即チ惟神道(隨神道)
ニ外ナラヌ。

第二 個在主義ニ偏重ス。「アリストテレース」ハ個人ノ外ニ之ヲ統括スル全
部ヲ見ザリシニハ非ザレドモ常ニ個人ヨリ出發スルノミニシテ是等ヲ統括ス
ル普遍的存在ヨリモ出發シ各個人及ビ社會力ヲ説クコトヲ忘レタリ。個我在
ツテ後其ノ間ノ組成ヲ得ルニヨリ全部在ルヲ知レドモ普遍我及ビ之ト離レザ
ル組成在ルガ故ニ各個我ノ存在シ得ル所以ヲ説クコト充分ナラズ。故ニ個我
ヲ以テ動かカスベカラザルモノトナシ反ツテ社會根本組成ノ動クベキコトヲ認
メ。社會力ノ變遷ニ伴フテ國家ノ根本組成ヲ改革スベキ必要ヲ説キ乍ラ國家
不動ノ根本組成ニ基ヅキテ之ト密接ノ關係アル重要ナル社會力ヲ發揚セシメ
益々表現力ノ根據ヲ完成スベキ所以ニ論及セズ。斯ノ如クニシテ普遍我ヨリ出
發シ個人ノ基礎タル國家ノ不死不滅ナルベキガ爲ニハ其ノ根本組成ノ動クベ

カラザルモノタルノ大原則ニ想倒セザリシハ彼ノ著大ナル缺點ニシテ歐洲各
國ノ根本組成ヲ覆サシムル上ニハ隱然大ナルカトナリタルモノナリ。

個人ノ立場カラ其ノ利益目的ヲ中心トシテ其ノ間ノ共通ヲ見ルコトモ必要ナレドモ此ノ
方面ノミニ執着スルコトガ今日ノ弊害ニシテ「アリストテレース」モ亦此ノ傾向アルヲ免レヌ。
普遍我ノ方面カラモ出發シテ個人ヤ其ノ間ノ離合集散ノ關係ヤ各般ノ社會力ヲ見ネバナラ
ヌ。然ルニ此ハ普遍我ハ其ノ不動ノ根本組成ヲ有スルト共ニ國家タリ得ルハ此ハ種ハ國
家ヲ離レテ各個人ハ絕對ハ存在ハ無小。故ニ此ノ根本組成ヲ本ニシテ各個人及ビ其ハ内ハ
組成ヲ創設改善スルコトハ重要ナル事項ナリ。但シ此ノ根本組成タル自主表現人ノ定マリ
ツツアル態様ハ國體ニ從ヒ種種ニ異レリ。

第三 純理主義ニ偏重ス。「アリストテレース」ガ理ヲ重ンズルハ可ナレドモ自
然中ニ存在スル不純理ノ方面ヲ見ズ純理ヲ以テシテハ到底著ニモ棒ニモ掛カ
ラヌ方面ノ存スルコトヲ認メズ純理ノミニヨリテ之ヲ解決セントセリ。彼ハ
本體ノ形式ニ對シ質料ヲ認メタルモ彼ノ質料ハ寧ロ物質ニ近キ所アリテ事物
ノ本質ニ非ズタダ個物ヲ實在シ得セシムルノ原料タルノミ。故ニ彼ハ自然ト
イフモノハ理智並ビニ因果律等ノ下ニ在ル狭キ自然ニシテ國家モ亦此ノ種ノ
自然現象ナリトス。是ニ於テカ國家ノ認定的方面ヲ解説スルコト不完全ナル

本卷ニ至ル
彼ノ哲學ノ
要點以下ノ
參照ニ至ル

東洋流ノ自
然ニ非ズ

ト共ニ又國家存在ノ根柢タル第一事實ヲ洞察スルコト能ハザリキ。

一 認定ヲ看過ス。社會生活ハ唯理智ノミノ生活ニ非ラズ之ヲ他方面ヨリ見レハ認定ヲ中心トスル生活ニシテ此ノ認定生活ノ骨髓トナリツツアルモノガ國家ナリ。國家ハ自然的存在タルコトヲ失ハザレドモ單純ナル狹義ノ自然現象タルニ止マルモノニ非ズ。國家ハ一切ノ認定ノ根源タルコトヲ要求シツツアルノミナラズ己自身モ亦認定ヲ離レテ存在スルコトナシ。一切ノ外部ノ認定ヲ統括シ自身ノ存在ニ必要ナル認定ヲモ自ラ進ンデナスモノナレバ國家ハ自主團體ナリ。自主的普遍我ナリ。然レドモ國家ノ此ノ種ノ認定ハ其ノ表現人ヲ離レテ存スルモノニ非ズ孰レノ國家ニ於テモ終局スル所國家ノ認定ヲ最高ノ効力ヲ以テ表現シ且ツ自ラ國家ノ此ノ種ノ總攬表現人ナリト認定シツツアルモノ無カルベカラズ。之ヲ自主表現人トナス。此ノ自主表現人が其ノ認定ニヨリ建國法ヲ存在セシメ自身ヲ存在セシメ國家ヲ存在セシムルモノハニシテ是等ハ皆一切一時ノ存在ナリ相離レ得ベキモノニ非ズ。「アリストテレース」以上ノ如キ複雑ナル認定ノ關係在ル所以ヲ觀察セズシテ徒ラニ理智ノミ

ニヨリ國家ト之ト共ニ不動ナルベキ建國法並ニ自主表現人トヲ離シテ國家ノ形相論ヲナシタルハ彼ノ弱點トイフベク彼ノ此ノ缺點ガ歐洲近世ノ自然法學說ニ及ボシタル多大ナル影響モ亦須ク記憶セザルベカラズ。

二 第一事實ノ價值ヲ認メズ。社會生活ハ唯理智ノミノ上ニ成立セズ事實ノ上ニ發達シ第一事實ノ根據ノ上ニ立ツ。國家生活ハ之ヲ一面ヨリ見レバ其ノ建國ノ第一事實ガ理智ヲ利用シテ發達シツツアルモノニ外ナラズ。此ノ故ニ此ノ活キタル第一事實ヲ活カシテ用キザルベカラザルハ勿論消極的ニイフモ第一事實正當ノ原理 Princip der Legitimität ヲ認メザルベカラズ。

「アリストテレース」ハ理論上最良ナル國家ノ形相ヲ見出シ得ザリシニ拘ハラズ尙純理ヲ離ルルコトヲ敢テセズ積極的ニ建國ノ第一事實ヲ尊重セザルノミナラズ消極的ナル第一事實正當ノ原理サヘモ忘却シタリ。正當ノ原理トハ純理ニ超越セル領域ニ於テハ既ニ存在スル第一事實ニ據ルベキモノトスル原則ヲイフ。此ノ原則ニ據ラシメバ客觀的ニ比較研究シ遂ニ理法トシテ最良ナル國家ノ形相無シト論斷シタル彼ハ必ズ建國ノ第一事實ヲ反省シツツ論議セザ

ルヲ得ザリシナラン。之ヲ爲サザリシハ彼ノ革命論在ル所以ナリ。
客觀的觀察ニヨルモ遂ニ第一事實ニ到着セザルヲ得ザルガ主觀的ニ吟味ス
ルモ亦同様ナル結果ヲ得ベシ。蓋シ國家ハ各個人ガ其ノ自我ヲ擴張シ其ノ私
ヲ沒スルニヨリテ存在シ、各個人ガ其ノ偶然ヲ沒却シ大ナル生活ヲ爲スハ國家
在ルニ因ル。各個人ノ「無我即チ擴我」ノ心持ト國家生活トハ離ルベカラザル關
係在リ。然ルニ無我ヲ根據トシテ存スル此ノ種ノ數多ナル個人間ニ在リテハ、
積極的ニ其ノ普遍的信仰理想ニ基キ確固ナル誘導信賴ノ關係ヲ生ズルノミナ
ラズ、消極的ニモ何人トテモ自ラ他ヲ排シテ國權ノ自主表現人タルベキコトヲ
要求スルノ理由ヲ從テ殊更第一事實ヲ重シ其ノ自主表現人其ノ建國法ノ
不易不動ナルコトヲ認メザルベカラズ。而シテ此ノ種ノ第一事實ノ尊重ガ愈々
各個人ノ無私ナルコトヲ保障スルモノナリ。「アリストテレース」ハ全ク此ノ邊
ノ觀察ヲ缺キタレバ、其ノ影響ヲ受ケシ近代ノ自然法學說ガ如何ニ彼ノ說ヲ開
展スルカラ豫測スルニ難カラズ。然シ是等ハ皆建國事實ノ不完全又ハ曖昧ナ
ル社會ニ於テ唱ヘラレタル學說ナリ。

無私ノ上ニ立根
力ヲ用モレタ
會ハ用モレタ
利ニハ用モレ
之ヲ用モレタ
之ヲ用モレタ
之ヲ用モレタ
之ヲ用モレタ

元來國家ノ一員タル以上ハ皆無我者ナリ。我ノ基礎ニ立ツ管ナレバ、全體ノ仕事ヲ表現ス
ルニツキ自分勝手ヲ主張スルコトヲ許サズ。全體ノ仕事ハ誰ガ爲スモ可ナリ。故ニ不動ノ
歴史的的第一事實ニヨリ、確定セル標準ヲ得、且國民ノ之ニ伴フ覺信ニヨリテ一定ス。之ガ至極
ノ根柢ナリ。

第四 因ト縁トヲ區別セズ。「アリストテレース」ハ因果律ヲ分析スルコト尙
充分ナラズ、因ト縁トヲ混同セリ。サレバ以上ノ諸種ノ缺點ト相待チテ、革命ノ
因ナキニ當ツテハ反ツテ在來ノ國家根本組成ノ維持發揚ニ缺クコト能ハザル
無數ナル縁ヲ採ツテ、直チニ之ヲ革命ノ因ト誤認シタリ(佛教因縁論參照)。建國
ノ根柢タル第一事實ヲ尊重セズ又ハ普遍的信仰理想ヲ忘却スルガ如キ、或ハ國
家ト其ノ自主表現人トヲ離レタルモノト誤想スルガ如キハ執レモ革命ノ因ト
ルベシ。人民ノ精神身體財產ノ發達ノ如キハ革命ノ因タルヲ得ズ、唯其ノ縁タ
ルノミ。建國ノ理想ヲ無視スルガ如キ革命ノ因ハ具備スルトキハ人民ノ智能
ノ進歩等ハ革命ヲ助クルコトアルベシ、然シ革命ノ因無キニ當ツテハ人民ノ發
達ハ愈々益、國家ノ根本ヲ堅クスルモノニ外ナラズ。例ヘバ 皇國ノ如ク建國ノ
理想信仰及ビ其ノ第一事實ガ尊重セラレ 皇室ト國家トノ離ルベカラザル所

ハ人民ノ思想
ヲ以テ組織ス
ル者ニシテ
人ノ自覚ヲ
トスルコト
ニヨリテ
難レタリ

以ノ覺信セラレツツアル所ニテハ、人民ハ如何ニ發達スルモ商工業ハ如何ニ勃
興スルモ、反ツテ益、皇室並ビニ國家ノ繁榮ヲ來サシムルノミニシテ、決シテ之
ヲ傷ツクルモノニ非ズ。正○因○ヲ○確○立○ス○ル○コ○ト○ガ○大○切○ナ○リ、無○數○ノ○緣○ハ○唯○此○ハ○因
ヲ○助○成○ス○ル○ハ○ミ○ニ○シ○テ○自○ラ、其ノ方向ヲ定メ得ベキモノニ非ザルナリ。

一ツノ事柄ノ原因結果ハ無數ニ存ス。此ノ中ニ於テ分析シテ見レバ、因モ澤山在リ、緣モ數
多ク在ル。因トハ其ノ事柄自身ヲ生ゼシムル主腦トナルモノナリ、緣トハ單ニ主因正因ヲ補
助スルモノナリ。例ヘバ松ノ種子及ビ之ヲ蒔クコトガ松ノ生ズル因ニシテ、或溫度濕氣
肥料ノ存スルコトハ緣ナリ。革命ニツキテイヘバ因トハ性質上革命ヲ必要トスベキ事由ナ
リ。其ノ國ノ建國ノ大精神ヲ忘却スル如キコトナリ。緣ハ之ヲ助成スルモノ、即チ人智ノ
發達モアロウシ、社會上利益目的ノ衝突、階級ノ軋轢等無數ニアロウ。然シ是等ハ緣ハ革命ハ
正○因○サ○ヘ○無○カ○バ○革○命○ヲ○起○サ○シ○ム○ル○事○由○ト○ハ○ナ○ラ○ス。加○之○國○家○ノ○根○本○組○成○愈○固○ク、例○ヘ○バ○君○主
ヲ○尊○重○シ○君○主○ヲ○自○主○表○現○者○ト○仰○ガ○信○仰○ノ○愈○熱○烈○ナ○ル○ト○キ○ハ、執○レ○モ○直○接○又○ハ○間○接○ニ○之○ヲ○助○ク
ル○コ○ト○ト○ナ○ル。種○子○ヲ○蒔○ク○ト○イ○フ○正○因○ア○レ○バ○コ○ソ、太○陽○ノ○光○線○水○氣○ガ○緣○ト○ナ○ツ○テ○其○ノ○發○育○ヲ
助○成○ス○ル○ガ。若○シ○反○對○ノ○正○因○在○リ○テ○種○子○ヲ○枯○燥○セ○シ○ム○ル○ト○カ○煮○ル○ト○カ○イ○フ○場○合○ナ○レ○バ、溫○度
ヲ○水○氣○ハ○反○ツ○テ○種○子○ヲ○枯○死○セ○シ○ム○ル○モ○ト○ナ○ル。緣○ハ○因○ニ○從○ツ○テ○ド○ウ○デ○モ○ナ○リ、因○無○ク○レ○バ
緣○ノ○ミ○存○ス○ル○モ○致○方○ナ○シ。又○例○ヘ○バ○財○產○ノ○在○ル○ハ○放○蕩○ノ○緣○ナ○リ、因○ニ○非○ズ。其ノ意氣地ノ無
イ心持ガ因ナリ。此ノ薄弱ナル心在ルガ故ニ金ヲ持テハ修業ノ差支トナル。若シ心ガニ勵

古○神○道○ヲ○日
ニ○ス○ル○ニ○新○タ
要○ニ○ス○ル○ノ○必

彼ノ領理學
及ビ彼ノ第四
神論參照

眞空論ノ精
神ヲ缺ク

カマナレバ之ヲ以テ學資トナシ目的ノ學校ニ入り修業スルヲ得ベシ。人民ガ發達スレバ
君權國ノ根本組成ニ動搖ヲ及ボス恐アルガ故ニ、努メテ其ノ自由ヲ拘束シ之ヲ馬鹿ニシテチ
クナドトイフ考ハ、恰モ放蕩スルコトヲ心配シテ學資ヲ送ラヌ様ナモノナリ。因ト緣トヲ混
同セリ。因ヲ正シクシテ緣ヲ其ノ方ニ向ケルコトヲ考ヘネバナラヌ。此ノ因ニシテ正シキ
方向ニ向ハヌ中ハ何事モ皆不都合ナル緣トナリ、易キガ故ニ用心スルノ必要在リ。是レ實ニ
薄志弱行ノ徒ニハ金ヲ支給セザルコトノ正當ナル理由テアリ、又社會ノ根本組成ガ確立セズ
普遍的理想信仰ノ缺ケタル國ニ於テハ、愚民政策ヲ執ルコトノ已ムヲ得ザリシ所以ナリトス。

第五 矛盾律ニ拘泥ス。「ア、リス、ト、レ、ハ、ス」ハ、其ノ狹キ矛盾律ヲ尊重セシガ

爲○現○實○ヲ○透○シ○テ○理○想○ヲ○見○ル○コ○ト○ヲ○ナ○サ○ズ、又○特○殊○ト○共○ニ○普○遍○ヲ○見○ル○コ○ト○充○分○ナ
ラズ、或ハ純理ト不純理トヲ兼テ活躍セシムルコト能ハザリキ。同一ノ理由
ニヨリ、彼ハ社會ノ變遷ヲ認ムルガ故ニ、其ノ中ニ反ツテ不變遷在ルコトヲ要ス
ル○所○以○即○チ○絶○エ○ザ○ル○發○達○ニ○ハ○不○動○ノ○根○據○無○カ○ル○ベ○カ○ラ○ザ○ル○コ○ト○ヲ○明○ラ○カ○ニ○セ
ズ。又同一事項モ或ハ革命ヲ起ス緣トナリ、或ハ之ヲ防遏スルノ緣トナル所以
ヲ察スルコトナカリキ。此ノ故ニ「アリストテレース」ノ矛盾律ヲ信仰シ之ニ拘
泥スル者ハ古來多ク同様ノ誤謬ニ陥ルヲ見ル。偶然一時ハ感情其ノ他ニヨリ

變化ヲ喜ブ者ハ社會ニ存スル不變化ヲ絕對ニ憎惡シ革命ノ必要ヲ思ヒ其ノ正
反對ニ感情上等變化ヲ欲セザル者ハ社會ノ變化人民ノ發達等ヲ危險視シ其ノ
自由運動ヲ恐ルルコト甚ク殊更教育ト政策ト認定法トヲ用キテ人民ヲ腰拔
ニセント焦慮スルニ至ル。世界到ル所此ノ種ノ迷想在リトイフ況ヤ近世初期
ノ歐洲ニ於テオヤ。

第六 歸納推理ノ缺點ニ陷ル。終リニ「アリストテレース」ノ革命論ノ缺點ハ
彼ノ完成セル不完全歸納法ノ缺點ヨリ出ヅ。此ノ種ノ歸納推理ノ價值並ビニ
當否ニツキテハ曩ニ論理學ノ要領ノ項ニ述ベタル所ナリ。蓋シ彼ガ國家形相
ニ關スル一般ノ法則ヲ抽象スル材料トナセシモノハ偶然彼ノ周圍ニ存在セシ
國家ナリ。普遍的理想信仰ヲ無視シ其ノ建國ノ事實ヲ省セズシテ單ニ是等有
數ノ個個特定ノモノヨリ一般ノ法則ヲ抽象シ之ニ根據シテ有ラユル國家ヲ論
定セントスルハ誠ニ危險ナリ。彼ノ材料トセシ國家ハ建國ノ精神事實ニツキ
見ルベキモノナカリシガ故ニ彼ハ知ラズ識ラズ之ヲ等閑ニ附シタルコトモア
ルベシ。又是等ノ國家ハ元來其ノ大精神及ビ第一事實ヲ完全ニセザルガ故ニ之

後續學徒
ノ既參照

ヲ無視セラレルモ甚シキ苦痛ヲ感ゼザルコトモアラン。如何ニ彼ガ現實的ナ
リシニセヨ是等ノ點ニツキ長所ヲ有スル何事モ外國ニ優レタ 皇國ニ生レタ
ランニハ自ラ其ノ見識ヲ異ニセザルヲ得ザルベシ。

「アリストテレース」ヲ學ブナラバ其ノ形式ノ末ヤ結論ヲ學バズシテ彼ノ活キタル精神ヲ見
ルヲ要ス。

以上ハ「アリストテレース」革命論批評ノ大要ナリ今尙彼ノ國家論ノ全體ヲ「プ
ラトーン」ノ國家論ニ比較シテ論ズル所アラントス。

此ノ兩大家ノ同異並ビニ關係ヲ明ラカニスルコトハ眞面目ノ生活並ビニ研究ヲナスニ大
切ノコトナリ。

第六項 結論

「アリストテレース」ノ國家論ノ性質モ尙彼ノ實在論及ビ論理學ニヨリテ定マ
ルモノナレバ彼ノ國家論ノ長短ヲ論ズル者ハ必ズ先ヅ彼ノ哲理ノ長短ヲ考ヘ
ザルベカラズ。蓋シ彼ハ國家自然現象ノ研究ヨリ抽象シテ其ノ哲理ヲ完成ス
ベキコトヲ唱ヘタリシガ其ノ實全クハ然ルニアラズシテ尙彼ノ哲理ヲ基礎ト

シテ、彼ノ自然論國家論ヲ完成セシメタルガ故ナリ。

多數ヨリ抽
象スルノミ
ニテハ無比
カモ體比
ノ故無比
ルト論結
ザシト得
ハ出來ズ

第一 「アリストテレース」ハ世界ノ個、特殊ナル現象即チ差別ヲ完全ナル實有トナシ、其ノ知覺ヲ主要ノモノトシ、之ヨリ抽象シテ實在セル法則ヲ求メ、以テ其ノ通性ヲ知り得ベシトセリ。國家論ニツキテ見ルモ亦然リ。彼ハ實在ノ知識ヲ求ムルニツキ、自我ノ内部ヲ透シ、其ノ觀念トシテ求メタルモノニ非ズ、外部ニ存在セル實在ヲ直チニ外部ニ求メントスル者ナリ。個ノ事實ノ是認、其ノ比較抽象ヲ主義トスル者ナリ。然レドモ事實ノ認識、其ノ相互ノ比較及ビ抽象ニツキテハ、必ず普遍無差別方面ノ存在セルコトヲ前提シテ、適當ナル事實ノ觀察ヲナシ、適當ニ材料ヲ選擇シ、然ルベク之ヲ比較シ、無理ナク之ヲ排列シ、抽象セザルベカラズ。盲目的ノ實驗、材料ノ偶然ナル撰擇、任意ノ排列抽象ニテハ、何等ノ精密ナル知識ヲモ得セシムルモノニ非ズ。故ニ「アリストテレース」モ事實ノ認識ニツキテハ、範疇ノ存在スルコト等ヲ論ジ、其ノ相互ノ比較及ビ抽象等ニツキテハ、必要ナル推理ノ方法ヲ説キ、且ツ本體形相質料加之一神ノ論ヲ基礎トナシ、自ラ普遍アルヲ前提シテ、更ニ比較研究ヲ爲シタルモノナリ。是レ實ニ「アリ

ストテレース」ノ嚴格ナル個在論ト自ラ矛盾スルモノニシテ、之ヲ彼ノ矛盾律ヨリ批評セバ、彼ノ弱點ナレドモ、一層高キ見地ヨリ觀察スルトキハ、寧ロ彼ノ長所ナリトス。「アリストテレース」ガ「プラトーン」ノ精神ニ化セラレ、尙知ラズ識ラズ普遍ニ根據シテ彼ノ哲理ノ上ニ比較研究ヲ大成シタリシハ、後世ニ於テ哲理ヲ忘レ、普遍ヲ感ジ得ズ、徒ラニ國家法律現象ノ比較抽象ノミニ執着セル人ノ到底及ブ能ハザル所ナリ。

唯比較トイフモ、人間ト人間トノ比較トセバ、已ニ普遍ヲ前提セルナリ。比較トハ例ヘバ、同一ノ分母ハ上ハ數ニツキテイヘルノミ。同一ノ分母トハ普遍ノコトナリ。普遍アリテ始メテ比較シ得ラルベシ。普遍ナクシテ比較シ得ルコトハ認メ得ベカラズ。詳シキ研究ホド豫メ先人ノ經驗內的經驗ニヨリ、普遍ヲ明カニセザルベカラズ。今日ノ比較ハ宜シカラズ、ソハ普遍ヲ否認シツツ偶然ノ材料ヲ根據トスルガ故ナリ。故ニドコマテモ哲理ガ根據トナリ、思潮ガ根據トナル。「アリストテレース」ハ此ノ點ヲ見テ、尙自己ノ哲理論ヲ立テ、之ヲ根據トシテ論ジタリ。哲理論ハ最後ニ著作セラレタルガ之ニ拘ハラズ、彼ハ實ニ其ノ哲理ヲ根據トシテ論ジタリキ。

第二 「アリストテレース」モ實ハ彼ノ哲理ヲ立テ、其ノ上ニ健全ナル比較研究ヲナシテ、法則ヲ抽象セリ。併シ、彼ノ重キヲ置ク所ハ固ヨリ個個ノ差別ニ在リ、

之ヨリ共通性及ビ法則ヲ抽象セントスルコトニ在リ。此ニ於テカ彼ノ國家論ハ「プラトーン」ニ比スレバ特殊ノ性質ヲ帶ビタルモノナリ。

一 「アリストテレス」ノ國家論ハ「プラトーン」ニ於ケルト異ナリ、唯一不動ノ理想ヲ確定シタルモノニ非ズ。國家現象中ニ存在スル法則ハ一端ヲ抽象シテ結論トナシタルモノナリ。時ト場合トニ應ジテ異ナレル法則ノ記載ヲ主トスルガ故ニ或場合或條件ノ下ニ適當ナル國家ノ形相組成ハ他ノ場合他ノ條件ノ下ニ於テハ適當ナルモノニ非ズトナスナリ。

「プラトーン」ハ理想的國家ヲ立テシガ直チニ違セラレザル故更ニ低キ理想ヲ立テタリ。然シ結局一ツノ理想ニ達セントシテ進メリ。「アリストテレス」ハ差別中ノ法則ヲ抽キ出シタリ、或場合或條件ノ下ニ比較的ヨキ或國家形相モ常ニ善キニ非ズ、事情異ナレバ變ズ。場合場合ニテ異ナル。「プラトーン」ハ「何デモコレダ」トセルニ「アリストテレス」ハ「一番良キモノハナイ」トセリ。

換言セバ「アリストテレス」ハ、吾人が政治法律生活ノ自由發展ニ利用スベキ無形のノ道具、即チ政治的規則ヲ陳列セリ。其ノ道具ハ冷靜ニ陳列セラレ頗ル用キルニ堪フル結構ノ器械ナレドモ尙一層重要ニシテ是等ヲ運用スベキ精神

是等ヲ利用スベキ原動力タル理想ニツキテハ何等説ク所ナシ。「アリストテレス」ハ人間並ビニ國家ノ發達ヲ以テ必然的ニ法則ニ從ツテ發達スルモノト認メタリトイハザルベカラズ。果シテ彼ノ見解ノ如シトセバ、吾人ハ法則ヲ知ルコトスラ必要ナラズ。若シ法則ニヨリテ將來ヲ豫見スルノ必要アリトイハバ、此ノ種類ノ明ラカナル絶對ノ法則ハ決シテ知ラレ得ベキモノニ非ズ。又實在スルコトヲ斷定シ斷言シ得ベキモノニ非ズトイハザルベカラズ。

何レが良イ惡イトイフニ非ズ「プラトーン」ト「アリストテレス」ト分擔ノ異ナルタイプ。「プラトーン」ハ機械ヲ動カス所ノ精神ヲ鍛鍊スルヲ主トシ「アリストテレス」ハ其ノ道具ヲ吟味スルコトニ意ヲ用非タリ。「アリストテレス」ノ如ク道具丈ケニテハ運轉ヲナシ得ズ。「アリストテレス」ノ如ク法則ガ絶對ナラバ知ルノ要ナシ、知ラヌモ自ラ實現セラレルガ故ナリ。然シカカル法則ハ實ハ是ナシ。吾人が實現スルコトユエ法則ダケニテハ分ラズ、理想ニヨリテ之ニ法則ヲ参照シテ、ノミ未來モ明カナルハミ。右ノ眼丈ケニテハ完全ニ見エズ、手ニテモ左右アリテヨク用ヲ爲ス、人間モ四方ニ眼ガアリテハ不可ナリ、前ノ方丈ケユヘ尊ケレドモ片目ニテハ困ル。之ト同シク理想ト抽象的規則トハ相待ツモノナリ。元ヨリ是ニテモ絶對ハ分ラヌガ、片眼ナラバ尙更分ラヌ。

「アリストテレス」ノ法則ハドコマデモ自ラ實現セラレル積リナリ。「アリストテレス」ハ

例ハ唯遠シト云
近キルコト
或ハ如ク
物アリト
ヨリ遠ク
ノミトイ
空ヲ見レ
遠ク見レ
ナク見レ
モナク見
ナク見レ
星ヲ見レ
メテ見レ
近キルコト
得遠始見
ミシテテ
ノミシテ
キテ見レ
近キルコト
得遠始見

絶對ニハ原
因ヲ知リ
シ得ズ
ニハ現在
身ハ知レ
ズ
結果ヲ知
ズ
絶對ニハ
得ズ

切ナル部分ヲ摘ミテ、始メテ特定ノ因果ヲ認メ得ベク、特定ノ事物ノ關係ヲ云シ得ベク、特定ノ法則ヲ説キ得ベクノミ。唯漠然トシテ絕對ニ自存スル因果其ノ他ノ法則アルコトナシ。最少限度ニ於テモ認メザルベカラザル法則即チ宇宙ノ規則正シキコトサヘ、吾人ノ信仰理想ニ基ヅキ、最少限度ニ於テ認メザルベカラザル宇宙ノ偶然ナル事實ト上下ナク前後ナシ。從ツテ規則正シキコトスラ偶然然ルノミニシテ決シテ理想信仰ヲ離レテ存スルモノニ非ズ。是レ實ニ眞空論ノ卓越セル所以ナリ。(佛教哲理三〇三頁以下、及四六五頁以下托事顯法生解門、及五〇一頁以下參照)

單純ノ物理論ニテモ、酸素水素カ化合スル如キチ動カザル唯一ノ法則ト思フハ誤ナリ。偶
然ナル此ノ地球上チ立チ場トシテ、又偶然ナル吾人ノ知識、吾人ノ生活、チハス爲ニハ、地球上ノ
壓力溫度引力等ガ同一ノ時ニノミ化合スルコトヲ知ルノミ、此ノ前提ノ下ニ於テノミ化合ス
此ハ前提ハ宇宙皆同一トイフ能ハズ、到ル所異ナリ得ベシ、此ハ地球上ハコトトシテ、又此
ハ地球上ハ生物生活ニ對シテ、則ハ動カストイフノミ。宇宙全體トシテハ實ニ複雜ノモノニ
テ地球上ニ存スル科學ナドガ絕對ノモノニ非ズ。ツマリ宇宙ノ全體ガ在リテ酸素水素ノ化
合チ斷言シ得ルノミ。人生ノ事ハ尙複雜ノモノナリ。故ニ原因結果ハ非常ニ複雜ノモノナ
リ。一ノ事實ヲ探ルモ其ノ原因ハ無數無限ニシテ、又其ノ結果モ無數無限ナリ。之レヲ書キ

現ハセバ無數無限ニテ眞黑ニナル程ナリ、書キタルモノハ厚サナケレドモ、實ハ厚サモ長サモ
幅モ無限ニシテ宇宙全體ニ擴ガリテ居ルユエ、宇宙間ハ絕對ニ原因結果ニテ埋モレテアルヲ
ケナリ。夫レ故原因結果ハナイト同シ。然リ。純客觀的ニ冷靜ニ公平ニ見レバ原因結果ハ
無シ、是レ即チ空ナル所以ナリ。然レドモ是レニテハ「エレア」學徒ト同ジニナル。「エレア」學徒
ハ夫故ニ運動無シト結論セリ。純客觀的ノモノガアルトイフハ間違ナリ。客觀的ト主觀的
トガ在ルカラコソ、客觀的ノ存在ナドトイフナリ。茲ニ一部ノ光明ヲ與フルハ吾人ノ自由活
働及ビ理想ナリ。之ヲ以テ一番近キモノヲ摘ミ上ケル故、活キタル有限ノモノハが定マリ來ル。
卑近ノ例ヲ示セバ景色ナリ。人ハ景色ガ客觀的ニアルト思フテ居ルガ、山ノ景色ノ如キモ
純客觀的ニ公平ニ諸方面ヨリ見レバ、景色ハ意味チナサヌ。在ルカ無キカ。實ハ景色ハ無イ。
只景色在ルハ主觀的ハ或ル一點ヨリ見ルカ、ナリ。散步シテ或ハ坐臥シテ見ルカラ在ルノ
ミ。一點カラ全體ヲ見ルガ故ニ、景色トナルハ、富士山ニ三十六景アルガ如ク、常ニ偶然自
由ハ一點又ハ理想的ノ立場ヨリ見ル。自由理想ト景色トハ離レテ居ルモノニ非ズ。故ニ景
色ハ吾人ハ立場ガ大切ナリ。自分チ善キ立場ニ置ケバ何ニテモ善ク見エル。立場トハ形式
的ノ場所チイフニ非ズ、自由理想ナリ。乞食ノ汚キ着物モ見方ニヨリテハ審美的、風流ニ見ユ。
富士山ハ如何ニ善キモ、頂上ヨリ下ニ向フテ寫眞ヲ取レバ、眞黑ノモノニナル計リナリ。唯物
論者ニイハセレバ富士山ハ石コロノ集リ、然モ燒石ノ集リノミ。理想自由ノ立場ニ立チテ始
メテ事物ガ活殺セラルベシ。原因結果又然リ。
「アリストテレス」ハ理想ヲ忘却シ常ニ抽象的(不完全ナル)法則ヲ絕對トセリ。今日モ此ノ

此ノ精神ハ
テアリスト
相ノ質料ト
モヨリ精神
セヨリ式化
モラレタル
「エレア」
徒ハ無限ニ
執着シ又理
想ヨリ説カ
ズ故ニ事カ
實チ説明ナ
ザルコトナ
リハス

小サクイニ
ハ小兒ニ
ハ小兒ニ
ハ小兒ニ
ハ小兒ニ

皇國ノ民族
ハ日本ノ民
テ理想トシ
テ必ズ之ヲ
維持スルコ
トカセテハ
ナズ理論非

第一門 第二章 希臘哲學ノ盛時 第五節 「アリストテレース」 國家論 結論 二八四
缺點ヲ有スル者多シ。學問藝術ノ寫實主義ハ只寫眞サヘトレバヨイト思フガ間違ナリ。立
場が大切ナリ理想ヲ元トスルコトヲ忘ルベカラズ。理想ヲ本トセバトセバ古來ハ內的經驗
ヲ研究シ誠意ヲ以テ吾人ハ本性ヲ反省セザルベカラズ。

蓋シ事實上自由モ理想モ是認セラレベキモノナラバ事實上法則モ事物關係モ
因果モ亦共ニ是認セラレ得ザルベカラズ。法則等在ルコトナシトイフハ詭辯
論者風ニ非ザレバ「エレア」學徒流ノ論法ナレドモ自由及ビ理想ナシトイフモ亦
詭辯論ト選ム所ナシ。事實上法則等ノ是認ノ必要ガ證明セラルルト共ニ自由
理想ノ必要ナルコトモ亦證明セラレツツアル所ナリ。換言スレバ外部客觀的
存在ノ方面モ自然ニシテ宇宙ハ表現タルヲ失ハザレドモ内部主觀的存在ノ方
面モ亦同ジク自然ニシテ宇宙ハ表現タルヲ失ハズ。殊ニ外界ノミニ重キヲ置
キタルモノハ希臘古代ノ自然哲學ナリ。之ニ對シ内界ノ存在ヲ見テ内外ヲ相
殺セシメントセシモノハ「ソフキスト」輩ナリ。又内界ノ存在ハミニ重キヲ置キシ
モノハ「ソークラテース」ナリ。而シテ「プラトーン」ハ「ソークラテース」ニ忠ニシテ
益其ノ缺點ヲ補ヒシガ「アリストテレース」ハ「プラトーン」ヨリ出デ「プラトーン」ニ

比スレバ寧ロ内界ヲ忘却セリ。

「アリストテレース」ハ自ラ「ソークラテース」ノ系統ニ屬セルコトヲ公言セル故内界ニ重キヲ
置キシハ明カナレドモ「プラトーン」ニ比セバ「ソークラテース」ノ精神ヲ失ヘル者トモイヒ得ベシ。
「アリストテレース」ハ内部ノ責任心又ハ内部ノ根柢ニ蟠レル理想ヨリ説ク者
ニ非ズ。寧ロ之ヲ忘却シ狹義ノ自然ヲ偏頗ニ觀察シ之ヨリ歸納シタル法則ヲ
列記セリ故ニ吾人が未來ニ對シテ實現スベキ國家法律吾人が何ヲ措テモ實行
セザルベカラザル義務ノ標準ハ曖昧模糊タリ。彼モ道德律ヲ立テザルニハ非
ザレドモ根柢ナク活力ナキ道德律ナリトス。奮闘力ヲ有スル吾人ハ「アリス
テレース」ニヨリテ道具ヲ得タレドモ彼ニ信賴スルノミニテハ何レノ目的ニ隨
ヒ何者ヲ敵トシテ奮闘スベキカヲ知ル能ハズ精兵ヲ提ゲテ戰場ニ出ヅレドモ
敵ト味方トヲ辨別スルコト能ハズ。

故ニ精兵ハ反ツテ劔呑ナリ其ノ敵ト味方トヲ分ケルハ「プラトーン」ノ理想觀念論ナリ。
要スルニ「アリストテレース」ハ希臘ノミニ於ケル不完全ナル國家現象其ノ當
時及ビ其ノ以前ノ幼稚ナル社會現象ノミヲ材料トシテ用キラルベキ國家現象
ノ法則ヲ立テ國家社會ヲ説カントセシ者ナリ。「プラトーン」ハ是等ヲ踏臺トシ

テ。不。動。ナ。ル。理。想。ヲ。立。テ。之。ニ。向。テ。奮。闘。セ。ン。ト。號。呼。シ。タ。ル。者。ナ。リ。兩。者。相。待。ツ。テ。完。全。ナ。ル。國。家。論。ノ。兩。端。ヲ。ナ。ス。モ。ノ。ト。イ。フ。ベ。シ。

如何ニ研究スルモ法則ハ研究ハミニテハ何ソベシトイフノ結論ヲ生ズルコトナシ。

二「アリストテレス」ハ狹義ノ自然ヲ尊重セリ、外界ヲ偏重セリ、故ニ生物タル人間ノ性愛性慾生理作用ヲ中心トシテ、國家ノ成立ヲ説キ、人間各個人ノ善福ヲ中心トシテ、國家ノ目的ヲ論ジタリ。是レ「プラトーン」ガ至善ヲ大規模ニ實現セシムルコトヲ目的トシ、正義公平ノ實現ニヨリ完全ナル存在ヲナシ得ルコトヲ説キシト大ニ趣ヲ異ニセリ。固ヨリ善ハ兩人ヲ通ジテ重要ノ地位ニ在レドモ兩人ノ中ニ就キテ「プラトーン」ヲ見レバ、吾人内部ノ神聖ナル理想タル善美ノ觀念ガ吾人並ビニ世界ノ根柢トナリ、其ノ現ハレトイフベキ正義公平ノ實現ハ本ニシテ、其ノ結果存在スル所ノ幸福ハ末葉ニ屬ス。「アリストテレス」ハ各個人が生物トシテ有スル本能ヲ主トシ、各個人ノ意思理想ノ尊重スベキヲ言ハズ、寧ろ各自ノ生存及ビ幸福ヲ達スルコトニ順ナルモノハ正ニシテ逆フモノハ不正ナリトスルニ在リ。斯カル立脚地ヨリ見レバ、差別ニ執着シ愛情ヲ私スル小

國體ノ如キハ理想カスナリ、非ズモ是ナレニ政治點ナリ

市。國。ハ。完。全。ニ。近。シ。故。ニ。其。ノ。世。界。的。的。度。量。ヲ。缺。ク。ハ。固。ヨ。リ。當。然。ナ。リ。又。各。個。人。ノ。生。存。幸。福。ニ。反。ス。ル。國。家。ノ。形。態。ハ。不。正。當。ナ。ル。ノ。ミ。ナ。ラ。ズ、内。外。ノ。事。情。ニ。伴。ヒ。各。個。人。ノ。本。能。的。ノ。要。求。ノ。變。化。ス。ル。ニ。應。ジ、國。憲。ノ。變。更。ヲ。必。要。ト。ス。ベ。キ。コ。ト。ヲ。論。結。ス。ル。モ。至。當。ナ。リ。ト。ス。

「プラトーン」ニ言ハスレバ各國民ニ於テ其ノ理想トスル神聖ナル國體アラバ之ヲ保持發揚スル爲ニ奮闘セヨト結論セシナラン。「アリストテレス」ハ本能ガ變レバ國體ハ變ルガ正シトイフ。此ノ點理想ヲ缺ケルナリ。日本ノ國體ハ萬國無比ノモノナリ、各國ヨリ抽象シタル結果算キモノニ非ズ。無比ナリトハ他ニ例ヤ數ノ欠ケタルコトナリ。數ハ少クトモ類例ハ缺ケタリトモ、コハ反ツテ我が國體ノ尊キヲ示スモノニシテ之ヲ否定セシムベキモノニ非ズ。日本國民ニハ之ガ不動ノ理想ニシテ之ガ主ニシテ法則ハ從ナリ。法則ハ日本國體發揚ノ爲ニ利用スベキ道具ノミ。

斯ノ如クシテ彼ハ人間又ハ國家自身又ハ各個人ガ實現セシムベキ神聖ナル手本ヲ吟味セシ者ニ非ズ、熱情ヲ以テ其ノ實行ヲ叫ビタル者ニ非ズ。寧ろ冷静ニ手段ヨリ吟味シテ、手段ヲ缺クコトハ、假令如何ナル理想ニテモ之ヲ目的トスルハ、誤ナルコトヲ述ベツツアル者ナリ。否之ニ一步ヲ進メ、單純ニ事實ガ法則ニテハマツツ進行スルコトヲ知ルハ、彼ノ國家社會ノ研究ナリトス。要ス

ルニ狹義ノ自然ヲ主トスル彼ハ必然的ノ本能ノミアレドモ責任心並ビニ理想
ナク、自然律ハ存スレドモ神聖ナル道德律並ビニ法律國家ハコレ無キ筈ナリ。
然ルニ尙道德律法律等ヲ認メントスルハ彼ノ矛盾トイフベシ。

「アリストテレス」ハ「プラトーン」ニ就キ長ク修メタルが故ニ、如何ニ「プラトーン」ヲ攻撃スル
モ根柢ハ「プラトーン」ノ精神ナリ。其ノ理窟ハ乾燥無味ナレドモ、其ノ精神ハ「プラトーン」ノ後
ヲ趁ヘリ。是レ彼ノ國家論ノ價值アル所以ナリ。「アリストテレス」ハ元元「アンティステネー
ス」ト「プラトーン」トヲ調和セントセシガ、此ノ種ノ矛盾ガアル故、アンティステネー
的ノ個在論ニ立チ返リシハ後ノ時代ナリ。「アリストテレス」ノ尊キ所以ハ個在論ヲ一貫セ
×所ニ存ス、矛盾シテ居ル所ニ在リ根柢ニ「プラトーン」ヲ藏セル所ニ存スルナリ。

三 「アリストテレス」ハ個個ノ材料ノ比較、抽象ノミニ重キヲ置キ、シガ故ニ、
其ノ材料ノ範圍ニ限リアルコトガ、又其ノ結論ニ制限ヲ與ヘ、彼ノ結論ノミヲ用
キルコト能ハザルニ至ラシメシハ、又止ムヲ得ザル所ナリ。サレバ彼ハ其ノ當
時到ル處ニ奴隸ノ存セシ故ヲ以テ、自然トナシ正當トナセリ。又其ノ當時各個
人ガ家及ビ國ニ屬セザルモノ無キヲ見テ、家ヲ正當トシ、國ヲ以テ各個個人ノ有機
的、必要ト見做シタレドモ、更ニ進デ、各個個人ヲ以テ人類全體、又ハ人種全體ハ表

比較抽象
得タル結
論ハ實ニ
テハアラ
コトヲ普
留トシテ
其ノ意ヲ
研究シテ
ナリ來ル
誤リヨク

現者ト看做サズ、是等ノ方面ヲ有スルモノト見ザルガ故ニ此ノ點ヨリ又小國家
ヲ完全視シ、且國家萬能主義ヲ認メタル者ナリ。「プラトーン」モ亦其ノ當時ノ事
情ヲ見タルガ故ニ同一ノ結論ニ達シタレドモ、彼ノ小國家ヲ是認シタリシハ、其
ノ「イデア」論ニ基ヅク潔癖ニ在リ。彼ノ「イデア」論ガ數ノ保障ヲ輕ンジタルノ點
ニ在リ。又彼ガ國家萬能主義ヲ認メタルハ、善美ノ雄大ナル實現、正義公平ノ實
現ニ切ナリシガ故ナリ。其ノ來現關係ヲ認ムルコトニ專ニシテ、發現關係ニ想
到セザリシガ故ナリ。「アリストテレス」ハ之ト異ナリ、其ノ小國家ヲ是認セシ
ハ、本能ヲ重ンジ差別ノ愛ニ執着セシ點ト、其ノ當時ノ國家並ビニ動物等ノ比較
研究トニ基因ス。即チ彼ガ國家萬能主義ニ陥リシハ、一ハ無差別方面ノ人類ヲ
フ見地ヨリシテ、各個個人モ亦人類ノ表現者タルノ點アリ、徒ラニ國家ノ表現者タ
ル根據ノ上ニノミ生存發達スルモノニアラザルガ故ニ、國家モ亦之ヲ鑑ミザル
ベカラザルコトヲ觀破シ得ザリシ點ニ在リトス。而シテ又一ツハ當時ノ卑近
ナル方面ノ比較研究ノ結果ヨリ來リシモノナリ。「プラトーン」ハ「アリストテレー
ス」ノ兩人ガ其ノ結論ヲ同一ニシツツ因リテ來ル所ノ異ナルヲ知ルハ又興味ナ

キニ非ザルベシ。

「プラトーン」ハ正義公平ヲ根據トス美ハ善ト一ツナリ、全體ノ調和ヲ得ザルベカラズ。公平ト正義トニテ運用シテ行カザルベカラズ。各個人ガ之ヲ實現スルモヨキガ、大仕掛クニ善美ヲ實現セザルベカラズ。(正義公平ハ後ノ博愛主義ニ比スレバ尙小ナルモノナリ)正義公平ハ中喧マシキ故ニ、小國家ヲ理想トナセリ。然ルニ「アリストテレース」ハ然ラズ、人間ノ本能ニ重キヲ置キタリ。家族トカ血族トカニ拘ハリタリ、故ニ大國家ハ出來ヌ。日本モ宜シク古神道ノ信仰ニ依立シ、和魂(ニギミタマ)ヲ中心トシテ、益々人的範圍ヲ擴張スベキデアリ。現實的ナル差別ノ愛計リニテハ、宜シカラズ。夫レ計リイフナラバ希臘流ノ小國ニテ甘ズルヲケトナル、他方ニ同時ニ人類全體ヲ見ツツ之ニ擴張セネバナラヌ。

第三 以上論述シタル所ヲ回顧スレバ「アリストテレース」ハ客觀ヲ重視シテ、冷靜ナリ、其ハ主觀偶然ニ蔽ハルルコトナク、外界ニヨリ外界其ノ儘ヲ見ントスル者ナリ。「プラトーン」ハ熱情ヲ以テ滿チタリ、彼ハ其ノ主觀ヨリ出發スル者ナレドモ、能ク其ノ主觀ヲ萬人萬物ニ擴張シテ私ナキヲ期セシガ故ニ主觀的ナレドモ、其ノ理想觀念ハ客觀的ノ實在ナリトス。「アリストテレース」ノ法則ハ外部ニアル道具ニシテ何人モ之ヲ利用シ得ベキモノナレドモ、其ノ結果尙何人モ完全ナルヲ得ザルハ「アリストテレース」自身ガ自白シツツアル所ナリ。「プラトーン」

家屋ノ建築
用ニモ變方入
ナリ

コアラト
ンハ自
空ト名ツケ
ズ「イデア」
トイフニ
トイフニ
有ト認ム
ドモ形式
空諦ニ等
シハレ

人間内心
目的ニヨリ
制度法律
道徳律ヲ生
ズ、唯自然
ノ天非ズ

是等ノ方
ニ偏スル
耳ヲ斥ケ
カテ音ヲ
ニ等シス
ニサヘ左
アルニ非
ヤルニズ

「アリストテレース」ハ「プラトーン」ノ理想ハ内部ヨリ湧キ出デタル命令ナリ。宇宙ノ表現者ノ要求ナリ。宇宙自身ノささやきナリ。眞如ノ聲ナリ。待期スル所ハ完全ナレドモ、永恒何人モ何處ニ於テモ、全然其ノ儘純粹ニハ達シ得ラザルモノナリ。又實在論ニツキテイヘバ「アリストテレース」ハ我法俱有ヲ説ク小乘續子部ノ哲理ニ似タリ。「プラトーン」ハ唯識ヲ説ク大乘法相宗唯識宗ノ哲理ニ似タル所アリ。尙差別無差別ノ論點ニ重キヲ置キ、兩人ヲ天台ノ三諦圓融ノ説ニ照セバ「アリストテレース」ハ假諦ヲ分擔スル者ニシテ「プラトーン」ハ空諦ヲ分擔スル者ナリ。假諦ハ必ず調和並ビニ普遍ノ存在ヲ前提スルガ故ニ假ノ悟ナリ。空諦ハ必ず各個ノ差別ノ存在ヲ前提スルガ故ニ空ノ悟ナリ。假ハ空ノ缺クベカラザル材料ナリ。又客觀ハ主觀ノ利用ニ必須ナル道具ナリ。故ニ大キクイヘバ生活及ビ世界、小サクイヘバ國家及ビ法律ハ、其ノ兩方面ヨリ觀察研究スルニ及ンデ完全ナルヲ得ルモノトス。是レ「プラトーン」ニ「アリストテレース」及ビ「不識ヲ以テ結論トセシ彼等ノ師タル」ソークラテース」ノ三人ハ特ニ相補フテ一體ヲ成ス所以ナリ。

家ヲ建ツル當リテハ、タダ材料ヲ集ムルモ本ヲ何程讀ムモ無効ナリ。理想ヲ根柢トシテ之

超エ思辨。Speculationニヨリテ短刀直入シ、事物ノ根源ヲ探求シ得ベシトシタル往古ノ自然哲學ト分離センコトヲ勉メシメタリ。特ニ豫定セル研究方法及ビニ豫定セル根據ハ上ニ材料ヲ撰擇シ、遍ネク實驗ヲ試ミントセシコトハ、科學研究上ハ一大進歩ナリ。併シ是等ノ科學ニ對スル當時ノ哲學ハ、是等ノ科學ニヨリテ得タル新知識ヲ統括融合シ、更ニ一大系統ヲ立テ得タルモノニ非ズシテ、反ツテ昔ノ哲學ニ立チ返リ、自然科學ノ知識ノ複雜ナルニ對抗シテ、人倫ノ根據ヲ研究セント企テタルモノナリ。「エピクローロス」學徒、ストア學徒、懷疑學派ノ何レモ皆此ノ特色ヲ以テ名アル者ナリ。

「プラトーン」アリストテレース「ガ常ニ根柢トナルガ故ニ、始メヨリ材料ヲ選ビテ特殊ノ研究方法ヲナセリ。全盛ノ哲學ノ其ノ勢ニ根據シテ研究セシ故自然科學ノ大發達ヲナセリ。又「ストア」ノ人生觀ノ如キハ極メテ大ナルモノナリ。社會ノ觀察ノ如キ亦然リ。是等ハ「ローマ」法ト大ニ關係アルモノニシテ、今日マテ非常ニ影響セリ。

第二 是等ノ哲學派ハ當時ノ思潮ノ混亂ニ乗ジ、何レモ餘リニ高雅ナル「プラトーン」ノ思想ヲ繼續シ得ズ、又「プラトーン」ヲ攻撃シタル「アリストテレース」ノ形而上學ノ矛盾ニ満足セズシテ起リタリ。彼等ガ「アリストテレース」ノ説ニツキ

テ矛盾ヲ感ジタル點ハ、彼ガ一方ニハ個個特定ノミヲ以テ無上ノ實在トナシ、知覺ノ絕對ノ有效ヲ認メナガラ、一方ニ於テハ質料ト形相トノ極端ナル對立ヲ認メ、吾人ノ確實ニ認識シ得ベキモノハ質料ニ非ズシテ之ニ共通ナル形相並ビニ其ノ法則ナリトスルノ點ニ在リ。(アリストテレース)ノ實在原理論中本體論以下參照「アリストテレース」ノ總說第三目參照) 彼等ハ「プラトーン」アリストテレース「ノ何レニモ満足セザルガ故ニ、勢ヒ之ニ對抗シタル」メガラ「學派」數學者ナラリス。並ビニ「キニコス」學派「アンティステネース」及ビ「キレーネ」學派「アリスチッポス」加之「ソフスト」輩ニ依リ、且又「ソク」ラテース「以前ノ自然哲學ニモ根據セントセリ。サレバ當時ノ三學派ハ其ノ何レモ皆個個ノ現象ヲ其ノ出發點トナシ、論理ニヨリ現象ノ背後ニ存スル哲理ヲ求メ出ダサントセリ。此ノ研究主義ハ、其ノ當時ハ自然科學ノ研究方法ト全ク一致セシモノトイフベシ。然レドモ是等ノ哲學者ハ現象ノ知識ヲ綜合スルニツキ何等ノ確實ナル標準ヲ覺信セズ、又在來發達シ來リタル標準ニ據ラントモセズ。サレバトテ自ラ內的經驗ニヨリ必要ナル形式標準ヲ立ツルコトヲ得ズ。故ニ系統ヲ立ツルニツキ依ルベキ確實ノ

根據ヲ失ヒタリ。斯ノ如クシテ五里霧中ニ彷徨セシコトハ尙存續シタルアカ
デミー學派、逍遙學派ニツキテモ亦見ル所ナリ。

在來ハ國家
ガ希臘人
ノ中心點
ナリキ

個人道徳及
心個人ノ安

第三 偶、當時ノ状態ヲ顧ミレバ、希臘ノ政治上ノ獨立破レタルガ故ニ、各個人
ハ其ノ國家ニ依頼セズ、自立シテ安心立命ヲ計ルベキコトハ避クベカラザル必
要ヲ感ジタリ。同時ニ小市國ヨリ轉ジテ龍大ナル國家ニ支配セララルニ至リ
シガ故ニ、個人主義ノ勃興スルコトハ勢ヒ避クベカラザリシ所ナリ。此ノ要求
此ノ風潮ハ哲學ガ各科學ヲ拘束スルカヲ缺キ、又在來ノ哲學ニ根據スルヲ得ザ
ルニ當リ、之ヲシテ專ラ個人道徳ハ哲理ヲ探求セシメ、個人ノ悟ヲ開カシメ、個人
ヲシテ、安立ノ地ヲ得セシメントセリ。一佛教ガ支那ニ入り、隆盛トナリシ理由ノ
トニ比スレバ、個人道徳ノ佛學ニ照リ、アレクサンドロス大王ノ國ガ瓦解セルガ如ク、ソ
クラテース系統ノ哲學モ亦崩レ、希臘ニ於テハ最早自然ト人生トノ兩方面ニ跨
ガリ、複雑極マリナキ現象ノ知識ヲ組成シ、再ビ其ノ深奥ナル根柢ヲ達觀セント
スル者ヲ生ゼザリキ。

哲學ノ入用ヲ感シタルガ、一方ハ國ヲ頼ミニ出來メ故自己ヲ頼マザルヲ得ズ。之ト同時ニ

是レ古神道
自身ノ要求
ナリ

人民カ己ヲ擴張スル程度ニ伴ハズ、新國ハ區域ノミガ大キカハレバ益々國ニ頼ラズ、自己ヲ頼ム
ハ當然ナリ。民ノ精神ノ不釣合ニ國ノ範圍が大トナレバ個人主義トナル。之ニ反シテ日本
ハ如ク没我心強ク愛國心ノ熱烈ナル所ニ在リテハ益々其ノ國ヲ擴大セズンハ民カシテ偏見ニ
陥ラシムル憂在リ。

第二節 「エピクローロス」學派

目次

- 第一款 總說
- 第二款 「カノニック」
- 第三款 物理論
- 第四款 神ノ論
- 第五款 道德論
- 第六款 國家論

第一款 總說

「エピクローロス」Epikuros「サモス」ニ生レ後「アテネ」ニ來リ學派ヲ開ニ從ヘバ、哲學ハ職分ハ思惟ニヨリ個人ヲシテ安樂ナル生活ヲナシ得セシムルニ在リ。自然哲學數學モ亦畢竟此ノ職分ヲ補佐スルモノニ過ギズ。蓋シ在來希臘人ノ意識ノ中心點タリシ宗教ノ多神教。並ビニ國家主義ハ崩潰シテ哲學ガ唯一ノ安立ノ根據トナリシニ拘ハラズ、彼ハ此ノ哲學ニツキテモ在來ノ思辨ニヨリ何等ノ成績ヲ擧ゲ得ザリシヲ見、デ、トモクリトス「ノ自然論ヲ採用シ、ツツ全然人生哲學ニ立チ返リ之ヲ基礎トシテ、迷信ヲ離レタル大知識ハ賢人ヲ養成シ各人ニ知識ヲ與ヘ之ニヨリ各個人人生ノ安樂ヲ得セシメント志シタル者ナリ。サレバ彼ノ理想ハ各人ヲシテ國家社會ニ超越シ國權ハ些少ハ拘束ヲモ受ケズ自由ナル個人生活ヲ營マント欲スルニ在リ。又智ニヨリ迷信ヲ却シ恐怖ナキ生活ヲ味ハシメント欲スルニ在リキ。而シテ此ノ説ガ「ストア」學派ノ説ト並ビテ羅馬人ノ間ニ行ハレタルハ注意ヲ要スル所ナリ。

安樂トイフ字ニ特別ノ意アリ。個人ノ安心立命ノコトニシテ、ヨク仙人ニ似タリ。支那ノ仙人ハ國家社會ヲ輕蔑シテ國家ナキ所ニ在リキ、波羅門教ノ仙者亦然リ。而ルニ此ノ世ノ中ニ仙人ヲ引張り出シタル者ハ釋迦牟尼ナリ。

Nietzsche
Tolstoj 參照

支那ノ所謂
仙人ト波羅
門教ノ仙者
參照

第二款 「カノニク」Kanonik

「エピクローロス」學派ノ論則

吾人ハ必ズ活動スル者ナリ。此ノ活動ハ智ニヨリテ全フシ得ルモノニシテ、活動ヲ全フシ得ルガ故ニ幸福ナルコトヲ得ルモノナリ。此ノ事物及ビ其ノ法則ノ知識ハ知覺ニ基ヅキテ得ラルベキモノナリ、故ニ事物及ビ其ノ法則ノ知識ガ精密確實ナルト否トハ、知覺ノ精密確實ナルト否トニ歸着スベシ。覺醒セル状態ニ於テ存在セル知覺ニハ必ズ之ニ對スル外物アリ、此ノ知覺ハ繰返サルルニ從ヒ記憶トナリ先見「プロレプシス」Prolepsisヲ生ズルニ至ルモノトス。先見ノ明アルコトハ法則ヲ知ルニ大切ナル道具ニシテ、知覺ト記憶ト先見トハ、知識護得ノ要具ナリ。故ニ「エピクローロス」ノ知識論ハ感覺的經驗論ナリ。

「エピクローロス」モ亦感性知覺ヲ眞實トナシ、此ノ眞實ニ對シテ誤リタル原因ヲ結ビ付クルニヨリ妄念ヲ生ズルモノトナス。故ニ知識ノ對象客體ハ外界ニ存スル物自體ニ非ズシテ、歸スル所感覺ニ在リ、故ニ絶對ニ固定セル客體アルコトナシ。是レ「プロータゴラス」ノ立場ト同一ナリ。併シ「エピクローロス」ハ全世界ヲ

懷疑ノ裡ニ葬リ去ラントセズ尙是ニヨリ進ンデ此ノ根據ノ上ニ知識ヲ確定セ
ントセリ。是レ「プロータゴラス」ト異ナル所ナリ。且「エピクテロス」ハ「プロータ
ゴラス」ヨリ進ンデ各感覺ニ通ズル共通又ハ普遍ヲ前提セル知覺ノ操リ返シヲ
認メ、記憶ヲ説キ、先見ニ及ビタルガ故ニ、命題又ハ斷定ノ如キハ又此ノ記憶ノ回
想ニヨリ認メラルモノニ外ナラズシテ、常ニ精密ナル眞實トイフコト能ハズ
ト論ジタリ。要スルニ斷定ハ人間ガ物ニ對シテ惹キ起ス感覺ノ結晶セシメラ
レタル意見ニ外ナラズ。故ニ直チニ眞實ナルニ非ズ。タダ知覺ノ證明シタル
モノニ限り有效ナルコトヲ認メ得ベキハミナリト。

思惟ノ職分ハ現象ノ背後ニ存シ感覺ノミニヨツテハ捉ヘ得ザルモノ「アデア
ヲ知リ得セシムルニ在リ、之ヲ捕ヘ得ザルモノトハ、論理上與ヘラレタルモノニシ
テ、根柢ニ於テハ、假定ナリ、之ヲ得ルニハ歸納法ニヨルハ、外途ナキモノトス。個
個ノ現象ノ知覺ヨリ歸納シテ得タル法則ヲ以テ更ニ種種ノ場合ニ有效ナルヤ
否ヤヲ吟味シツツ更ニ歸納シテ一層高等ノ法則ヲ求ムルニ在リ。此ノ方法ハ
「ジョン、スチウアルト、ミル」John Stuart Millノ研究方法ニヨク似タルモノナリ。

簡單ノ論ナリ、知覺が正シキ故之ヲ歸納シテ得ル論理上ノ要求ナリトセリ。近世ニ至リテ
「エピクテロス」ハ非常ニ大切ノ人間トナレリ。近世ハ古文復興シテ希臘ノ研究ニ入りタルガ
故ニ、此時ニ方リテ先ヅ簡單ノ「エピクテロス」ノ説ナドガヨク解サレ、又之ヲ通シテ「デーモク
トス」ノ説等ヲ知り得タルナリ。

第三款 物理論

彼ノ「カノニク」Kanonicハ物理論ノ爲ニ存在シ、物理論ハ人生觀ノ爲ニ存在ス。
其ノ物理論ハ「デーモクリトス」ノ後ヲ承ケ、唯物理論の原子論ヲ説キ、其ノ全部相對
關係ヨリ説キ起シタルモノナレドモ、「デーモクリトス」ノ上ニ出デザルハ勿論「デ
ーモクリトス」自身ニモ及ブ能ハザルモノトス。

論理ハ現象ノ背後ニ存シ、見聞シ得ベカラザル事實ノ法則ヲ説明シ得セシム
ルモノナリ。「エピクテロス」ハ此ノ論理ト相待チ嚴格ニ因果律ヲ是認シテ、自然
界ノ認識ニ必要ナル根據トナルベキ規則ヲ立テタリ。例ヘバ無ヨリ何等ノモ
ノヲ生ズルコトナシトカ、世界各部分ノ等シキ質ヲ有スルモノナルコト等ナリ。
是等ハ近世ノ自然科學ニ於テ悉皆其ノ歸納法ノ前提トスル所ナリ。是等ハ皆

「デーモクリトス」ノ立テタル所ニ外ナラザレドモ「エピクローロス」ノ學說ガ反ツテ近世自然科學ノ根柢ヲ成シタルモノナリ。「デーモクリトス」ノ學說ガ「エピクローロス」ヲ透シテ近世ニ紹介セラレタルモノナリ。

「エピクローロス」ト「デーモクリトス」ト異ナル所ハ、原子ノ形ニハ其ノ種類ニ於テ定數アルコト、又原子ノ旋轉運動ヨリ説カズシテ、其ノ重サニ基ヅク落ト下ニヨリ世界ノ運動ヲ説明セントスル點之ハ既ニ「デーモクリトス」ノ唱メザル點ニ存ス。而シテ「エピクローロス」ノ「デーモクリトス」以外ニ出デテ特ニ優リタル點ハ、唯人間ハ、自然史ヲ研究セントセシ點ニ在ルノミ。

第四款 神ノ論

神神ハ特ニ爲スコトナシ。故ニ自然ハ唯定法ノママニ變轉スルノミ。サレバ神ノ尊キ所以ハ其ノ自由ニヨリ吾人ニ利ヲ與ヘ又ハ災ヲ爲スノ點ニ在ラズシテ、彼等自身ハ平靜ニシテ圓滿完全ナル點ニ在リ、自ラ最高ノ安キニ在ル所ニ

「ローマ」人ノ神參照

アリ。但シ吾人ガ是等ノ神ヲ敬スルハ、外部ニ存スル神自身ヲ敬スルニ非ズシテ、吾人ノ窮極ノ理想ニ合スル神ノ觀念ヲ敬スルニ外ナラズ。神ガ神トシテ完全圓滿ナルハ其ノ行動ニヨリテ然ルニ非ズ。吾人ノ觀念上、吾人ノ理想トシテ認メラルルガ故ニ神トシテ圓滿ナルノミ。即チ神ハ主觀的知識ニヨリ認メ得ベキノミ。

然レドモ彼等特ニ努力セシ所ハ在來ノ宗教的其ノ他ノ迷信御幣擔ギヲ排斥セントセシコトナリ。迷信ヲ去ルニハ先ヅ事物變遷ノ原因ヲ知ルコトヲ必要トセリ。事物ニハ其ノモノ固有ノ一定ノ法則アリ、之ヲ明ラカニスルモノハ自然ノ學問ニシテ、事物ノ變遷ニ定法アリ原因アルコトヲ詳知シ得タルトキハ、之ニヨリ無益ナル恐怖心配迷信疑念ヲ斷ジ、平靜多幸ナルコトヲ得ベシ。迷信的宗教ハ此ハ正反對ハ效果ヲ生ズルモノナリト。迷信的宗教ハ之ヲ轉ジテ活キ

第五款 道德論

「エピクローロス」ノ道德觀ハ全ク個人的快樂說ナリ、快樂說ハ元「デーモクリトス」

藥ハ用法ニテ毒ナリ
強キ滋養物ガ腐敗スレバ殊更有害トナル

一樣ニセズ。「ツエーノーン」ニ次ギ「クレアンテース」Kleanthes 「アッソス」Asosノ人 330 B.C. 生ル。アリ、強固ノ意思ト實修トヲ以テ聞ユ、其ノ師ノ說ヲ「ヘーラクライトス」ノ形式ニヨリ益、汎神論的ノ自然ニ擴張シタルモノナリ。次ギデ「クリジッポス」Chrisippus 「ソッパ」Sopha、76ノ間ニ生レ、208、1304ノ間ニ没ス。其ノ學派ヲ導キ、銳キ眼光ヲ以テ一大系統ヲ立テ、並ニ此ノ學派ノ永遠ナル學理的基礎ヲ固定セシメタリ。此ノ人微カッセバ所謂「ストア」學派ハ無カリシナラン、恰モ六祖慧能ノ禪宗ニ於ケルガ如シ。其ノ後紀元前二世紀ニ及ビ「ロードス」Rhodos 出ノ「パネテウス」(「パナイテイオス」) Panätius 185-110ノ頃ノ人。及ビ其ノ高弟「アパメア」Apanaia ノ「ポシドニウス」Posidonius ニヨリ、或ハ緩和セラレ、或ハ折衷セラレテ、確實ニ羅馬ニ移植セラレ、希臘哲學派中最モ大ナル影響ヲ羅馬ノ人心並ニ法律ニ與ヘタリ。小「スキピオ、アフリカーヌス」Scipio Africanus 147「ロン」シ人。及ビ「レーリウス」Laelius 「子供」方「一四〇」ガ希臘哲學ニ入りシハ「パネテウス」ノ力ニシテ「パネテウス」ハ又「ポリビウス」Polybius ト交通シ彼ニ其ノ思想ヲ傳ヘ著名ノ法律學者「クインツス、ムーテウス、スケークヰラ」Q. Mutius, Scaevola Ciceroノ法ニ教授セリ、而シテ「キケロ」Cicero 及ビ「ポンペイウス」Pompeius ノ如キハ「ロードス」

六祖慧能

ニ至リ「ポシドニウス」ノ門下ニ在リテ「ストア」ノ學風ニヨリ鍛ヘラレタル者ナリ。
 「セネカ」Annius Seneca 4 B.C.-65「ネ」帝ノ師。」「エピクテートゥス」Epikureios 紀元一世「マルクス、アウレリウス」Marcus Aurelius 131-180「ガイウ」ノ如キモ皆羅馬ニ於ケル「ストア」學徒トシテ著名ナル者ナリ。

「セネカ」ハ有名ナル「ストア」學者ナリ。「エピクテートゥス」ハ奴隸ヨリ起リテ羅馬ニ尊重セラレタル人ナリ、マルクス、アウレリウスハ皇帝ナリ。故ニ「ストア」學派ハ奴隸ヨリ皇帝マテヲ網羅セリ。

「ストア」學派ノ哲理ノ組成ハ、少クモ「アリストテレース」以後次期ノ宗教時代以前ニ於ケル最モ大ナルモノタリシノミナラズ、現今一般ニ認ムルヨリモ遙カニ、雄大ナル影響ヲ世界ノ實際ノ歴史ニ與ヘタルモノニシテ、法學ハ思潮ニ於テハ最大ナルモノハ、一ニ數フベキモノトス。「ストア」ハ羅馬帝國ノ發展、其ノ制度及ビ羅馬法ノ莊嚴ナル結晶ヲナサシメ、羅馬人氣質ヲ確立セシメタリ。是等ノ事實並ビニ其ノ生産物ハ爾來現今ニ至ルマデ、大規模ニ直接間接ニ世界ヲ支配シツルアルモノニシテ、現今ノ日本モ亦其ノ例外ニハ非ザルナリ。希臘哲學ニ對抗シテ起リタル基督教、スラ、已ニ「ストア」思想ノ下ニ立チタル護教家 又ハ辨證學者 Apologeten

古神道ハ當
初ヨリ其ノ
荒魂ノ信仰
ヲ有ス

並ビニ教父 *patres ecclesiae* ニヨリテ發達セシメラレタルモノナリ。

立憲國ノ根
抵ハ唯個人
ノ自由主張
統制ノ非ズ
立憲國ニ
確

耶蘇教ノ強キ所ト「ストア」ノ強キ所トヨク接觸セリ。「ストア」ハ理窟實習ト離レズ、理窟計リテナク人格ノ完成ヲ本ニシテ理窟ヲ説ケリ。其ノ前提トシテ知識論ヲ置キ之ニ根據シテ理窟ヲ説ク故學理トシテハ折衷的ニシテ一貫セザルモ中心ノ要求ヨリ出テ「ストア」ハ精神ハ雄大ニシテ、法律學上缺クベカラザルモノナリ。理窟ノ上ニテハ奇麗ナラザル故科學上ハ骨董品ノ如ク見ユルガ、其ノ精神ハ今日アルヲ致シタルモノニシテ、又未來トテ益々必要ナリ。少クトモ羅馬法ハ「ストア」ノ精神ノ下ニ發達セリ、殊ニ共通的ノ法理ヲ有スル今日ノ羅馬法ハ「ストア」ヨリ來リシモノナリ。獨逸帝國ノ民法ハ、羅馬法ナクバ無ク、殊ニ公法ノ領域羅馬ノ制度ハ「ストア」ノ精神ヨリ出來セリ、其ノ影響ヨリ統括制ノ具備セル「ローマ」大教會ガ發達シ、之ハ今日ノ立憲國ニ大ナル影響ヲ與ヘタリ。從ツテ公法法理ノ形式ハ「ストア」ノ精神ニヨリテ説カレ得ルモノ多シ。

「ストア」哲學ハ實際ノ修養ト不可分ニ唱導セラレタルモノニシテ、二祖クレア
ンテースノ如キハ其ノ行ヲ以テ鳴レリ。禪宗ノ二祖慧可ニ似タリ。其ノ基礎觀念トスル所
ハ自然 *Physis (physis)* ニ在リ。世界ハ神ハ有スル目的ハ自然ハ展開ニ外ナラズ、自
然ハ自ら生成力ヲ有シ、夫自身ガ目的ヲ有スル一神ニ外ナラズ。萬物ヲ生ゼシ
ムル原因ハ萬物以外ニ超越シテ存在スルモノニ非ズ、神ハ萬物ノ內在的原因ニ

二祖慧可

章陀哲學

シテ、又萬物ハ一神以外ニ存在セズ。「スピノザ」ガ自然界ヲ *natura naturata* トシ、其
ノ根本タル神ヲ *natura naturans* ト名ヅケ其ノ合一ヲ説キタルコト、及ビ印度韋
陀哲學並ビニ佛教汎神論參照)

natura naturata ハ *natura naturans* 以外ニナク、其ノ内部ニ存シ範圍異ナルナシ。「ストア」ハ東洋
ノ思想ニ大ニ似タリ、佛教計リナラズ儒教道教日本武士道ニ似タル所多シ。

基督教ニ傳
ス

「ストア」ハ此ノ自然界ハ、自然ニシテ又一心ナリ。心靈ナリ。此ハ神ハ心靈「プ
ノイマ」 *pneuma (pneuma)* 基督教ノ採用ハ物質ニ伴フテ存在シ得ルハミ。「イオニア」
ノ自然哲學ノ物活論ハ「ストア」ニ至リテ復興セラレタルモノトイフベシ。「ミレ
ートス」學派ヨリ「ヘーラクライトス」ニ至ル間參照個人モ亦此ノ一神ノ顯現ニ
シテ、其ノ身體ト共ニ其ノ精神ヲ有シ、其ノ精神ハ即チ神ノ心靈ノ發現ナリ。故
ニ人事モ即チ根柢ニ於テハ神事ニシテ、道德ハ又各自ノ自然即チ本性ノ發揚自
身ニ外ナラズ。斯クシテ「ストア」ノ要部タル道德政治論ハ、皆 *natura naturans* ノ
基礎ノ上ニ統一セラレテ存在ス。「ストア」ノ此ノ神ノ論ハ「フクロン」[Philon 新「フ
デトーン」學派及ビ教父等ニ影響ヲ與ヘタリ。

ノ知識論ニヨレバ、知覺ガ知識ノ根源ニシテ、諸種ノ知覺ヨリ歸納シテ、個個特定ノ通性ヲ知リ得レドモ、通性ハ斯カルモノトシテ眞ニ實在スルモノニ非ズ、唯吾人ノ思惟ニ於テ存スルモノノミ。其ノ「プラトーン」ト異ナルコト、並ビニ大切ナル中世ノ唯名論(名目論)トモ異ナリ、且其ノ興起ノ原因トナリタルコトニ注意スベシ。

第一 總ベテノ觀念及ビ概念ハ皆經驗ニ基ヅキテ得ラレタルモノナリ。生レナガラノ精神ハ白紙ノ如シ、唯之ニ外物ヲ寫出スル知覺ノ働キヲ待チテ、觀念ヲ生ズルモノナリ。故ニ認識論ニ就キテ、吾人ノ知識ハ夫自身獨立シテ眞ナルコト能ハズ、僅カニ知覺ニヨリ經驗ニヨリ證明セラルル範圍ニ於テノミ是認セラレ得ルニ止マル。此ノ點ハ穩カナル懷疑論ト全然一致スルモノナリ。故ニ又經驗論ニシテ、知識ノ絕對ナラザル所ガ「ストア」ノ道徳論實行生活ヲ主トスル所以ナリ。

第二 觀念ハ尙知識ニ非ズ。觀念ガ知識タルニハ尙判斷ノ加ハルヲ要シ、其ハ判斷ガ即チ知識タルモノナリ。「ストア」學派ノ觀念ノ意義ハ甚ダ廣ク、一切ヲ包容シ、コレ認識論ニ革命ヲ與ヘタル「ロック」Lockeノ立場ト同様ナリ。此

ノ判斷ハ理性ニヨリテ爲サルモノナルガ、吾人ノ理性ハ唯思惟ニヨリテ材料ヲ結合スル働キヲナスモノニシテ、夫自身ガ實有ニ對スル何等ノ材料實質ヲ含有スルモノニ非ズ。但シ此ノ理性トテ經驗ヨリ獨立シテ、其ノ外部ニ存在スル力ニ非ズシテ、統括的經驗中ニ内在シツツ各經驗ヲ細工スルノ働キヲナスモノニ外ナラズ。理性ハ經驗ニヨリ與ヘラレタル觀念ノ内容ヲ離合シテ、判斷ヲ下スモノニシテ、學問上認メラルル判斷ハ有意作用タルヲ失ハズ。法學上ノ理法皆思ヒヨリ統括セラレテ存在シ「カント」ノ自發的作用(自發的作用参照)。

恰モ赤子が感覺即チ感性知覺ヲ有スルガ之ヲ繰リ返スモ知識ヲ有ストイヒ難シ、判斷ガ加ハリテ知識トナルトハ「ストア」ガ明ラカニセシ所ナリ、感覺ガ元ナレドモ夫自身知識ニ非ズ、判斷トシテ組成セザルベカラズ之ハ理性ニヨル。理性ハ組成ノ働キアルノミ、理性ハ材料ニ非ズ、糲メルコトガ理性ノミト解セリ。故ニ感性ガ元ナレバ感覺論ナリ。然シ理性ノミガ材料ト離レテ存スルモノニ非ズ。即チ以外ニ獨立シテ存在セズ、其ノ内ニ存スルモノナリ。希臘ノ末葉ハ知識ノミナラズ、意思信仰ヲモ認ムルノ時期ニ達シ、基督ノ信仰モ「ストア」ノ大影響ヲ受ケタルモノナリ。

第三 吾人ハ神ノ發現者ナリ。故ニ各自ハ尙神ヲ本性トナシ、各ノ内部ニ存スル認識ノ能力ニ信賴スルコトヲ得ベシ。吾人ノ覺信ノ眞正ナル所以モ歸ス、

有意作用

ル所復此ニ存ス。是ニ由ツテ未ダ經驗セザルニ當リテモ、先見シ得ルコトハ、特ニ天才ニ就テ見得ル所ナリ。「ゴエーテ」ノ天才ノ先見参照例ヘバ吾人ガ人心人格ノ價值ヲ感ジ神ヲ信ズルガ如キハ、學問上ノ證明ニ先ダテ各國民ガ絕對ニ認メザルヲ得ザル所ニ屬ス。

經驗ノ出來メ前ニ先見ノ明アルガ如キハ神ノ發現者ナレバナリ。天才計リテナク一體神ガ存在スルトカ、人格ノ價值ノアルコトトカイフコトガ、先見ノ明ヨリ出ヅルモノナリ。

第四 吾人ハ更ニ是等ノ先見ヨリ進ミ、學問ニヨリ是等ヲ根據アル知識ト爲スモノナリ。其ノ方法ハ、經驗並ビニ歸納ニ在リ。但シ是等ノ方法ニヨリ論理ノ形式ヲ藉リテ作ラレタル判斷ハ、夫自身決シテ絕對ニ確實ナル知識ニ非ズシテ、唯知識ノ結合ニ外ナラズ。而シテ斯ノ如キハ賢愚ヲ擇バズ何人ニツキテモ眞實ナルヲ以テ、連結セラレタル知識ハ、判斷者ノ意思ニヨリテ、左右セラレ。其ハ有スル世界觀ニヨリテ異ナリ。其ノ人格ノ影響ヲ脱シ得ザルモノトス。從ツテ思惟ノ結果ニツキテモ、吾人ハ其ノ責任ヲ免ルベキモノニ非ズ。是レ眞實ニ知識ガ人格自身ニ及ブ能ハザル根柢ヲナシ、「ストア」ガ先ヅ人格ノ完成ヲ求人

羅馬法責任ノ擴張

格ノ神性ヲ發揚スルコトニ重キヲ置ク所以ニシテ、又知識以外ニ認定ヲ是認セシムルニ至ル伏線ナリ。

「ストア」人ハ神ノ發現者故、知覺ヲ高メテ知識トシ、更ニ進メテ高等ノ知識トスルハ眞ナリトセリ。コレダケニテハ「ストア」ハ知識ノ絕對性ヲ是認スル様ナレドモ然ラズ。知識ハ虛ニモ非ズ又絕對ニ眞ニモ非ズ、各人ノ知識ハ盡ク合一セズ。結び付ケテオアル人々ニテ異ナル。トドノツマリ人格ニテ異ナル。眞實工ノ描ク繪ハ其ノ人格ニテ定マルガ如シ。學說ノ如キモ亦然リ。歸スル所人格ニ在リト「ストア」ノ明言ナリ。故ニ曰ク人間ハ其ノ行動ニツキテ責任ヲ負フベシ、又考フルコトニツキテモ責任アリト。コノ考ハ「ストア」マテハ未ダ開カザリシ所ナリキ。行動ニ責アルハ勿論考ヘ方ニマテ責任アルト擴張メカ。斯ノ如ク善キ論旨ハ澤山アレドモ其ノ連絡及ビ統括ニツキテハ後世ノ任務トイフベシ。

第三款 物理論(自然論)

「ストア」ハ事物ノ自然ヲ基礎トシテ出發スルノミニシテ、別ニ實在原理論ヲ試ミズ、一躍シテ自然論ヲ討究セリ。今之ヲ自然ノ性質、世界ノ成立、人間ノ地位ノ三ニ別テテ説明セン。

第一 自然ノ性質。

的存在ヲナシ、其ノ目的ヲ維持スルモノハ「プノイマ」pneuma (πνεῦμα) 即チ心靈ナリ。「プノイマ」ハ猶物質ニシテ、且其ノ「ヘーラクライトス」ノ所謂「ロゴス」即チ理體ナリ、大道ナリ、常道ナリ、大法ナリ、之ニヨリテ萬物ハ特ニ定マリタル意義ヲ有シ、又其ノ目的ニ適ヒタル存在ヲナシ、其ノ秩序ヲ有シ、統括制ヲナシツツアルモノナリ。宇宙全體ノ中ニ於テ此ノ理體「ロゴス」ヨリ獨立且孤立シ、之ニ漏レタルモノアルコトナシ。此ノ汎理論ガ羅馬法ニ及ボシタル影響ハ實ニ根本的ナルモノナリ。

寧ロ「ソークラテース」ノ實際的ノ性格ニ動カサレタル「ツエーノン」ノ立場ハ實際ノ修養ヲ中心トセシガ故ニ、其ノ端末ノ自然論ハ種種ノモノヲ混入セリ、東西兩洋思潮ノ調和ノ出來ルコトヲ明ラカニセルモノナリ。心物同一トセバ物活論トナル、異ナルモノトセバ形ノ方ハ唯物論ニシテ他ハ汎心論汎神論汎理論トナル。「プノイマ」ハ單純ノモノデナク、物質ヨリイハズシテ主觀ヨリイヘルガ、物質ト離レヌモノナリ。「ヒッポクラテース」Hippokrates ノイヒシ「プノイマ」ヲ取リ來リタルモノナリ。汎神論汎心論ハ目的ヲ有スルモノニテ、唯物論ハ機械的ノモノナリ。「ストア」ハ此ノ機械觀ヲ斥ケタルガ故、唯物論ヲ採リツツアリテモ尙「ランゲー」ガイフ如ク特別ノモノナリ。故ニ宇宙ノ根柢ハ大道ナリトセシハ老莊ト同一ナリ。孫子モ五事ヲイヘリ。一日道二曰天三曰地四曰將五曰法ト。法トハ認定法ナリ。最高ノモノヲ道トセリ。此ノ思想ハ「ストア」ニモアリテ羅馬法ニ大影響ヲ及ボシタリ。汎神論ニ基ヅキテオル故ニ勢力アリ。

老子ノ道
孫子ノ五事
ノ第一

目的論ノ方モ汎理論ニ基ヅキテオル故意味アリ。

三 此ノ原理ニ從ヒ自然界ヲ觀察スレバ、其ノ一部分タル萬物ノ目的ハ其ノ必至並ビニ運命ト同一ナリ。因果關係ハ例外ナク各部分ヲ結合ス、意思ハ力ヲ有スル人間スラ其ノ必至ニ漏ルルモノニ非ズ。人間ノ意思ハ此ノ大ナル自然必至ノ結晶ノミ、神ノ豫定セル力ノ顯現セルノミ。即チ部分ハ全部ニ對シテ獨立スレドモ、尙全然全部ニヨリ定命セラレコトヲイフ。此ノ思想ハ羅馬法制ノ確實ナル結晶ニ大ナル效力ヲ與ヘタルモノニシテ、又其ノ精神ハ恰モ「スピノザ」ガ此ノ宇宙ニハ必至ト同一ナル自由以外ニ夫自身絕對ナル自由ナシトセルト同様ナリ。實ニ客觀的ニ見レバ自由ハ即チ因果關係ノ内容ヲナシ、之ヲ成立セシメツツアルモノニ外ナラズシテ、統括的ノ因果ノミガ現ハレ、被統括的ノ自由ガ背後ニ隠ルルモノトナス。此ノ點ニツキテハ「ストア」ニモ「スピノザ」ニモ賛成シ得ベキナリ。然レドモ主觀ヲ中心トシテ見レバ因果ハ却ツテ自由ニ利用セラレ、之ヲ成立シツツアルモノナレバ、統括的ノ自由ノミ現ハレ、被統括的ノ因果關係ハ背後ニ隠ルルモノナリ。因果關係ハ知識ハ最小限度ノ要求ハ一ニシ

羅馬法

テ自由ハ又意思ノ最小限度ノ要求ハ一ナリ。「ストア」ガ其ノ道德論ニ至リ突然意思ノ自由ヲ認メ其ノ必然説ト調和セサルノ觀アルモ亦故ナキニ非ズ。

「ストア」學派ハ「ツエーノン」ニヨリテ完成セラレズ其ノ大成者ハ寧ロ「クリジッポス」ニ在リ。雙方調和シテ意思ノ自由ヲ下ゲテ必然説ト調和セシモノアルガ一部ニシテ大體ハ調和セズ。部分主觀ノ立場トシテ見レバ自由ナレドモ全部ヨリ見レバ部分ハ不自由ナリ。絶對ニ全部ニヨリ制限サレテ居ルトハ客觀的ノ方カラ見ルガ故ナリ。客觀的ニハ部分ハ不自由ナレドモ主觀的ニ見ルトキハ自由ナリ。「ストア」ハ客觀的ニ見テ自然論ヲ立テシ故客觀的ニ定命セラルトセシ所以ナリ。論旨ハ合セズモ元來調和ノ出來ルモノナリ主觀ガ虚ニテ客觀ガ實ナリトイフコトナシ、双方眞ナリ。主觀アルヲ以テ客觀アリ、内部アルヲ以テ外部アリ、ダダ其ノ方面見方チ異ニスルノミ。故ニ客觀ニ重キヲ置キテ考フル知識ニテハ必然チ前提シ、宇宙ノ規則正シキコトヲ前提スル所以ナリ。意思ノ方ハ主觀的ノモノ故、斯ク斯クノ事ヲ爲シテ見セルトイフ方ガ重クシテ此ノ時ハ自由ナリ。

四 理法ハ心靈ト合シテ存在ス。世界ノ各部分ニ顯現セラレツツアル心靈並ビニ理法ハ悉皆ノ根柢ノ理法ニ含有セラレツツアルモノナリ。宇宙ノ根源タル一神ガ心靈ヲ有スルコトハ之ヲ認メザルベカラズ。此ノ神即チ natura naturans ハ材料外ニ在リテ、之ニヨリ萬物ヲ造ルモノニ非ズ。能動ト所動トハ本

一ツノ圓ヲ觀ルモ分ル

基督教ノ心靈參照

羅馬法

仁義ノ説ニ移ル基督教トノ接近

來合ハス。神モ世界モ同一ナリ。假リニ之ヲ精神トシテ見レバ神ニシテ、神ノ肉體トシテ見レバ世界ナリ。萬物ハ皆此ノ神ノ顯現ニシテ、其ノ内部ニ自衛力ヲ備ヘ其ノ性質ヲ保持スルカヲ有ス。羅馬法ノ大切ナル此ハ力ハ即チ理性タルト共ニ意思ノ力ナリ。宇宙ニハ到處何物ニモ理アリ識アリ、意思アリ、然ノミナラズ其ノ各部分ニハ普遍的同情アリテ、宇宙全部ノ共同關係ヲ保持ス。此ノ惻隱ノ心ハ即チ各部分ノ本來一體タル所以ヲ發揚セシムルモノナリ。「ストア」ニ至リ正義公平ヲ中心トセシ、既往ノ世界觀ハ仁並ビニ義ヲ中心トセル個人的人世觀ニ變遷セリ。但シ特ニ仁愛ヲ主トスルハ基督教ヲ待ツモノナリ。此ニ至リテ「ストア」哲學ハ寧ロ發現關係ハ精神ヲ中心トシテ、其ノ道德觀ヲ立ツベキ順序タルコトヲ想像シ得ベキナリ。「ストア」ノ思想並ニ發現關係ニ分析シテニヨリテ試ミラレタルコトナシ。

「ストア」ハ尙前記ノ外ニ汎論アリ。又尙汎論トモイフベキモノアリ。仁トイヘバイヒ過ギルガ同情惻隱ノ心チ起シタリ、之ガ發達ノ精神ナリトセリ。色色ハモハチ含メドモ十分ニ統一ガ出來ザリシ故ニ却テ折衷ナリトテ惡シクイハレタリ。

第二 世界ノ成立。

「ストア」ノ世界成立ノ説ハ前述ノ自然ノ性質論ヲ根據トシテ「ヘーラクライトス」ノ説ヲ襲用セリ。即チ「ストア」ハ「プノイマ」宇宙神靈ヲ物質化セシメ、之ヲ大火ト同様ニ見タリ。大火ヨリ大氣ヲ生ジ、次ギデ大水、次ギデ大地ヲ生ジ、還滅流轉ニヨリテ世界ノ變轉循環ヲナサシム。サレバ宇宙ノ本體ハ「アリストテレース」ノ本體ノ形式ノ如ク、凝然不動ナルモノニ非ズ。隨緣ノ「プノイマ」即チ心靈ナリ。大火ナリト。

第三 人間ノ地位。

人間ハ元大火即チ宇宙心靈、又ハ一神ノ一部分ノ顯現ニシテ、其ノ本性ハ子孫孫ニ傳ハリツツ在ルモノナリ。血液循環ノ根本タル心臟ハ、殊ニ理性ノ存スル中心ナリ。此ノ人間ハ一神ノ發現ニシテ萬物ト共ニ一神ト對立スル、其ハ一部分ニ外ナラザルガ故ニ、必然ニヨリテ支配セラレ、理體並ビニ其ノ一方面タル物質ノ範圍外ニ出ヅルコト能ハズ、之ニヨリ定命セラレ、ツツアルモノナリト。斯ク「ストア」ハ人間ガ理法ノ支配ノ下ニ立チ、又因果ノ範圍外ニ出デズトイフモ、

同時ニ此ハ因果ノ範圍外ニ出デザルハ、理體ハ目的アル働キニ外ナラズト見ルヲ以テ、理體ノ發現タル人間ハ因果律ニ從ヒ單純ナル機械的運動ヲ爲スモノニ非ザルコトハ明ラカナリ。

人間ノ靈魂ハ死後モ尙其ノ全部又ハ一部ハ世界ニ存在シ、世界ノ循環ト共ニ終ニ大火ニ還滅ストノ説ヲナス者アリ。「クリジッポス」ノ如キハ賢人ノ精神ノミ不滅ナレドモ、其ノ他ノ精神ハ滅ヲ免レズト説キタルガ如シ。(二ヘーラクライトス] Heraclitos [「ゲーテ」 Goethe 參照)

第四款 道德論及ビ國家論

道德並ビニ國家論ノ根本義ハ自然ニ遵ツテ生活スルニ在リ。此ノ自然ハ理體即チ大法ニシテ、萬物ノ準據スベキ大道ナリ。此ノ自然ニ遵フコトガ正ニシテ、其ノ徳ハ善ナリ。自然ニ違フコトガ不正ニシテ且惡徳ナリ。然ラバ自然ニ遵フトハ何ゾ。

自然ノ聲ハ東洋ニテハ親シキ聲ナリ、日本支那及ビ印度ニテハ自然ヲ最モ尊キモノトスル

精神が繼續セリ。西洋ニテモ希臘時代ニハ往往出アシモ、中世ニ至リテハ自然ハ惡イコトトセリ。故ニ天然及ビ自然ノ景色ヲ模寫彫刻スルガ如キハ西洋ニテハ新シキコトニ屬ス。

第一 自然ハ目的ヲ有ス。

自然ノ發現ニヨリテ存在スル萬物ハ皆獨立シツツ尙此ハ目的ヲ分擔シテ遂行スベキモノトシ先ヅ少クモ自己ノ存在ヲ全フスベキモノトス。宇宙ノ大目的ノ遂行ヲ分擔スル程度範圍ノ如何ニ從ヒ人ニ價值ノ差等アリ又之ニ利用セラルルノ程度範圍ニヨリ外物ニモ價值ノ等級アリ。存在スル事物ハ總ベテ自存スベキ法則ニヨリ支配セラルルハ汎神論ニ根據シテ始メテ健全ナルヲ得又是認セラルベキ思想ニシテ汎神論者「スピノザ」モ亦此ノ自存スベキ法則ヲ主張セリ。宇宙ノ存在ニ歸一セル根據。而シテ「ストア」ガ生キトシ生ケルモノノ少クモ本能的ニ自ラ自己ノ存在並ビニ幸福ヲ計ルコトヲ是認セシハ羅馬法ト結合シ種種ノ形ニ於テ永ク歐洲ヲ支配シ近世ニ於テ益發展シツツアル思想ナリ。

羅馬法

第二 各人ハ其ノ自存目的ヲ有ス。

歐洲ノ個人主義ノ中ニテ健全ノ方ガ「ストア」ニ於テ確立セラレタルモノナリ。自己ヲ濟度スルハ本ニシテ自分ノ義務ヲ完フシ人格ノ完成ガ自ラ己ヲ救フ所以ナリトセリ。

故ニストアノ賢人
アハ大ニ聖人ト
ニ近シ
老莊ノ眞人
參照

自存スベキ
目的

各人ノ自存目的ハ實ハ宇宙ノ目的ノ顯現ニシテ又神聖ナルモノナリ。人間ニ對シテ有スル事物ノ價值ヲ定ムル標準モ亦人間ノ自存目的ニ存ス。然レドモ自存トハ單純ノ意味ヲ有セズ自存トハ只空シクオメオメト存在スルコトヲイフモノニ非ズ確實ナル存在ヲナスヲイフ。確實ナル存在ヲナストハ己ヲ通ジテ其ノ根源タル自然ノ目的ヲ存分ニ發揚スルヲイフ。理法ヲ實現セシメ大道ニ遵フテ行動スルヲイフ。人間ハ此ノ自然此ノ大道ノ顯現者ナリ。サレバ人間各個人トシテハ各人間ノ性ニ率ヒ各個人ノ性ニ悖ラズ益之ヲ發揚スルコトニシテ又各自ノ理法ニ違フコトナクシテ生活スルヲ意味ス。此ノ理性ハ單純ニ知識又ハ思惟ノ根源ノミニ非ズシテ寧ロ目的並ビニ生活活動ノ淵源ナリ。故ニ人間ノ目的ハ智的生活ニ在ラズシテ寧ロ意思生活ニ在リ人格ノ完成ニ在リ。知識ハ是等ノ生活ノ初メニシテ只其ノ手段タルノミニ宇宙ノ大道ニ隨フテ行動シ得ル人格ヲ成就スルコトガ最大ノ幸福ヲ伴ハシムル所以ニシテ又賢人ノ理想トスル所ナリ。而シテ人格完成ニツキ自然ガ吾人ニ對シテ如何ニ働キカクルカハ毫モ問フベキ所ニ非ズタダ大道ニ隨ヒ生活シツツ天命ヲ甘受スベ

憂ヲ以テ憂
トナサズ
樂シミヲ以
テ樂サズ
眞樂ナリ
日本流ナリ
中庸ノ性
宗ノ性

キノミ。吾人ハ其ノ自由ニ其ノ天命ニ抗スルコトナク其ノ自由ニ人格ノ完成ヲ欲スベキモノ之ヲ實行スベキモノナリ。是レ中庸ニ天命之謂性率性之謂道脩道之謂教道也不可須臾離也可離非道也ト言ヘルニ合スルモノニシテ又禪宗ノ直指人心見性成佛ノ精神ナリ。(佛教哲理禪宗殊ニ其ノ修養及ビ餘論參照)

「ストア」禪宗ノ如ク不立文字トハイハズ知識論モ自然論モアル故異ナレドモ其ノ精神ハ同一ナリ。知識論自然論ハ付ケ足シニシテ修養ガ主ナリ。此ノ方面ヨリ見レバ禪宗ノ不立文字ニ似タリ。「ストア」折衷ハ到ラヌ點アレドモ中庸ヲ行クが大途ナリトセバ中庸ノ精神ニ似タリ。中庸ヲ折衷ト間違フ人多キガ「ストア」ハ中庸ニ近ヅキツアルモノナリ。性ニ率ヒテナス人格ノ完成ニ在レバナリ。

「ストア」ニ從ヘバ吾人ハ現ニ自然ニ歸一セルモノニシテ自然並ビニ其ノ理法ハ各人ヲ通ジテ現ハレツツアルガ故ニ常ニ必然ノ範圍外ニ非ズ。現在ノ併シ之ト同時ニ各人ハ自然ト相對立シ自己ハ意思ヲ鍛鍊シ自己ハ人格ヲ完成スベキ義務ヲ有ス。當然ノ之ニ應ジテ各人ハ一方ニハ天命ノママ之ヲ甘受シ之ヲ發揚スベク此ノ範圍ヲ越ユルヲ許サレドモ他方ニハ各人ノ努力ニヨリテ外界ヲ利用シ得ベク外界ノ情況ハ各人ノ意思ニヨリテ決セラルベク徒ニ

宇宙表現者
ナルガ故ニ
其ノ自由ヲ
表現シ得ザ
ルベカラズ
「ナボレオ
ン」ハ「運命
トヤ」ハ「運
命ヲ作ル」
ト曰ヘリ

羅馬人ハ其
ノ自由ニ設
定シタル法
律制度ニ依
リテ世界ノ
統一ヲ完成
セリ

各人ヲ害スルコト能ハズ。サレバ自然論ニ於テ唱ヘタル「ストア」ノ必然說ハ道德論ニ至リテ嚴格ニ守ラルルコトナク甚ダシク意思ノ自由ニ重キヲ置クニ至リタルヲ知ルベシ。蓋シ各人ハ自然ノ表現者ナルガ故ニ又各自然ノ第一事實ヲ表現スルモノナラザルベカラズ。故ニ「ストア」ヨリ一步ヲ進メ理法ト共ニ宇宙ノ第一事實ヲ説キ發現關係ト表現關係トヲ明ラカニスルトキハ各人ガ自由ニ其ノ運命ヲ作り得ル所以ヲ解スルニ難カラザルベシ。

元來吾人ハ宇宙ノ表現者ニシテ又宇宙ノ第一事實ヲ表現スル者ナリ。從ツテ運命ハ當然來テズ自分ノ都合ノヨキモノヲ引立ツルモノナリ。「ストア」ハ道德論ニ於テ徒ニ必然ノ中ニノミ居ラズ其ノ範圍ヲ脱シテオレリ。併シ各人ハ必然的ニ天命ヲ甘受スベキモノナリトセリ。喜ビモ悲シミモ間違ナリ。事が定マリ居ル故ソレニテヨイカ否決シテ然ラズ。努力シテ人格ヲ完成スベシ努力次第ニテ如何様ニモナルト。此ノ點ハ定命論ノ中ニノミ居ラザル證據ナリ。現ニ「ストア」ノミヲ採用セシ羅馬ニ於テハ定命說ヲ打破リ意思自由ヲ眞先キニ立テテ大事業ヲ爲シタリ。客觀ノミニ重キヲ置クハ宜シカラズ。一體宇宙ガ主觀的ヲ離レテ常ニ客觀的ノモノトノミ思フガ間違ナリ一方ノミヲ見ルハ不可ナリ。禪宗ハ常ニ曰ク何故ニ外界計リヲ見ルカ外界ハ變化ニ應ジテフアラフラ變ツテシマウソ動カヌ内心ヨリシテ外部ヲ見ザルベカラズト「ストア」モ畢竟之ニ歸ス。

第三 人格ノ完成。

自然ニ遵フガ善ナレドモ、自然ニ遵フハ自己ノ人格ノ完成ノ義務ヲ果スライ
 フ。故ニ人格完成スレバ其ノ行フ所ハ皆正義ニシテ、一トシテ徳ナラザルモノ
 ナシ。人格完成セザレバ、假令其ノ爲ス所正義ニ類スルモ眞ニ正義トイフベカ
 ラズ、又德行ト稱スベカラズ。總ベテノ惑並ビニ有ラユル不徳ハ頓斷シ得ベキ
 ノミニシテ頓斷即チ人格ノ完成ナリ。此ノ故ニ世上ニハ善人ト惡人トノ二種
 アルノミニシテ又賢人愚人ノ外ニ其ノ中間ノ者ノ存在ヲ容レズ、然レドモ此
 ノ初期ノ説ハ「ストア」學説ノ羅馬ニ入ルト共ニ緩和セラレ、萬惑頓斷ノ説ハ變ジ
 テ漸斷ノ説トナリ、終ニ徳ノ漸修ヲ認ムルコトトナリ、羅馬法制ノ形式ノ如ク、徳
 及ビ人格ノ統括階級ヲ認ムルニ至レリ。

時計ハ器械が揃ハ、ホバ出來セズ、心棒一本無クモ不完全ナリ。人間モ同シ、但シ片腕ナキ人
 ハ在レドモ人格ノ不完全ナルニ非ズ。半分ノ人格トイフコトナシ。アル以上ハ人格ハ一ツ
 ナリ。有ルカ無キカノ一ツニシテ中間ノモノナシ。人格ノ完成セシ人間ハ何チ爲スモ善ナ
 リ。善キ事モ惡シキ事モ爲ス人ハ善人ニ非ズ、何チ爲スモヨイコトノミニ非ザレバ善人賢人
 ニ非ズ。混ジテ居ル間ハ善人ニ非ズ、一ツニテモ間違アレバ不可ナリ。

羅馬法

第四 悟及ビ權限。

人格並ビニ悟ハ頓斷ニヨリテ成サルルノミナラズ、次第ニ寛大トナリ漸斷ニ
 ヨリテ上達セシメラレ得ベシトセラルルニ至レリ。之ト共ニ修養ノ手段モ、初
 メハ斷慾ニ在リトセラレシガ、羅馬ニ入リテハ其ノ社會生活ニ影響セラレテ寡
 慾ナルヲ以テ足レリトセラレ、謙讓ヲ以テ充分ナリトセラレタリ。「ストア」ノ初
 期ニハ夫自身善ニモ惡ニモアラザル無記ノモノ、例ヘバ富貴貧賤地位毀譽褒貶
 健康病氣快樂苦痛生死ノ如キスラ、之ヲ以テ心ヲ動カスノ害物ト認メ、是等ニヨ
 リ心ヲ動カサルルヲ不徳ノ原因ト見做シ、惡ノ因ヲ生ズル所トナシ、超然トシテ
 是等ノ外ニ立チ其ノ繫縛ヲ脱スベキコトヲ要求セリ。

羅馬ノ「ストア」學徒ハ、惡ハ避クベク善ハ行フベキモノトスルモ、無記ノモノニ
 ツキテハ適度ニ之ヲ求メ、又ハ避クルコトヲ妨グズトセリ。併シ「ストア」ノ特色
 ハ、權勢ヲ始メ外界ノ欲求ハ勉メテ之ヲ輕視シ、外部ニ依頼セズシテ自己ノ内部
 ハ本性ニ從ハントスルニ在リ。自己ノ理性ニヨリ其ノ智ヲ明ラカニシ其ノ意
 思ヲ鍛鍊シ得タランニハ、外力ハ如何ニシテモ是等ヲ奪フコト能ハザルベシ。

支那ニテハ
 終リテハ
 全身スルコ
 全フスルコ
 トテ無上ノ
 賞識スベキ
 コトトセリ

各人其ノ奪ハルルコトナキ志ヲ立テ得、外界ノ偶然ニ失ハレザルコトヲ得ルハ、悟ノ極致ニシテ又各人ノ自由自在ナル極所ナリトス。若シ自然ノ顯現者タルベキ根據ヲ失フ場合アリ、理性ノ要求ニ反シ、外物ニ制取セラレ、止ムナキ曉ニ至ラバ、寧ロ一死以テ此ノ征服ヲ免ルルハ、優レルニ若カズ。自ラ身ヲ殺シテ自然ヲ全フスルハ、賢人ノ爲ス所ナリ。自殺モ亦貴重ナル吾人ノ義務ナリト。現ニ此ノ學派ノ開祖ツェーノン「モ二祖」クレアンテース「モ自殺シテ其ノ所信ヲ實行セリ。而シテ此ノ精神ハ又自己ノ權限ヲ死守スルト共ニ、其ノ權限外ニハ望ヲ斷チ、濫リニ其ノ權限ヲ忘レ、外界並ビニ他ノ權限ニ奪ハルルコトナキヲ命ズルモノニシテ、是レ羅馬法制ヲ貫通スル其ノ大精神ナリトス。」「ストア」ガ自殺ハ結局運命ニ勝テヌコトヲ豫想スレバナリ、其ノ場合ニハ自ラ進ミ内部ノ力ヲ以テ其ノ運命ヲ實現セント努カスルナリ。

「ゾークラテース」ハ内界ヲ自然ト見ル「ストア」ノ「ツェーノン」ハ彼ノ此ノ方面ヨリ出發スル者トイフベシ。故ニ「ストア」ノ自然ハ性ニ在リ内ニ在リ。外界ノミガ自然ナリ客觀ノミガ實在ナリト思フハ誤ナリ、主觀ナクシテ何ゾ客觀アラン人ナクシテ何ゾ物アラン。自己ノ權限内ノ事ハ死ヲ以テ守ルモ、他ノコトハ敢テ關セズ。前ニ「ツェーノン」ニヨリテ「ストア」學派ノ出來シハ「ツェーノン」ガ「ゾークラテース」ノ性格ヲ聞キ悦レ惚レシタルニ在リ。故

羅馬法

大ニ表現ノ域ニ接近ス

基督教ノ理想トスルコト

權勢ヲ自然ノ理法ニ合セシメ規律モノナリ

ニ自然ニ從フトイフモ、科學者ハイフ所ハ自然ニ非ズ。理體神ガ吾人ニ現ハレテガルニヨリ其ノ目的ニ適フ如ク各人ガ人格ヲ發揚スルガ宇宙ノ大目的ヲ發展スル方法ナリ。無記ノモノ即チ名譽ノ爲ニナスト云フガ如キハ頓斷ニアラズ。人ノ誇リヲ恐ルルガ如キモ己ニ不可ナリ、健康ニナリタイ死スルヲ恐ルルトイフガ如キモ宜シカラズ。苦樂モ無ク斯カルモノニ對シテ、平然トシテ自分ヲ動かサズ、又動かサレズトイフガ結論ナリ。

自己ガ宇宙ノ顯現者タルノ根據ヲ失フトキハ、即チ人格完成ニ矛盾スルトキハ、自己ハ存スルノミニシテ、宇宙ノ顯現者ニ非ザルヲ以テ外界ニ支配セラレシナラバ、其ノ時ハ自殺ノ義務アリトセリ。「ストア」ハ定命說ヲ認メテ居ル故ニ斯クイフガ、コレハ又ドコマ「デモ自由デア」ルコトニ重キヲ置キタル方面ナリ。基督教ニテモ實際上ハ死スル時只死スルハツマラヌ故、自分ノ信仰及ビ之ニ伴フ意思ノ強キヲ示サンガ爲ニ、殊更苦ンデ死シタル人モ澤山アリ。日本ノ武士ガ疊ハ上ノハ、タレ死ニテ恐レテ寧ロ戰場ノ打死ヲ無上ノ榮譽トナセシト同様ナリ。日本人ノ死ニ方モ切腹トイフ一ノ形式ニヨリテ死スルノテ、死ヲ恐レヌ人間タルコトヲ重ンズル爲ニ死スルノテアル。基督教モ主義ハ異ナラズ、中世以降該教ニテ自殺ヲ不可トスルモ根本理由ハ一ニ歸ス。

第五 個人ノ良心及ビ義務ヲ道德論ノ中點トナス。

「ストア」學徒ハ當時ノ個人的思潮ニ乗ジ、自然ヲ尊ビ個人ノ完成ヲ目的トセシガ「ソフ」「ストア」輩ノ如ク徒ラニ個人ノ物欲ヲ是認シ、權勢ヲ以テ自然トナシ、各人ガ

「ストア」主義
は國家主義
個人主義ナリ

利己心ノミ
ハ勿論ハ義
利ノ思想モ
非ズ

大ナル全部ノ顯現者タルコトヲ忘レタルモノト異ナレリ。又個人ノ人格ヲ重
ンズレドモ「エピクローロス」ト異ナリ其ノ法律的ノ世界國家並ビニ家族ヲ是認セ
シガ故ニ宛モ各個人ノ獨立ノ尊重ハ其ノ全部ハ發現者タル性質ヲ意識セシム
ルコトトナレリ。此ノ種ノ個人主義ハ汎神論ノ正當ノ根據ノ上ニ成立スルモ
ノニシテ各單純獨立人ガ其ノ最小限度ノ義務トシテ分擔セザルベカラザル所
ナリ。其ノ最小限度ノ分擔ヲ發現關係ニツキ意識シ之ヲ各自ノ真正ナル義務
ニ高メタルモノハ實ニ「ストア」トナス。而シテ此ノ義務ヲ次第ニ他ノ義務ニ擴
張スベキコトハ後人ノ任務ナリ。

「ソフピスト」ハ道理ノ如キハ少シモ眼中ニ置カザリシガ「ストア」ハ大道理體「ロゴス」ニ重キナ置
キタリ是レ大ニ「ソフピスト」輩ト異ナル所ナリ。故ニ羅馬ニ入りテ大ニ義務權利ノ思想ヲ養ヘ
リ。「エピクローロス」ハ個人ヲ尊ビシモ國家家族等ハ全部ヲ認メテ故ニ發現關係ハ明ラカナラ
ズ。法律學上義務ノ精神ノ確定セシハ「ストア」ニ於テトス。

希臘在來ノ道德的思想ハ「ソークラテース」ニヨリ主タル地位ニ高メラレ「プラ
トーン」以下ニヨリ次第ニ分析セラレタリ。又希臘人ノ幸福ヲ求ムル所ハ「デー
モクリトス」ノミナラズ「ソークラテース」ニモ見ユ、應テ「エピクローロス」ニヨリ各個

日本武士道

人ノ安樂平靜ニ結晶セラレシガ。「ストア」學徒ハ是等ヲ以テ満足セズ各個人ハ
安樂安泰ハ如何ニ大ナルニモセヨ結局道德ノ極致ニ非ズトナシ之ニ對シテ是
等ノ理由ヲ離レ意思良心並ビニ人格義務ノ觀念ヲ最モ統括的ノ表面ニ認メ人
格ハ完成ヲ以テ自然ニ對スル義務タルガ故ニ實行セザルベカラズトセリ。此
ノ點ハ終ニ基督教ニ於テ身ヲ殺シテ信仰ヲ全フシ其ノ教ヲ普及スルノ理想ト
結合シテ雄偉ナル人物ヲ養成スルニ至リタルモノトス。日本武士道參照 在來ノ哲
學ニテ認メラレタルモノハ客觀的ニ「イデア」界ニ存スル至善ナリ。又ハ各人ノ
善福ナリ。又ハ快樂ナリ。又必然ナリ蓋然ナリ。之ニ對シテ良心ヲ根據トシ
所謂人格ナル意識義務ノ觀念ヲ以テ道德論ノ中心點トナシ當然ヲ主義トセシ
ハ法律學ノ發達ニツキ「アルキメデース」ノ點ヲ與ヘタルモノニシテ「ストア」不滅
ハ偉功ナリ。「アルキメデース」ハ時代ノ物理學者ナリ。

禪宗ハ其心
義務ヨリ一
歩ヲ進ム

「アルキメデース」ノ槓桿ノ點ガ捉ヘ所ナリ鈎點ナリ。此ノ大切ノ點ガ吾人ノ良心ナリ。法
律學ニ於テ殊ニ然リ。故ニ直チニ後ニ現ハルル懷疑派ハ知識ハ當テニナラズトセリ。良心
義務ハ法律學道德學ノ大切ナル點ナリ。禪宗モ同シ點ガアル。「ストア」ニイハスレバ何故ト

古神道ハ和魂ノ上ニ立ツ重ス

イハバ爲サナケレハナラヌ故爲ス良心ハ命ナリトイフ。良心トハ何ゾ。神ナリ神ノ命ナリ、「ロコス」ノ命ナリ、心靈ノ命ナリ。基督教モ此ノ精神ヲ採用セリ。唯基督教ニテハ自殺ハ自分ノ希望ヲ捨テテシマリ故意氣地ガナイガ他ノ爲ニ殺サルルコトハ辭スベキニ非ズトナス。自分信仰弘通ノ爲ニ死スルハ名譽トセリ。故ニ無間ニ殺サルルコトヲ喜ビテ、弊害多カリシガ弊害ヨリモ其ハ貢獻ハ非常ハモハナリキ。歐人ハ強キ魂ハ此ハ精神ニテ鍛ヘラレタルニ由ル。日本人モ之ト同シク古神道ノ信仰ニヨリテ生活スルヲ以テ、例ヘバ戰爭ニモ強イ。天草ノ亂ノ如キ日本人ガ此ノ基督ノ精神ニ結ビ付キシヲ以テ、中中強カリシナリ。

第六 義務。

義務ナルガ故ニ義務ヲ實行シ、義務ナルガ故ニ人格ヲ完成スベシ、是レ良心ノ命令ニシテ理性ノ指示ナリ、即チ一神ノ目的ナリ。抑モ人間ハ根本的ナル良心ハ命令ヲ聞キ、理性ノ指示ヲ受クルトキハ、徒ラニ生ヲ欲シ快樂ヲ求ムルモノニ非ズ。然レドモ此ノ純粹ナル命令及ビ此ノ指示ヲ識別スルコト難シ。人間ハ一神ノ目的ニ歸一シ、佳境ニ入レバ、又苦痛ヲ厭ヒ死ヲ怖ルルモノニ非ズ、然レドモ此ノ境遇ニ入ルコト難シ。先ヅ此ノ境遇ニ己ヲ置カシメ、此ノ命令ヲ感得セシメントセシ先人ハ「プラトーン」ナリ、此ノ地位ニ立チテ其ノ目的ノ爲ニ利用ス

故ニ表現ノ根據ニ立ツナリ

ベキ道具ヲ用意シタル者ハ「アリストテレース」ナリ、之ヲ斷行スルノ勇氣ヲ修養セシメタル者ハ「ストア」ナリ、即チ「ソークラテース」ノ斷行方面ナリ。此ノ仔細ノ吟味ト緻密ナル發達トハ後代ニ遺サレタル事業ナリトス。「ストア」ハ此ノ佳境ニ必要ト

各人ハ其ノ境遇ニ當テハマルコトガ大切ナリ、自己ノ適所ヲ求メ、分擔ヲ明ラカニシテ其ノ權限ヲ守ラザルベカラズ。「ストア」ガ斷行スル方面ニツキテ明ラカニセシハ「ソークラテース」ガ平然毒ヲ仰ギテ死セシ所ヲ發揚セシニ在リ。

「ストア」學徒ハ各自ニ適應スル境遇ヲ求ムルニ焦慮スベキコトヲ要求セザルノミナラズ、之ガ爲ニ心ヲ動カサルコトヲ惡事ト認メタリ。故ニ彼等ニ從ヘバ、自己ニ適應セル境遇ニ在ルガ故ニ喜ンデ、其ノ義務ヲ行フガ如キハ、尙模範トナスニ足ラズ、逆境ニ處シ失意ノ境遇ニ居リナガラ、毫モ亂ルルコトナク其ノ良心ノ指揮ニ違ハザルヲ主義トナス。但シ後期ノ「ストア」學徒ハ此ノ境遇ヲ識別シ、又心ヲ奪ハレザル範圍ニ於テ境遇ヲ擇ミ求ムルコトハ必ズシモ惡事トナサザルコトハ曩ニ述べタルガ如シ。

第七 正義。

「ストア」學派
愛ヲ非ガザ
ルニ非ズ
ダ真心義務
ニ重キノミ

「アリスト
テレス」
ノ分與的正
義參照

聖沙御前求
ヘ深ノ言ヒ傳

「ストア」ハ個人主義ナリ。併シ之ヲ統括スル宇宙ヲ認メ、其ノ中間ニ存スル家
族國家等ヲ是認セリ。故ニ其ノ他人ニ對スル關係ハ詭辯論者ト異ナレリ。先
ヅ各個人間ニ於テハ正義ヲ重ンジ、普遍的同情即チ惻隱ノ心ヲ主義トセザルベ
カラズ。而シテ其ノ正義トイフハ、自ラ其ノ本性ニ違ハザルガ如ク、他ノ各個人
ハ本性ヲ損ヒ其ノ意思ヲ輕蔑セザルヲイフ、其ノ權限ヲ謬ラシメザルヲイフ、其
ハ得ベキモノヲ與フルヲイフナリ。(「アリストテレス」ノ分與的正義參照) *omni
um cuique tribuere* トハ爾後現今ニ至ルマデ常ニ歐洲ヲ支配シツツアル思想ナリ。
斯ノ如ク「ストア」ハ同情ト正義トヲ主義トシテ、人格ノ完成ヲ説ケドモ、愛情ノ
點ハ尙比較的背後ニ存スルガ故ニ、其ノ人格ノ完成モ主トシテ自己ノ人格ニツ
キテイヒシモノニシテ、他人ニツキテハ之ヲ害セザレバ足レリトスルモノナリ。
(消極的ナリ) 是レ愛情ヲ主トシ、我ヲ忘レ、一意君父主人其ノ他ノ人格ノ完成ヲ
目的トシツツ生活スル日本古神道及ビ武士道ニ及バザル要點ナリ。

「ソフキスト」輩ト異ナリ「ストア」ハ、狹キ然純タル利己的個人主義ニ非ズ、自己ノ人格完成ヲ主義
トセシト同時ニ宇宙ヲ認メ、中間ノ國家ヲ認メ、正シキ同情ヲ標榜シ、各人ノ關係ヲ圓滿ニセシ

日本古神道
及ビ其ノ根
據ニ存スル
武士道

古神道ハ神
ナガラ言舉
セラレズ

人間到處在
青山

トセリ。正義トハ他人ノ人格ヲ傷ツカベカラズイトフコトナリ、客觀的ニハ *summa cuique tribuere*
トイフナリ。各人ニ各人ハモハチ分與スルト云フコトヲ重ンジタリ。「アロイセン」國ノ勳章
ニハ *summa cuique tribuere* ト書キアル。「ストア」ノ考ハ、自己ノ人格完成ノミナラズ、他人ヲ害シテハ相
成ラントセリ。但シ日本ノ武士道ニ比スルトキハ、尙大ニ個人的ナリ。日本ニテハ他人ヲ害
スル勿レハ程度ニ非ズ、和魂ヲ奉ジツツ自己ノ人格ハ完成ハ、擲ニ上ケテ、君ノ爲主人ノ爲親
ノ爲子ノ爲、其ノ人格ノ完成ヲ主トセリ。之レ日本古神道及ビ武士道ノ特色ナリ。一歩進
テ自己ニ執着セヌ所ガ美ナリ。但シ日本ノ古神道武士道ハ理窟ニ非ズシテ信仰ナリ習慣ナ
リ。「ストア」ノハ慣習ニ非ズシテ哲理ノ上ニ立ツ點ガ實ニ異ナル所ナリ。自己ノ人格ノミニ
拘泥セヌコトハ人ノ爲セシ行動ニツキテ責ヲ負フニテ解カル。之ヲ除ク爲ニ自身ヲ殺スト
イフガ如シ。聖婆御前ノ如キ人ノ行爲ヲ自己ガ責ヲ負フテ、惡シキ原因ヲ消滅ス、斯ノ如キ考
ハ少クモ「ストア」ニ於テハ見ルコトヲ得ズ。

第八 國家。

次ニ「ストア」ハ公共心ヲ重ンジ、國家生活ヲ必要トセシガ、「プラトーン」「アリスト
テレス」ノ如ク、國家ヲ以テ「小市國」ニ限界スルノ愚ヲ笑ヒ、人類ヲ包容スル大國
ヲ以テ其ノ理想トセリ。何トナレバ吾人ハ唯一ノ神ノ發現ニシテ、唯一ノ神ノ
法ニヨリ支配セラルルコトヲ理想トスベケレバナリ。人間ハ皆同一ノ大道ヲ

踏ムベキモノナレバ、國家ノ存在ノミガ目的ニ非ズ、各人ハ又直接ニ神ノ顯現者トシテ、尙獨立ノ性質ヲ有シ、相互ニ交通スベキモノナリトセリ。但シ之ガ爲ニ由ノ權利ヲ主張スルコトニ至ラザリシハ、尙一面ニ於テハ部分ハ個人ノ此ノ自由全部ヨリ絕對ニ定メルコトイフ思想ヲ有セシ影響ニ外ナラズ。此ノ故ニ「ストア」ハ「キニコス」學派ノ世界主義ヲ收容シ改善シタルモノナリ。羅馬帝國ノ擴張ニ「ストア」ノ淺カラザル關係ヲ有スルコトハ、何人モ已ニ之ヲ知ルコトヲ得ベシ。(特ニ「ヘーラクライトス」ノ道德論參照)

「ストア」ハ國家法律論ニツキ性法說即チ自然法說ヲ唱ヘ法制ノ發達ニ著シキ效果ヲ與ヘタルモノナリ。

性法ト自然法トハ必ズシモ同ジカラズ。タダ「ストア」カライヘバ自然法ハ即チ性法ナリ。日本ハ鎖國シテ居タコトモアルガ、其ノ根柢ニハ汎神論並ビニ自由觀念論ノ精神在ルヲ以テ、何處マテモ已チ擴張スルコトヲ主義トス。是レ古神道ノ要求ナリ。

第九 結論。

「ストア」ノ學說ハ其ノ動カザル義務心並ビニ人格完成ノ主義ニヨリ次ギノ如ク驚クベキ反對ノ要素ヲ包容セリ。例ヘバ、一 認識ニツキテハ感覺ヲ主トシナガラ、尙理性及ビ有意ヲ要件トスル判斷ヲ必要トシ。二 知識ノ役立ツコト

ヲ説キナガラ、尙連結スルニヨリテ生ズル高等ノ知識ナルモノハ各自ノ人格ニヨリテ支配セラルルコトヲ論結シ。三 唯物論的物質ヲ採用シナガラ、却ツテ益精神ヲ重ンジ。四 汎神論ヲ採用シツツ、汎理論ヲ採リ、汎理論カト想ヘバ汎意識ニ似タル點アリ、汎意識カト思ヘバ又同情ヲ説ク。五 唯物論カト思ヘバ機械論ヲ採ラズシテ目的論ヲ採リ。六 客觀的自然ヲ主トシツツ、之ガタメ反ツテ其ノ發現者タル個人ノ主觀ヲ神聖ニ見。七 人格ノ完成ヲ期スルト共ニ、其ノ爲ニ反ツテ沒我ニ近キ寡慾ヲ理想トシ。八 個人ノ幸福ヲ是認シツツ、反ツテ幸不幸ヲ顧ミズ。九 個人ノ生存其ノ自衛ヲ最小限度ノ義務トシツツ、自殺ヲ正當ト看做シタリ。十 其ノ他理體ヲ以テ神夫自身ト認メ、各自ノ理性ヲ其ノ顯現ト認メタレドモ、之ト對立スル個人ノ物欲アリ。十一 吾人ハ又理法ハ顯現者デアリナガラ同時ニ目的ヲ以テ充タサレ且意思ヲ有シ。十二 又吾人ハ自然界ニ於テ嚴格ナル必然ヲ免レザレドモ、道德界ニ於テハ意思ノ自由ヲ失ハズ。十三 終リニ「ストア」ハ個人主義ヨリシテ國家主義世界主義ヲ唱ヘ、克己ヨリ修練シテ世界ニ克チ自ラ己自身ノ主人タルコトヲ學ビ、之ヲ擴張シテ世

界的國家ヲ建設セシメタリ。(此ノ點ハ殊ニヘーラクライトスノ國家論佛敎哲
理大人本位論參照) 此ノ學派ガアリストトレースノ二元的對立ヲ排斥シ汎神
論ヲ唱ヘタルモ實ハ此ノ克己ノ要求ニ基ヅクモノナリ。

斯ノ如ク「ストア」ハ有ラユル思潮ヲ其ノ學說ニ採用セシガ哲理トシテハ人
ニ重ク且寧ロ卑近實際的ナリシガ故ニ各種ノ反對矛盾ハ之ヲ統一シ悉クス
トナク折衷的ノ色彩ヲ帶ベリ。其ノ主要ナル點ハ最モ根本的ノ原理ニ高メラ
「レタル物活論」ニ在リ單純ニ精神ヲ有スル物質ヲ認メタル點ニ存ス。然レドモ
ストアノ學說ハ單純ナル折衷編纂又ハ混合ヲ事トスルモノニ非ズシテ其ノ道
徳論ノ活キタル精神ニヨリ實行上必要ナル各方面ヲ連結シタルモノナリ。是
レ此ノ學派ノ哲理ガ實行ト離ルルコトナク大ナル羅馬ノ建設ニ貢獻シ且在來
ハ希臘哲學ニ對シテ特色アル所以ナリ。「ストア」學派モ亦偉大ナル哉。

第四節 懷疑學派

目次

- 第一款 總說
- 第二款 前懷疑學徒
- 第三款 第二第三「アカデミー」學徒
- 第四款 後懷疑學徒

第一款 總說

懷疑學派ハ在來唱導セラレタル各種ノ哲理ガ相互ニ矛盾反對セルヲ見且當
時ノ政治生活ニ於ケル動搖ニ影響セラレ哲學上消極的論結ヲ主張セリ。知識
ハ凡テ感性知覺ヨリ生ズルモノナリ然ルニ感性知覺ハ外界ノ實有其儘ニ非
ズシテ主觀的ノモノナリ。吾人ハ如何ニシテ知識ノ眞ト妄トヲ辨ジ得ルカ之
ヲ判斷スルモノハ皆吾人ノ外ニ出デザレバ吾人ノ觀念ガ外界ノ實有ニ合一ス
ルト否トヲ知り得ベキ筈ナシ。知覺ハ元判斷ニ非ズ知覺ヲ材料トシテ推理シ
判斷ヲ下スニハ主觀的ナル公理 Axiom 並ビニ前提 Premise ヲ用キザルベカラズ。
是故ニ吾人ガ外界其ノ儘ヲ眞ニ知り得ベシトスルハ誤レリ。是レ此ノ學派ガ

「プラトーン」アリストテレース以下ニ對スル攻撃ナリ。

佛教空論示參照

此ノ學派モ大切ナリ。是ナク羅馬中世近世ノ思想ト連絡ヲ有セズ。佛教モ空論ヲ通リテ、眞空論唯識論ガ發達シ活キテ來タノト同様ナリ。

第一 此ノ懷疑ハ希臘ニ於テ、已ニ古ヨリ次第ニ發達シタルモノナリ。先ヅ「エレア」學派ノ「ツエーノーン」及ビ詭辯論者ニヨリテ著シク意識ニ高メラレタルガ、「ソークラテース」學徒中ニ於テモ「アンチステネース」ハ個個ノ知覺ヲ認ムレドモ、一般ニ概念ヲ認ムルコトヲ拒ミ、其ノ結果知識ヲ輕ンジテ實行ヲ貴ビタリ。「アンチステネース」ト反對ノ地位ニ立テル「プラトーン」モ知覺ヲ以テ主觀的ノモノトシ、概念ヲ以テ實有ニ合スルモノトセリ。然ルニ概念ハ元主觀的ノモノナレバ、概念ノ客觀的實有ヨリ其ノ主觀的方面ニ重キヲ置クニ至ルト共ニ「プラトーン」ノ學說ガ懷疑說ニ轉化スベキハ又自然ノ勢ナリ。

大袈裟ニ疑ヒシハ此ノ學派ナレドモ「エレア」學徒「バルメニデース」モ皆懷疑的ノ分子ヲ有ス。「ソークラテース」「プロタゴラス」ニヨリテ感性知覺ノ當テニナラヌコトヲイヒタリ。「ソークラテース」テサヘ不識トイヘリ「プラトーン」モ個個ノ現象ハ當テニナラヌ、概念テナクテハナラヌトセリ。概念ト主觀ト離レタルモノテナク又實在トモ離レタルモノニ非ズ。疑フテミレバ概

念トハ主觀的ニ存在スルモノナリ。

第二 懷疑學派ハ客觀的實有ガ思惟ニ映ズルモノナリトナス、總ベテノ獨斷ヲ打破セント試ミタル者ナリ。在來ハ大體人ノ精神ガ實在ヲ認識シ得ベキコトヲ前提シテ、知識ノ總ベテヲ集メテ宇宙ノ存在ヲ認メタリ。之ニ反シテ吾人ノ理性ト雖モ、元來主觀的ノモノ故、其ノモノニヨリ外界其ノ儘ヲ知り得ベシトスルコトハ信用シ難ク、知覺モ亦信賴シ難キコトヲ斷定シタル者ハ即チ懷疑學徒ナリ。

今日モ一般ノ人士ガ吾人ノ知識ハ人間ハ精神ニ外界ガ映ルモノト思ヘリ、故ニ知識ハ其ノ鏡ノ如シトイフ。懷疑派ハ此ノ說ヲ打破セシガ、未ダ時代ガ許サズ消極的ニシテ積極的ニ哲理ヲ構成スルニハ至ラザリキ。

第三 然レドモ是等ノ懷疑學徒モ、尙一方ニハ人間ガ論理的ニ思惟スル能力アルコトヲ前提セシモノナリ。之ニモ拘ハラズ、其ノ思惟ト外界トノ關係ヲ批判セザリシハ缺點ニシテ、此ノ點ハ「カント」ニ至リ初メテ成功ヲ以テ試ミラレタルモノナリ。「ソークラテース」タル「プロタゴラス」ハ、外物ト吾人ノ意識ニ浮ベル對象トヲ區別セシガ、希臘ニ於テハ終始外界ニ何等カノ實在アリテ吾人ヲ刺激ス

把信論ノ三
界處爲ノ論

ル〇コトヲ疑ハズ。是レ懷疑學派ニヨリテスラ拒マレザリシ所トス。「フキヒテ」ノ唱ヘタルガ如キ、主觀的觀念論ハ希臘人ノ決シテ想像シ得ザリシ所トス。(パルメニデース)ノ所ニ舉ゲタル起信論ノ文句參照)且、懷疑學派ハ、人智ハ眞ナルコトヲ疑ヒ、之ニ關シテ種種ノ法則ヲ立テタルガ、何故ニ是等ノ法則ノミ、眞正ナルカヲ討究スルコトナカリキ。是等ハ皆古代懷疑派ノ制限ナリトス。

「プロータゴラス」ハ知覺ノ對象ハ外物夫自身ニ非ズ、何カ分ラヌ吾人ノ意識ニ浮ベルモノニ過ギズトセリ。意識ニ於テ存スルモノヲ對象トシテ考ヘ、知覺スルハミトセリ。

第四 懷疑學派ハ自ラ積極的ニ知識ノ根柢ヲ確立セザリシカ、在來知識ガ外部ノ實在ニ相應スルモノト考ヘ其ノ萬能ヲ認メタルコトヲ排除スルノ功績アリシ者ナリ。之ニヨリ一ツニハ知識ト並ビテ認定ヲ是認シ、羅馬人ノ大ナル認定生活ヲ認メ、且助長セシムル扶ケトナリ、ストアノ知識ヲ打破シツ、其ノ實修論ニ勝利ヲ得セシメタリ。又一ツニハ思潮ヲシテ宗教時代ニ變遷セシムル縁トナリ、殊ニ基督教ノ勝利ニツキ有力ナル土臺ヲ附與シタリ。

人智カ外界其ノママヲ見分ケ得ルナラバ、知識萬能ナリ。今迄希臘ニテ知識ガ貴バレシハ、主觀以外ニ外物在リ之ガ實有實在ナリ、本體ナリトセリ。之ヲ見分ケル力ヲ最高力ノモノト

見タリシガ、外物ハ在レドモ、實ハ知識ニヨリテ外物ガ分ルノデハナク、知識ハ價值アルモノニ非ズトナシ、ドウカ仕ナケレバナラヌトテ、別ニ異ナリタル方面ニ向ヒ來レリ。故ニ羅馬ハ認定即チ意思ニ重キヲ置クニ至リシガ、此ハ認定モ安心ガナラヌ故遂ニ信仰ニ依ルニ至レリ。

第二款 前懷疑學徒

「アレクサンドロス」大王時代ニ於ケル「ピルローン」Pyrrhon約360-約270及ビ其ノ徒ヲ前懷疑學徒トナス。「ピルローン」ハ懷疑論ト「アレクサンドロス」ノ東征ト共ニ希臘人ハ眼界ハ擴ガリタルコトト離ルベカラザル關係アリ。「ピルローン」自身ハ「アレクサンドロス」ノ東征ニ從ヒ、諸國ヲ巡歴シ、到ル處思想ヲ異ニシ、知識ヲ別ニスルヲ感ズルコト切ニシテ、在來ノ希臘哲學ノミヲ是認スル能ハザルヲ知リタリ。恰モ當時ハ印度ノ佛教空宗ノ起リシ頃ナレバ、恐ラクハ又其ノ影響ヲ受ケシモノナルベシ。(佛教ノ一説部 Ekavyahrikā ノ說參照)此ノ頃ハ一般ニ彼我ノ思想ノ混亂セシ時代ニシテ、恰モ中世十字軍ノ遠征ニヨリ、基督教「スコラ」哲學ノ世界ニ、亞刺比亞ノ思想ガ注ギ來リ、東西ノ文化基督教及ビ回回教ノ教義ガ錯綜スルニ至リタル時代ニ酷似セリ。

佛教空觀ノ影響

「ピルローン」ハ「エリス」Erisノ出ニシテ、夙ニ「エレア」派ノ「ツノーノン」Zenon 並ビニ詭辯論者ノ説ヲ知リシガ、諸國ヲ踏破シテ其ノ懷疑ノ念ヲ確證セシメ、又「ソークラテース」ノ性格ヲ貴ビ、彼ノ不識ノ結論ヲ信ジタリ。彼ハ先ヅ「アンチステネー」ス「及ビ詭辯論者」プロータゴラス「ノ知識論ヲ利用シテ曰ク、知識トハ元感性知覺ニヨリテ得タル材料ニ基ヅキ、唯思惟ニヨリ秩序立テラレタルモノナリ。然ルニ感性知覺ハ、實在夫自身ヲ示スモノニ非ズシテ、各人各別ナル主觀的ノ意識ニ外ナラズ。外物夫自身ノ如何ナルモノナルカ、之ト知覺トガ如何ナル關係ニ立ツカハ正確ニ意識シ得ザルノミナラズ、知覺ハ一トシテ誤ナラザルモノナシ。人間ノ思惟モ各自ノ見ル所ヲ根據トシテ以上ノ不完全ナル知覺ヲ組成スルモノナルガ故ニ、信用シ得ベキ理由ハ毫モ之ヲ見出スコト能ハズト。

物モ表面ヲ見レバ裏ハ見エズ。四角ノモノモ四角ニハ見エズ。同一物ニテモ見方ニヨリテ異ナル、一トシテ真正ニ見得ルモノナシ。音聲亦然リ、當方ノ考ヘ方次第ニテ異ナル、至極尤モナル論ナリ。

然レドモ彼ハ此ノ結論ニヨリ知識ヲ輕視スルト共ニ、「ソークラテース」ノ傾向ヲ帶ビ、人生ノ目的ヲ以テ善福 Eudaimonia (εὐδαιμονία) ニ在リトシ、善福ヲ達スルガ

「アリストテレス」ノ善福参照

創設セラレタル法自然法ヲ認メズ

至道無難唯據棟樑

爲ニ、實修並ビニ實行上ノ規則ヲ必要トスト考ヘタリ。吾人ノ職分ハ實在ノ如何ナル者ナルカラ知ルニ在ラズ。理法ガ如何ニ吾人ニ行動ヲ指示スルカヲ知ルニ存セズ。又吾人ノ行動ガ實在ニ與フル影響ヲ知ルニモ在ラズ。サレバ吾人ハ如何ナル判斷ヲモ下スコト無ク、總ベテハ主張ヲナスヲ控ヘザルベカラズ。偶然ナル判斷主張ヲ真ナリトスルガ故ニ、之ニ執着スルコトトナリ、是等ニ執着スルガ故ニ、其ノ自由自在ヲ失ヒ、反ツテ外界ニ支配セラレ、自己ノ平靜不動ノ心ヲ失フニ至ルベシ。賢人タルノ要義ハ難キニ非ズ、唯 Epoché (ἐποχή)「決定セル判斷ヲナスコトヲ避クルコト」ニ在リ。而シテ實修上ニ必要ナル規則並ビニ習慣ハ如キモ、吾人が創設シタルモノニシテ、客觀的ニ存スル實在ニ非ズ、總ベテ夫自身普遍ヲ有スル自然法ニ非ズシテ認定法ナリ。nomos (νόμος)ナリ。到ル處矛盾反對シツツアルモノナリト。茲ニ至リテ知識ニ對スル認定ガ漸ク重キヲ爲スニ至リタルモノナリ。最小限度ニ於ケル知識ノ前提ヲ除キ認定ヲ踏マザル知識トテハナシ、況ヤ風俗習慣ニ於テオヤ。

結局知識ト認定ト異ナルが吾人ノ知識中ニハ認定ガ澤山入りアル。認定ヲ主トシテ見レバ必シモ各一致スルモノニ非ズ、各異ナル認定ヲ下シ得ル故ナリ。
吾人ハ是非ノ判斷ヲ止メザルベカラズ。各人ニ對シテモ或人ヲ是トシ或人

ヲ非トスベカラズ。人ヲ是非スルコトハ誤ナレドモ、人格ノ平靜ナルハ眞ノ善福ニシテ、吾人ノ期スベキ所ナラザルベカラズ。即ソークラテース及ビアンチステネースノ影響ノ下ニ在ルコト疑ナク、又佛教空宗ノ目的トスル寂靜ナル涅槃ノ大安樂ト異ナルコトナシ。唯異ナル所ハ「ピルロロン」ハ尙全クハ吾人ノ生活活動ヲ廢止スルコト能ハザルモノトシ、止ムヲ得ズ。社會ノ風俗習慣ニ從フベキモノトナシ、此ノ種ノ法則 *nomos* ヲ尊重スベキコトヲ説キタル點ニ在ルノミ。

第三款 第二第三アカデミー學徒

「プラトーン」ノ「アカデミー」Academia 學派ノ懷疑論ハ、第二アカデミー「アルケジラオス」Arcesilaos 215-1 ノ始ムル所ニ係ル。彼ハ「ストア」ガ感性知覺ノ上ニ得タル觀念ヲ眞ナリトスルニ反對シ、且「プラトーン」ガ思惟ニヨリ、普遍的ノ知識ヲ得ベシトシタルコトヲ排斥シタルドモ、「ピルロロン」ノ如ク、全然知識ヲ否定シ一切ノ判斷ヲ止ムベキコトヲ説キタル者ニ非ズシテ、知識ノ蓋然性ヲ主張セリ。彼ニ後ルルコト百年ニシテ「カルネアデース」Karneades 214(3) アリ。「カルネアデース」

ハ第三アカデミーノ創立者ニシテ、此ノ世紀ノ最モ著名ナル學者ノ一人ナリ。彼ハ「アルケジラオス」ノ蓋然論ヲ祖述シテ曰ク。知識ハ總ベテ感性知覺ヲ材料トシテ、其ノ背後ニ存スルモノヲ判斷スルモノナルガ、之ニヨリテ得ベキ概念ハ種種アリテ、絶對ニ其ノ眞僞ヲ判定スベキ標準ハ何處ニモ之ヲ求メ得ベキナシ。何トナレバ、總ベテハ證明ハ、其ノ前提ハ、確實ナルコトヲ要スレドモ、是等ノ前提ハ、根據ハ、何時モ眞僞ノ疑ハシキ、感性知覺ニ在ルガ故ナリト。(「ヒューム」Hume 參照)「ヒューム」ハ自ラ「アカデミー」學徒ナリト云ヘリ。

第一 知識ノ蓋然性。「カルネアデース」ハ知識ノ蓋然性ヲ主張シ、且概念ノ階級ヲ三段ニ別テリ。其ノ形式ハ龍樹ノ深般若波羅密多 Prajñā Paramitā ヲ行ズルノ段階ニ似タリ。但シ龍樹ガ懷疑ニモ亦執着セズ、但空ノ域ヲ脱シテ眞空ヲ求メタルモノトハ異ナリテ、「カルネアデース」ハ尙懷疑論者タルヲ失ハズ。彼ノ説ケル知識概念ノ程度ハ次ノ如シ。

一 各觀念ハ獨立シテモ、尙夫自身蓋然性ヲ有ス。若シ一觀念ヲ關係アル他ハ、數多ノ獨立セル觀念ニ比較シタル場合ニ、眞ラシク思ハルモノナルトキハ、

道慧智)

其ノ觀念ハ、夫自身獨立シテモ最モ低度ノ蓋然性ヲ有ス。是レ龍樹ノ所謂個個ノ差別ヲ識別スル道智ニ比スベシ。

道種慧智)

二 此ハ觀念ガ之ト關係アル他ノ眞ラシキ觀念ト矛盾反對スルコトナク、相互ニ調和スルトキハ其ノ觀念ハ一層高度ノ蓋然性ヲ有ス。是レ龍樹ノ道種智ト較ブベシ。此ノ道種智トハ、個個ノ差別智ノ根據トナル差別洞察ノ智慧ナリ。

「カルネアデース」ハ調和的ニ連結セラレタル個個ノ知識ニツキ、高度ノ蓋然性ヲ認メ、龍樹ハ此ノ連絡ニヨリ、又此ノ連絡ヲ可能ナラシムル根據タル知識ヲ道種智ト名ヅケタルモノナリ。

一切智

三 若シ相互ニ關係ヲ有スル總ベテハ眞ラシキ觀念ガ相互ニ調和シツツアリ、且初メハ一觀念ト是等トモ調和スルトキハ、是等ノ知識ハ最高度ノ眞ラシサヲ有ス。即チ一團ヲ成セル觀念ガ、揃フテ相互ニ他ノ觀念ノ根據ヲ爲シ、之ヲ保證シツツアル場合ナリ。龍樹ハ此ノ種ノ場合ニツキ、以上一切ノ知識ノ基礎ニ存在シ、其ノ總ベテヲ統括スル其ノ根本ノ無差別普遍ヲ達觀セシムル智慧ヲ一切智ト名ヅケタリ。

眞ラシキニモ程度アリ、一ツヲ取リ他ニ比シテ眞ラシキト關係アル知識ノ總ベテヲ取リテ見ルモ調和セバ、最モ眞ラシキモノナリ。龍樹ハ見方が異ナルモ、雙方ハ段階ハ能ク鈞合ヘリ。

「カルネアデース」ガ差別ヲ主トシ、感性知覺ヨリ歸納セラルベキ概念ノ段階ヲ列擧セシハ、經驗哲學上頗ル見ルベキモノナリ。之ト比較シタル龍樹ノ各知識ハ形式上似タル所アレドモ、實ハ重大ナル差異アリ。龍樹ハ感性知覺ニヨリ得ラルル差別ノ知識ヲ是認スレドモ、是ノミヲ出發點ト爲サズシテ、理性ニヨリ無差別ヲ洞察スルコトニモ重キヲ置キ、且是等各方面ハ、最少限度ニ於テモ相待タザルベカラザルコトヲ説キ、一切一時得ヲ以テ頓トイ本領トナシ、總ベテ此ノ無執着ノ智ヲ一切種智ト名ヅタリ。故ニ彼ハ懷疑ヲ説キ知識ノ蓋然性ヲ唱フルモノニ非ズシテ、一切種智ニ本ヅク各階級ノ知識ガ皆知識トシテ眞ナルコトヲ説ケルモノナリ。知識ガ意思感情ヲ排斥シテ、獨リ絕對ニ有效ナリトカ又、サレバ此ノ所ニ龍樹ノ般若ト比較シタルハ、其ノ形式ノ一端ノ似タル所以ヲ示シ、龍樹ノ真空論ト「カルネアデース」ノ懷疑論トカ、大ニ異ナル所アルヲ示サント欲シタルガ故ナリ。

決定ノ標準ヲ得ベキモノトナシ、彼自ラ人生ヲ中心トシテ之ニ用キラルル蓋然
 的知識及ビ其ノ階級ヲ明ラカニセント企テタリ。此ノ種ノ研究ハ知識ノ濫用
 竝ビニ獨斷ヲ破リツツ、尙知識ヲ拋擲セザラシメシモノニシテ、「ピルローン」ノ懷
 疑論ニ比スレバ大ニ穩カナレドモ、尙懷疑ニ執着シ、懷疑夫自身ヲ疑ハズ、知識ノ
 蓋然性ヲ知ルコトヲ以テ確實ノ知識ナリトシ、蓋然ニ一定ノ階級アルコトヲ獨
 斷スルハ尙此ノ論ノ貫徹セザリシ所ナリトス。此ノ弱點ニ着眼セシハ其ノ弟
 子「アスカロン」 Askalon ノ「アンチオコス」 Antiochos ナリ。「アンチオコス」ハ「ラリッサ」
 Larissa 出ノ「フローン」 Philon ト共ニ「アカデミー」派ヨリ出デ折衷說ニ轉ジタル者
 ニシテ、何レモ「キケロ」(シセロ) Cicero ノ師ナリ。之ヲ第四第五ノ「アカデミー」學
 徒トナス。

第四款 後懷疑學徒

「アカデミー」派ノ懷疑論ガ「フローン」 Philon 竝ビニ「アンチオコス」 Antiochos ニヨ
 リ折衷說ヲ採ルニ至リタルニ對シ、「ピルローン」ノ前懷疑論ヲ復興シタル者ヲ後

結局「アル
 キメ」點ヲ
 スレ即チ信
 仰ニ歸ス

Ainesidemos
 「アインシデ
 ーボス」

表現ノ域ニ
 達セントス
 ル要求益々
 切ナルヲ致
 ス

元ヨリ此ノ
 意味ハ未ダ
 心理學的認
 識論ニ非ズ
 ズ、懷疑ニモ
 執着セズシテ
 分析ヲ始メ

ノ懷疑派トナス。「エネシデムス」 Ainesidemos 之ニ屬ス。一紀元前 彼ハ十個ノ句
 Tropon ヲ立テ、Acrippa ヲヨリテ、五現象ノ背後ニ存スル客觀的ノ本質ハ到底知識ヲ
 以テ證明シ得ベキモノニ非ザルヲ論ジ、吾人ノ思惟ハ何時ニテモ下シタル斷定
 ニ對シ、正反對ヲ主張シ得ベシト説キ、各自ハ無知ナルコトニモ、偏執セズ、無執着
 ハ生活ヲ以テ平靜不動ノ根據トナスベシト論セリ。(禪宗ノ出發點參照)

アラユル知識ヲ集メテ矛盾セザル程確カラシサガ高シ。從ツテ終ニ「アンチオコス」ヤ「フ
 ローン」ニ至リテ折衷ニナリタリ。何レニモ執着スル勿レ、一先ツ今迄ニ出來タモノハ卻ケテ、
 更ニ始メヨトナセシガ、直ニ善キモノハ出來ズ、終ニ折衷說トナリタリ。折衷說ハ平面ノミナ
 取リテ並ベルモノ故不可ナリ。偶然ノ標準ニテ並ベルモノナリ。故ニ根本的ニ非ズ。併シ
 常ニ根本的ナルヲ望ム能ハザル故折衷モ又一法ニシテ、必ズシモ惡事ニハ非ズ。羅馬ハ折衷
 的ナリシガ此ノ哲理的根據ヲナシタルモノハ懷疑論ナリキ。

前懷疑學徒ハ、知覺及ビ思惟ハ吾人ヲ欺クモノニシテ、之ニ信用ヲ措クコト能
 ハズト論ジタリ。後ノ懷疑派ノ「セクストス」セムピリコス] Sextos Empiricos ハ人智
 ノ重要ナル二大源ヲ試験シタリ。「セクストス」 Sextus ハ醫師ニシテ、經驗ニヨリ
 テ得タル治療法ニ限ラザルベカラザルコトヲ唱導シタルガ故ニ「セムピリコス」

Empirikus ノ名ヲ得タルモノナリ。

紀元後二世 紀元ノ人。

後ノ懷疑派ハ前ト異ナリ、無知ニモ執着スル勿レトシ凡テ捉ヘ所ナカリシガ、アイネシデー
モスヨリ二三百年後ノ「エムピリコス」ハ實驗以外ニハ何モイフ能ハズトナセリ。從ツテ知覺思
惟ヲ分析シテ經驗ヨリ確カメントセリ。近世ニ至リテ研究チナシ大發達チナセシ端緒ナリ。

第一 感性知覺。先ツ感性知覺ガ知識ニ於ケル價值ヲ吟味セリ、但シ此ノ點
ニ就キテハ新機軸ヲ出セシモノニアラズ。

曰ク總ベテノ感性知覺ハ、外物ノ刺激ニヨリ意識ノ上ニ起サシメラレタ
ル影象ニ外ナラザレバ、其ノ影象ト外物自身トハ關係ハ知ラレ得ベキ、苦ナ
ク、影象ト外物自身トハ決シテ同一物ニ非ズ。而シテ知覺ハ元來吾人ノ主
觀的狀態ニ支配セラレテ成立スルモノ故、感官ノ狀態ニヨリ、又ハ吾人ノ心
持ニヨリテ、異ナラザルヲ得ズ。故ニ一物ヲ探ルモ、其ノ形體ハ遠近ニ從ヒ
異ナリテ見エ、又見ルト聞クトニヨリテ異ナル。小ナルモノ必ズシモ小ニ
見エズ、大ナルモノ必ズシモ大ニ見エズ。是等ニ對シテ主觀ト外界自身ト
ヲ結合スベキ標準在ルコトナシ。何トナレバ此ノ標準ハ常ニ吾人ノ主觀
的ノモノナレバナリ。要スルニ吾人ノ知覺ハ、夫自身獨立シテ絕對ニ有效

ナルモノニモ非ズ、又絕對ニ外物自身ニ符合スルモノニモ非ズ。知覺ハ、一
外物外部ニ存在、二中間物、三感官ノ影響ヲ受ケテ成立スルモノナリト。

「セツクストス」ガ始メテイヒシコトニハ非ズ。感官ノ狀態、中間物ニテ常ニ異ナリ、又外物自身
ニテ異ナル。實ハ唯漠然ト外物トイフモノナシ、然シ懷疑派ハ外物夫自身ガ存スト認メ、
此ノ學派ハ不要ノ如キモ決シテ然ラズ。知覺ガ當テニナルナラバ、法律ハ知覺ノ附屬物ナリ。
然ルニ當テニナラザレバ、コンナ知識モ其ノ儘デハ役ニ立タズシテ認定ガ大切トナル。知覺
ノ價值ニ應ジテ或ハ法律萬能トモナリ、或ハ知識萬能トモナリ、或ハ種種ノ論トナルナリ。

第二 悟性。

悟性ニヨル思惟ノ吟味ニツキテハ、活目シテ視ルベキモノ在リ。

一 三段推理及ビ歸納推理ノ眞妄ヲ疑フ。

イ 三段推理法。總ベテノ三段推理ハ前提ヨリ來リ、是等ノ前提ハ或ハ直接
判斷タリ、或ハ間接判斷タリ。直接判斷タル場合ニハ、或ハ經驗ヨリ得ラレタル
モノアリ、或ハ人間ノ心ノ働キヨリ取り出サレタル定義、公理、根本概念、並ビニ形
而上學ノ原則タルコトアリ。是等ハ何レモ主觀的ノ性質ヲ帶ビ、正確ナリトイ
フコト能ハズ。間接判斷ハ、二以上ノ直接又ハ間接判斷ヲ結合セシメテ得タル

